

I 開催趣旨

水はすべての生命の基礎であり、人を含む多様な生態系に多大な恩恵を与えてきました。湖沼は、農業や漁業、産業そして文化においても、きわめて重要な資源・資産であり、その環境の保全が重要です。

前回、1995年（平成7年）に茨城県で開催されました第6回世界湖沼会議では「人と湖沼の調和—持続可能な湖沼と貯水池の利用をめざして—」というテーマを掲げ、湖沼の利用と環境保全、淡水資源の確保と管理、湖沼の富栄養化や化学物質の影響について議論し、人間と湖沼の調和をとるべく意見交換を実施しました。更に、水環境保全活動の取組や環境教育に焦点をあてたことによって、多くの流域住民や市民団体が参加し、市民活動が活発になる契機となりました。会議以降、市民、研究者、企業、行政4者がパートナーシップのもと水環境問題に取り組んでいます。

近年、世界湖沼会議においては、生態系に関するテーマが議論されています。また生物多様性は人類の生存を支え、人類に様々な恵みをもたらすもので、生物に国境はなく、世界全体でこの問題に取り組むことが重要であることから、生物多様性条約が1992年（平成4年）に採択され、情報交換や調査研究等を各国が協力して行っています。

一方、日本においては、水が人類共通の財産であることを再認識し、水が健全に循環し、そのもたらす恵沢を将来にわたり享受できるよう、水循環に関する施策を総合的かつ一体的に推進するために、水循環基本法が2014年（平成26年）7月に施行されました。法律では、「水循環の重要性」、「流域の総合的管理」等を基本理念として掲げ、地方公共団体、事業者、国民それぞれの責務と関係者相互の連携及び協力について定めています。

食料や水の供給等生物の多様性を基盤とする生態系から得られる恵みである生態系サービスを人は享受してきました。しかし、開発行為や気候変動等により生物の多様性は急激に失われつつあります。今回の会議では、人が生物多様性の保全や回復により一層務めることで、生態系が維持される、即ち人と湖沼が互いに支えあう、共に生きていく社会づくり（方策）について議論します。また、生態系サービスを将来にわたって持続的に享受するためには、どのようなことに取り組むべきなのかについて、住民、農林漁業者、事業者、研究者、行政等湖沼に関わりを持つ全ての人々が、情報の共有、意見交換を行います。

本会議を契機に、様々な立場の者がそれぞれの役割分担のもと、連携がより一層強化され、湖沼問題解決の新たな進展につながることを目指します。

～生態系サービスとは～

生態系とは、植物が太陽の光を利用し、光合成によって作り出す炭水化物（有機物）を基盤として機能するシステムです。

生態系は多様な生物からなり、複雑につながり合った食物網、食物連鎖によりつながっています。私たち人類も、つながっている数多くの生物の一つです。

生態系とは、言い換えれば自然のことであり、私たちの生活や文化、暮らしは、食料や水の供給、気候の安定など、生態系から得られる恵みによって支えられています。

これらの自然の恵み、恩恵のことを、“生態系サービス”と呼んでおり、右図のように4つのタイプに分けられています。

基盤サービス
水や土壌、酸素、窒素やりんなどの栄養塩類など、生命の源や存在基盤になるとともに、光合成によって二酸化炭素と水から、有機物を合成し、それらの循環を通じて生態系を機能させます。

文化的サービス
信仰や慣習など、各地域の固有な文化は、生態系と深く結びついています。また、絵画などの芸術にも自然は強い影響を与えています。
・帆船などの観光資源
・水上スポーツ、釣り
・歴史的財産、食文化
・野鳥の生息場所 など

供給サービス
私たちの生活に必要な食料や水の供給機能があります。
・水道、農業、工業用水などの水資源
・ワカサギなどの水産資源 など

調整サービス
空気の浄化や植物による二酸化炭素の吸収により、気候を安定化する機能などがあります。
・気候の安定化
・水資源の安定化 など

II 開催概要

テーマ

人と湖沼の共生 —持続可能な生態系サービスを目指して—
Harmonious Coexistence of Humans and Lakes - Toward Sustainable Ecosystem Services -

会期

2018年(平成30年)10月15日(月)～19日(金)

会場

つくば国際会議場ほか

公用語

英語及び日本語
原則、各プログラムにおいて日・英同時通訳を実施

主催

茨城県, (公財)国際湖沼環境委員会(ILEC)

共催

国土交通省, 環境省, 農林水産省,
土浦市, つくば市, かすみがうら市, 鉾田市, 茨城町, 水戸市,
霞ヶ浦問題協議会, ラムサール条約登録湿地ひぬまの会

後援

国際連合環境計画(UNEP), 国連開発計画(UNDP)駐日代表事務所,
水循環政策本部, 外務省, 日本学術会議, (独)水資源機構, 滋賀県,
茨城県市長会, 茨城県町村会, 茨城県市議会議長会, 茨城県町村議会議長会,
茨城県河川協会, 茨城県女性団体連盟, 茨城県地域女性団体連絡会,
チャレンジいばらき県民運動, 世界湖沼会議市民の会'18, 茨城大学, 筑波大学,
(国研)農研機構, (国研)土木研究所, (国研)国立環境研究所,
(国研)科学技術振興機構, (国研)産業技術総合研究所, (公社)土木学会,
(公社)農業農村工学会, (公社)日本水産学会, (公社)日本水道協会,
(公社)日本技術士会, (公社)日本地下水学会, (公社)日本下水道協会,
(公社)日本水環境学会, (公社)日本地球惑星科学連合,
(一社)日本土壌肥料学会, (一社)日本生態学会,
(一社)日本リモートセンシング学会, 日本農学会, 日本陸水学会,
環境経済・政策学会, 応用生態工学会, 日本湿地学会, (一社)日本環境教育学会,
(株)茨城新聞社, 毎日新聞社, 読売新聞社, 東京新聞水戸支局,
(一社)共同通信社, 日本経済新聞社水戸支局, NHK水戸放送局, (株)茨城放送,
日刊工業新聞社

関連行事

サテライト会場 環境関連行事(5月4日(金)～10月13日(土))
学生会議(10月14日(日))

※法人名称略一覧

株式会社	⇒(株)	有限会社	⇒(有)	一般財団法人	⇒(一財)
一般社団法人	⇒(一社)	公益財団法人	⇒(公財)	公益社団法人	⇒(公社)
独立行政法人	⇒(独)	国立研究開発法人	⇒(国研)	地方独立行政法人	⇒(地独)

※大学については, 法人名称の記載を省略

III 会議日程

会場	つくば国際会議場						
日程	10月14日(日)	10月15日(月)		10月16日(火)			
8:00		8:00- 受付開始		8:00- 受付開始			
8:30							
9:00	9:00- 受付開始	9:00-17:00		9:00-12:00	9:00-17:00		
9:30				9:30-12:00			
10:00	10:00-10:15 学生会議開会式						
10:30	10:20-12:00	10:15-10:30 オープニング演出					
11:00	学生会議 研究取組発表 (中ホール200, 300, 大ホール)	10:30-11:30		政策フォーラム (大ホール)	分科会		
11:30		11:30-11:50 いばらき霞ヶ浦賞授与式					
12:00		展示会 (多目的ホール)			展示会 (多目的ホール)		
12:30							
13:00	13:00-14:30			13:10-14:10		13:10-17:15	13:00-14:00 分科会ポスター発表 (大会議室101, 102)
13:30	学生会議 ポスターセッション (大会議室101, 102)			基調講演 (大ホール)			
14:00				14:00-17:00			
14:30		14:30-17:00					
15:00	14:45-16:00 学生会議 ディスカッション (中ホール200, 300, 大ホール)	湖沼セッション (国外湖沼) (大ホール)		湖沼セッション (国内湖沼) (大ホール)	分科会		
15:30							
16:00							
16:30	16:15-17:00 学生会議閉会式						
17:00							
17:30							
18:00	18:00-20:00	18:00-20:00	18:00-20:00				
18:30	歓迎パーティー (ホテルグランド 東雲「東雲の間」)	レセプション (オークラ フロンティアホテル つくば アネックス1階 「昴の間」)		ワークショップ			
19:00							
19:30							
20:00							

		つくば国際会議場			会場	
10月17日(水)	10月18日(木)		10月19日(金)		日程	
7:00- 受付開始					8:00	
8:00-17:30 エクスカーション (霞ヶ浦コース) ／ エクスカーション (北浦, 酒沼, 千波湖コース)	8:00- 受付開始				8:30	
	9:30-11:55 霞ヶ浦セッション (大ホール)	9:00-12:00	9:00-17:00	9:00- 受付開始	9:00-13:00	9:00
		分科会			10:00-12:00	展示会 (多目的ホール)
	12:00-14:00	13:00-14:00 分科会ポスター発表 (大会議室101, 102)	展示会 (多目的ホール)	10:30		
	霞ヶ浦セッション ポスター発表 (大ホール前ホワイエ)			13:00-14:00 閉会式 (大ホール)	11:00	
	14:05-17:00	14:00-17:00	14:30	15:00	11:30	
	霞ヶ浦セッション (大ホール)	分科会			12:00	
					12:30	
				13:00		
				13:30		
				14:00		
				14:30		
				15:00		
				15:30		
				16:00		
				16:30		
				17:00		
				17:30		
18:00-20:00	18:00-20:00				18:00	
ワークショップ	参加者交流会 (つくば国際会議場「大会議室101, 102」)		主催者等の取組展示 コアタイム 10月18日 11:00-14:00		18:30	
					19:00	
				19:30		
				20:00		

IV 開会式

日時 2018年(平成30年)10月15日(月) 10:30-11:30 ※10:15-10:30 オープニング演出

会場 つくば国際会議場 大ホール

「第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）」の開会式は、秋篠宮同妃両殿下のご臨席を賜り、10月15日、午前10時30分より、約1,200名の参加のもと、つくば国際会議場大ホールにおいて執り行われた。

主催者あいさつとして第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会会長である大井川和彦茨城県知事は、世界の湖沼が富栄養化だけではなく、地球規模の気候変動や人間活動などのために、生物多様性を基盤とする湖沼から得られる恵み、いわゆる生態系サービスが将来にわたり享受できなくなることが懸念される中、今ある生態系サービスを減じないよう次世代へ引き継ぐことが課題となっているとし、「人と湖沼の共生—持続可能な生態系サービスを目指して—」をテーマとして開催される今回の会議が、「住民、農林漁業者、事業者、研究者、行政など、湖沼にかかわる幅広い関係者が一堂に会し、情報の共有や意見交換を行い、さまざまな立場の方々がそれぞれの役割分担のもとに、連携がより一層強化され、湖沼問題解決の新たな展開につながる会議となりますことを強く望みます」と述べた。

もう一方の主催者である公益財団法人国際湖沼環境委員会の竹本和彦理事長は、1984年に滋賀県において第1回会合が開催された世界湖沼会議が、回を重ねる中で、学术界、政府、国際機関、市民、NGO、企業など、多様なステークホルダーの方々が一堂に会し、湖沼及びその流域における持続可能な管理に関する経験や知見の交流を通じて、さまざまな課題への解決策を模索していく貴重な機会となっているとし、今回の会議において、「世界の持続可能な社会形成への貢献を視野に、湖沼流域管理の改善や多様なステークホルダーの果たすべき役割についての議論が一層深まることを願っております」と期待のほどを述べた。

続いて、秋篠宮殿下からのお言葉を賜り、その後、石井啓一国土交通大臣、勝俣孝明環境大臣政務官、小里泰弘農林水産副大臣、キース・アルバーソン国連環境計画国際環境技術センター所長、三日月大造滋賀県知事の計5人の来賓から順次祝辞が述べられた。

次に、登壇者紹介として共催6市町の代表者である中川清土浦市長、五十嵐立青つくば市長、坪井透かすみがうら市長、岸田一夫銚田市長、小林宣夫茨城町長及び高橋靖水戸市長、さらに海外からの来賓であるウィナルニ・ディエン・モノアルファ インドネシア政府環境林業省大臣顧問及びガーボル・モルナル バラトン湖開発評議員会マネージングディレクターが紹介された。

次いで、主催者の代表として山岡恒夫茨城県議会議長が、茨城県民の目指している「泳げる霞ヶ浦」の実現に向けた県の取り組みを紹介しつつ、会議参加者への歓迎の挨拶を述べた。

開会式の最後には、開会式前日に開催された学生会議における意見総括報告を、黒田理瑚さん（小学生代表）、中沢凧さん（中学生代表）、川島英登史さん（高校生代表）の3人が行った。学生会議では、自然のめぐみを未来につなぐために、仲間を増やすことや、活動を継続することの大切さが話し合われ、特に中学生の部では、自然のめぐみの大切さを知ってもらうなどの、人々の意識を変えるための「認知」、同じ気持ちをもつ仲間の輪を広げる「協力」、継続して環境保全活動に取り組んでいく「参加」の3つが必要であると訴え、参加者からの大きな拍手に包まれた。次世代を担う子どもたちに、環境改善への積極的な意識が浸透していることがわかり、未来への希望を感じつつ、開会式が終了した。

日程表

項目	概要
オープニング	オープニング映像放映
開 会	
主催者挨拶	○実行委員会会長 茨城県知事 大井川 和彦 ○公益財団法人国際湖沼環境委員会(ILEC) 理事長 竹本 和彦
お言葉	○秋篠宮殿下
祝 辞	○共催の3省 ・国土交通大臣 石井 啓一 ・環境省政務官 勝俣 孝明 ・農林水産副大臣 小里 泰弘 ○国際連合環境計画 国際環境技術センター所長 Mr. Keith Alverson ○滋賀県知事 三日月 大造
登壇者紹介	○共催6市町 ・土浦市長(霞ヶ浦問題協議会会長) 中川 清 ・つくば市長 五十嵐 立青 ・かすみがうら市長 坪井 透 ・鉾田市長 岸田 一夫 ・茨城町長(ラムサール条約登録湿地ひぬまの会会長) 小林 宣夫 ・水戸市長 高橋 靖
	○外国要人 ・インドネシア政府 環境林業省 大臣顧問 Prof. Winarni Dien Monoarfa ・バラトン湖開発評議委員会 マネージングディレクター Dr. Gábor Molnár
歓迎挨拶	○茨城県議会議長 山岡 恒夫
学生会議の意見総括報告	○学生会議代表者(小中高校生) ・稲敷市立浮島小学校 黒田 里瑚 ・水戸英宏中学校 中沢 凧 ・逆川こどもエコクラブ 川島 英登史
閉 会	

V いばらき霞ヶ浦賞授与式

日時 2018年(平成30年)10月15日(月) 11:30-11:50

会場 つくば国際会議場 大ホール

開会式終了後、いばらき霞ヶ浦賞授与式が行われた。

「いばらき霞ヶ浦賞」は、茨城県で初めて世界湖沼会議を開催した平成7年の第6回会議を契機として、開発途上国の研究者等の湖沼、河川等の分野における優れた論文を顕彰するものとして、第7回世界湖沼会議より茨城県が創設したものである。第10回目となる今回は、多数の応募の中から10件が選ばれ、大井川和彦茨城県知事から賞状が授与された。

大井川知事が受賞者への祝辞を述べた後、受賞者を代表してカンボジア王国のパオスリー・ウン氏が、「日本で得られた知識や経験をカンボジアに持ち帰って共有化したい」と挨拶した。開発途上国の水環境問題改善に取り組む受賞者たちに対し満場の拍手が起こる中、授与式は終了した。

日程表

項目	概要
開会	
登壇者紹介	○受賞者(10名)紹介
賞状授与	○茨城県知事 大井川 和彦より授与
知事挨拶	○茨城県知事 大井川 和彦
受賞者代表挨拶	○代表 Porsry Ung氏(カンボジア王国)
閉会	

受賞者

Porsry Ung	カンボジア王国
Fajar Setiawan	インドネシア共和国
Pradipta Ranjan Muduli	インド
Tapas Ranjan Chakraborty	バングラデシュ人民共和国
Cynthia Caburnay Buen	フィリピン共和国
Sumant Kumar	インド
Ria Adoracion Lambino	フィリピン共和国
Hidayat	インドネシア共和国
Wimal Ananda Heenatigala Palli Guruge	スリランカ民主社会主義共和国
Emmanuel Tetteh-Doku Mensah	ガーナ共和国

VI 会議概要

1 基調講演

日時 2018年(平成30年)10月15日(月) 13:10-14:10

会場 つくば国際会議場 大ホール

「地球環境の変動と湖沼の未来」という演題を掲げ、三村信男 茨城大学長による基調講演が行われた。

三村学長は、1992年以降、国連「気候変動に関する政府間パネル (IPCC) に専門家として参加し、第2次～第5次評価報告書の主執筆者・総括主執筆者を務めた地球温暖化について我が国を代表する研究者である。基調講演では、地球温暖化、気候変動による湖沼の変化や生態系への影響やその適応策について、大局的な見地から講演をいただいた。

湖沼の価値とは、水、魚、農作物などの資源の「供給サービス」、洪水の防御や陸が削られるのを防ぐ機能、水質の自浄作用などの「調整サービス」、人間の生活に精神的な豊かさを与えてくれる「文化的サービス」、生物の生息とその多様性を保証する「基盤サービス」など多岐に及んでいる。

三村学長は、霞ヶ浦におけるこれらのサービスの具体例を挙げ、こうした多くの要素を、富栄養化、生態系の劣化などの問題を抱える湖においてどう継続的に将来も満たしていくか、主に気候変動に焦点を当てて講演を行った。

気候変動の影響は、既に地球上の多くの分野に及んでいて、世界中で顕在化をしているが、湖沼に与える影響については、これまであまり研究されておらず、はっきり分かっていない分野の一つであるとしながらも、気候変動により、湖沼の水温上昇、降水量の変化などが引き起こされ、湖沼の生態系にも大きな影響を与えるであろうことが紹介された。

そのうえで、この気候変動への対策として、温室効果ガスを増やさないようにする「緩和策」と、目の前に起きている影響に対する「適応策」の2つの柱が重要であるとし、次のように説明した。

「緩和策」については、パリ協定締結やSDGs (持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals) の国際目標としての位置づけがなされた2015年頃から、世界全体で、地球の未来をより持続的なものにしようという流れが生まれており、経済の仕組みや政府の施策などにおいて非常に大きな変化を見せ始めている。しかし、パリ協定で掲げられた2℃目標が達成できたとしても今より気温が1℃上昇することになり、「緩和策」が実際に効果をあらわすのは何十年か時間が必要となるため、その間の健全性を確保するため、「適応策」が必要である。

また、その「適応策」については、治水などのような物理的な対策、教育のような社会の中で認識を広める対策、法律や規制のような制度的な対策など、必要となる分野は極めて広い範囲に及ぶこと、また地域性が大きいことから、それぞれの地域で対応する必要があるとしていた。その中で、特に湖沼の場合は、温暖化により気候帯が変化してしまうと、その生態系も変化するというような、非常に脆弱だが、一定の外圧に対しては自らそれを吸収し、自分自身を維持する能力を持っていることを強調し、こういった能力を活用しながら、どう湖沼の生態系の健全性を確保するかが、気候変動に対する湖沼問題の「適応策」のベースになるとしていた。

基調講演の終盤は、「湖沼の持続的な管理に向けて」、次の4項目を挙げた。

- ①健全な湖沼環境こそ気候変動に対する適応の基礎であるため、湖沼の健全性を維持しながら生態系サービスを持続的に享受する「賢い利用」の道を考えることが重要である。
- ②賢い利用のためには、湖沼の持つ生態系サービスの潜在力を最大限に発揮することが重要。水、漁業、農業など直接的な恵みを得る消費的利用の他に、観光、スポーツ、釣り、教育、写真撮影、バードウォッチングなど、生活を豊かにする非消費的利用によって人々の湖沼に対する愛着を高めていくことも重要である。
- ③統合的湖沼流域管理を推進すること。そこに生活して、経済活動をしている全ての人が関わっていく必要がある。
- ④科学的データと情報に基づく管理を行い、政策立案や管理を行うことが必要。地域で長く蓄積されてきた伝統的な知恵などの知識を活用した科学的な管理が望ましい。

最後に、「湖沼会議において、この環境を次世代に伝える方向の議論が進むことを祈念する」と締め括ると、場内から盛大な拍手が湧き、14時10分に基調講演は終了した。

2 湖沼セッション(国外湖沼)

日時 2018年(平成30年)10月15日(月) 14:30-17:00

会場 つくば国際会議場 大ホール

湖沼セッション(国外湖沼)では、「人と湖沼の共生～持続可能な生態系サービスを目指した流域内及び流域間連携のあり方～」をテーマに、国外の湖沼流域関係者の情報共有を図り、流域内及び流域間連携を推進するため、国外の主要な湖沼流域の市民、行政、研究者及び企業などが活動内容や施策などについて討議された。

パネルディスカッションは、中村正久 公益財団法人国際湖沼環境委員会副理事長をコーディネーターとして討議が行われた。ここでは、コーディネーターと発表者、コメンテーターとの相互の質問を通じて、湖沼と流域の生態系機能の回復に向けた幅広く継続的な取組や、生態系サービスの概念を反映した流域ガバナンスの向上、さらには、こういった新しい課題を追求する上で重要な国際連携などの幅広い課題について議論がなされた。

日程表

項目	概要
事例発表	事例発表(20分×3名)
休憩(コーヒープレイク)	
パネルディスカッション	コメンテーター発表(10分×2名)
	討議、意見・情報交換、セッション総括

○事例発表

内 容	湖沼流域管理をめぐる取組の経緯と現状及び今後の展望をオセアニア、アフリカ、ラテンアメリカにおける事例を中心に紹介
発表者1	Colin Finlayson チャールズ・スタート大学教授(オーストラリア) 「Global challenges for valuing, assessing and monitoring lakes and wetlands」
発表者2	Daniel Olago ナイロビ大学教授(ケニア) 「Untangling the management conundrum of Kenyan lakes」
発表者3	Alejandro Juárez Aguilar NGOコラソン・ディ・ラ・ティエラ理事長(メキシコ) 「Challenges of Integrated Management of the Lerma-Chapala basin, Mexico」

○コメンテーター発表

発表者1	Ajit Pattnaik ウェットランズ・インターナショナル南アジア副会長(インド) 「Can a restored Lake with rejuvenated ecosystem services reestablish faith of the stakeholders and trigger sustainable Lake Basin management ?; Chilika Lake, India –A case study.」
発表者2	Walter Rast テキサス州立大学名誉教授(アメリカ) 「17th World Lake Conference World Lakes Session」

○パネルディスカッション

内 容	世界の湖沼と生態系サービスを巡る動向について討議
コーディネーター	中村 正久 公益財団法人国際湖沼環境委員会副理事長
パネリスト	Colin Finlayson チャールズ・スタート大学教授(オーストラリア) Daniel Olago ナイロビ大学教授(ケニア) Alejandro Juárez Aguilar NGOコラソン・ディ・ラ・ティエラ理事長(メキシコ) Ajit Pattnaik ウェットランズ・インターナショナル南アジア副会長(インド) Walter Rast テキサス州立大学名誉教授(アメリカ)

3 政策フォーラム

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 9:30-12:00

会場 つくば国際会議場 大ホール

湖沼環境保全のためには、住民、農林漁業者、事業者、研究者、行政など、湖沼に関わりを持つ全ての人々が、それぞれの立場で役割を果たすことが必要であり、とりわけ、政策責任者は、湖沼環境保全施策の立案・推進を行う役割を担っている。

「政策フォーラム」では、6名の政策責任者から自らの取組について発表が行われた。

発表は、最初に、開催地を代表して大井川和彦 茨城県知事から霞ヶ浦の現状や新たな取組について発表した後、国土交通省、環境省、農林水産省の政策責任者より、各省の立場から水質浄化や生態系保全の取組について発表があった。また、国際連合環境計画からの地球規模の幅広い視点での意見や、霞ヶ浦と似た浅い湖であるハンガリーのバラトン湖の開発評議委員会からの取組や今後の課題等について発表があった。

その後、松井三郎 第17回世界湖沼会議企画推進委員会委員長をコーディネーターとして、パネルディスカッションが行われ、「連携」「アピール」という言葉をキーワードに、今後の湖沼環境保全政策の方向性を探った。

日程表

項目	概要
発表	政策責任者による発表(10分×6名)
パネルディスカッション	討議、意見・情報交換、セッション総括

○発表

発表者1	大井川 和彦 茨城県知事 「霞ヶ浦の現状・新たな取組」
発表者2	塚原 浩一 国土交通省水管理国土保全局長 「国土交通省における湖沼環境保全の取組」
発表者3	田中 聡志 環境省水・大気環境局長 「日本の湖沼水質保全施策の動向」
発表者4	島田 和彦 農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官 「農林水産分野における生物多様性保全に向けた取組」
発表者5	Keith Alverson 国際連合環境計画国際環境技術センター所長 「United Nations Environment Programme」
発表者6	Gábor Molnár バラトン湖開発評議委員会マネージングディレクター 「Lake Balaton (Hungary)」

○パネルディスカッション

内 容	発表を踏まえコーディネーターを中心に国内外の政策責任者による討議を行い、最後に今後の湖沼環境保全政策の方向性について総括
コーディネーター	松井 三郎 世界湖沼会議企画推進委員会委員長
パネリスト	大井川 和彦 茨城県知事 塚原 浩一 国土交通省水管理国土保全局長 田中 聡志 環境省水・大気環境局長 島田 和彦 農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官 Keith Alverson 国際連合環境計画国際環境技術センター所長 Gábor Molnár バラトン湖開発評議委員会マネージングディレクター

4 湖沼水環境保全に関する自治体連携設立宣言

第17回世界湖沼会議を契機として、茨城県、長野県、滋賀県、鳥取県、島根県の5県が主体となり、国内湖沼の水環境保全の取組みの方向性や課題を共有・確認し、単独自治体では困難となっている課題の解決を相互に連携・協力して進めることとし、世界湖沼会議会期中に、湖沼水質環境保全に関する自治体連携について設立を宣言するなどのキックオフセレモニーを開催した。

- ① 日 時 2018年(平成30年)10月16日(火)
- ② 場 所 つくば国際会議場4階 407会議室
- ③ 出席者 茨城県知事 大井川和彦
滋賀県知事 三日月大造
鳥取県知事 平井伸治
長野県副知事 中島恵理
島根県東京事務所長 吉山治
- ④ 内 容
 - ・ 設立宣言 : 茨城県知事
 - ・ 設立趣旨の表明 : 滋賀県知事
 - ・ 各県の見解の表明 : 鳥取県知事, 長野県副知事, 島根県東京事務所長
 - ・ 宣言書署名 : 茨城県知事, 滋賀県知事, 鳥取県知事
(長野県知事, 島根県知事は別途署名)
 - ・ 記念撮影 : 茨城県知事, 滋賀県知事, 鳥取県知事, 長野県副知事,
島根県東京事務所長

湖沼水環境保全に関する自治体連携 設立趣旨

湖沼は、古来人々の生活と生産活動を支えてきたかけがえのない国民的資産です。また湖沼は、水道水源、豊かな水産資源を育む場、良好な景観を構成する場、レクリエーションの場となっている他、治水面等での機能、学術上の価値を有しています。このような湖沼のもたらす多様な恵沢を将来にわたって私たちが享受することができるよう、それぞれの湖沼の特性に応じた的確な水環境保全対策を講じる必要があります。

各湖沼においては、従前から流入負荷削減対策を一定進めていますが、更なる水質の改善には、複合的な取組が必要であると考えられます。

また、水質以外にも魚介類の減少、水草や外来水生植物の繁茂など生態系の課題が顕在化しています。

これらの課題を解決し、湖沼生態系がもたらす恵みを回復し、維持し、貴重な地域資源として享受する「人と湖沼の共生」が求められています。

そこで、『湖がもたらす恵みを回復しましょう!!』を合言葉に、各湖沼において様々な取組を実施してきた自治体が連携し、知見の共有、事例の学び合い、課題への理解の深堀り、共同調査の実施等をおこなうことにより、必要となる施策の高度化を図ります。また、連携により得られた知見・情報を国と共有し、各湖沼における取組の円滑な推進に繋がります。

湖沼水環境保全に関する自治体連携
設立宣言

持続可能な人と湖沼の共生を目指し、湖沼生態系から得られる恵みを回復し、維持するため、先進的な政策に取り組む5県の知事が発起人となり、「湖沼水環境保全に関する自治体連携」を設立することを、ここに宣言します。

今後、各自治体が連携し、課題を共有しながら、設立趣旨に基づいた様々な活動により、湖沼の水質や生態系を含む水環境保全に関する取組をこれまで以上に強化いたします。

2018年10月16日

茨城県知事	大井川	和彦
長野県知事	阿部	守一
滋賀県知事	三日月	大造
鳥取県知事	平井	伸治
島根県知事	溝口	善兵衛



左側から、長野県副知事 中島恵理、滋賀県知事 三日月大造、茨城県知事 大井川和彦、鳥取県知事 平井伸治、島根県東京事務所長 吉山治

5 湖沼セッション(国内湖沼)

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 13:10-17:15

会場 つくば国際会議場 大ホール

湖沼セッション(国内湖沼)は、前日の湖沼セッション(国外湖沼)と同じく、「人と湖沼の共生～持続可能な生態系サービスを目指した流域内及び流域間連携のあり方～」をテーマに掲げ、議論が行われた。

パネルディスカッションでは、まずコーディネーターを務める福島武彦 茨城県霞ヶ浦環境科学センター長が、導入としてパネルディスカッションの進め方や湖沼が抱える問題等について発表を行った後、5人のパネリストによる発表が行われた。

最初に、湖沼セッション(国外湖沼)のコーディネーターを務めた中村正久 公財国際湖沼環境委員会副理事長から、世界の抱えている環境問題、今後の課題が紹介された。続いて、環境省、国土交通省の担当者から新たな施策や取組状況の説明があり、最後に、2名の研究者により、湖沼流域の保全に向けての連携・協働の例や、生態系を含めた新たな指標が紹介された。

その後、パネルディスカッションが行われ、国内湖沼を対象に、持続可能な生態系サービスの利用を目指して。流域内及び流域間連携を推進するために各主体がどう連携していくべきかが討議された。

日程表

項目	概要
事例発表	事例発表(10分×8名)
質問	会場からの質疑応答
休憩(コーヒープレイク)	
パネルディスカッション	コーディネーターによる導入(5分)
	パネリスト発表(10分×5名)
	討議、意見・情報交換、セッション総括

○事例発表

内容	持続可能な生態系サービスを目指した各湖沼の様々な主体の連携した取組の現状や施策、今後の課題、課題解決に向けた展望等について発表
発表者1	谷萩 八重子 第17回世界湖沼会議サテライトひぬま実行委員会副委員長 「第4回湖沼環境フェスティバル ーラムサールシンポジウムinひぬまー」
発表者2	櫻場 誠二 水戸市環境フェア実行委員会世界湖沼会議サテライト専門部会副会長 「水戸市環境フェア2018 ～千波湖のめぐみ～」

発表者3	尾崎 昂希 NPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA) 琵琶湖オオバナミズキンバイ対策チーム長 「若者の力を 大学生による多様な主体との協働による琵琶湖の侵略的外来水生植物の除去の取り組み」
発表者4	近藤 昭彦 千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授 「千葉県, 印旛沼流域における水循環健全化をめざした超学際の実践」
発表者5	大西 真人 株式会社日立製作所水ビジネスユニット水事業部CTO 「日立の環境経営と環境保全に寄与する水処理システム」
発表者6	小松 直樹 滋賀県理事 「琵琶湖における水環境保全の歴史と新たな取組について」
発表者7	小田野 直光 秋田県仙北市地方創生・総合戦略統括監 「田沢湖再生に係る取組み ～クニマスの里帰りに向けて～」
発表者8	出雲 充 株式会社ユーグレナ代表取締役社長 「下水由来資源を活用したユーグレナ培養技術の構築」

○パネリスト発表

発表1	中村 正久 公益財団法人国際湖沼環境委員会副理事長 「国外湖沼セッションからのメッセージ」
発表2	熊谷 和哉 環境省水・大気環境局水環境課長 「湖沼における生態系保全を考慮した新たな水環境の指標について」
発表3	岩井 聖 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課企画専門官 「国土交通省における湖沼環境保全の取組」
発表4	井手 慎司 公立大学法人滋賀県立大学環境科学部環境政策計画学科教授 「国内湖沼における流域内連携の実態」
発表5	奥田 昇 大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所准教授 「社会-生態システムの健全性を指標とした流域ガバナンス」

○パネルディスカッション

内 容	持続可能な生態系サービスを目指して、流域内及び流域間連携を推進するために各主体がどう連携していくべきか討議
コーディネーター	福島 武彦 茨城県霞ヶ浦環境科学センター長
パネリスト	中村 正久 公益財団法人国際湖沼環境委員会副理事長 熊谷 和哉 環境省水・大気環境局水環境課長 岩井 聖 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課企画専門官 井手 慎司 公立大学法人滋賀県立大学環境科学部環境政策計画学科教授 奥田 昇 大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所准教授 尾崎 昂希 NPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA) 琵琶湖オオバナミズキンバイ対策チーム長 大西 真人 株式会社日立製作所水ビジネスユニット水事業部CTO

6 霞ヶ浦セッション

日時 2018年(平成30年)10月18日(木) 9:30-17:00

会場 つくば国際会議場 大ホール

霞ヶ浦セッションでは、「霞ヶ浦の未来像について」テーマとして、霞ヶ浦流域の様々な主体が、霞ヶ浦が抱えるさまざまな課題を共有し、持続可能な生態系サービスに向けてどういった取組を行うべきか討議することを目的としている。

霞ヶ浦の現状把握を行うため、まず、流域関係者からの事例発表があり、その後、福島武彦 茨城県霞ヶ浦環境科学センター長をコーディネーターとして、パネルディスカッションが行われた。

最初に、コーディネーターから導入として、パネルディスカッションの進め方や、霞ヶ浦が抱える問題等について発表が行われた後、7名のパネリストのもと、パネルディスカッションが行われた。ここでは、「霞ヶ浦の現在、将来の問題」というテーマ、「生態系サービス」「流域連携」といったキーワード、さらに取組への決意といった内容について討議がなされた。

なお、事例発表の間の12時から14時の間、大ホール前ホワイエにてポスター発表が行われた。発表は35件あり、活発な意見交換が行われていた。

日程表

項目	概要
事例発表①	事例発表(15分×3名)
質問	会場からの質疑応答
休憩(コーヒースタンド)	
事例発表②	事例発表(10分×5名)
質問	会場からの質疑応答
ポスター発表	大ホール前ホワイエ
事例発表③	事例発表(10分×5名)
質問	会場からの質疑応答
休憩(コーヒースタンド)	
パネルディスカッション	パネリストコメント、討議、意見・情報交換、セッション総括

○事例発表1

内 容	第6回会議からの霞ヶ浦を取り巻く現状変化やこれまでの取組と成果，現在の課題や課題解決に向けた展望について発表
発表者1	桑名 美恵子 茨城県県民生活環境部次長 「霞ヶ浦の水環境保全についての茨城県の取組み」
発表者2	辰野 剛志 国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所所長 「霞ヶ浦における 水環境改善の取組について」
発表者3	江幡 一弘 茨城県霞ヶ浦環境科学センター副センター長 「霞ヶ浦の生態系サービスとその経済評価」

○事例発表2

内 容	霞ヶ浦から恩恵を受けている方々から取組の現状や課題，課題解決に向けた展望について発表
発表者1	伊藤 一郎 霞ヶ浦漁業協同組合霞ヶ浦水産研究会会長 「『霞ヶ浦の恵み』を皆さんにお届けします - 霞ヶ浦の漁業を将来へ -」
発表者2	飯田 公巳 JA土浦蓮根本部会 「霞ヶ浦の恵みを活かしたレンコン生産」
発表者3	但田 賢哉 新日鐵住金株式会社鹿島製鐵所 安全環境防災部 環境防災室長 「霞ヶ浦の水と鹿島製鐵所とのかかわり」
発表者4	今野 浩紹 株式会社かすみがうら未来づくりカンパニー代表取締役 「霞ヶ浦沿いのサイクリングロードを活用した地域活性化事業について」
発表者5	藤原 正子 茨城県生活学校連絡会会長 「生活学校が取り組んだ水質浄化の実践報告(生活者の視点からの提案)」

○事例発表3

内 容	市民団体の発表やサテライト会場からの意見集約
発表者1	滝下 利夫 世界湖沼会議市民の会'18(ワンエイト)副会長 「世界湖沼会議に参加する市民の活動」
発表者2	阿部 彰 一般社団法人霞ヶ浦市民協会 第17回世界湖沼会議サテライトつちうら実行委員会委員長 「霞ヶ浦の恩恵を未来に引き継ぐために 私たちのパートナーシップ」
発表者3	千葉 隆司 かすみがうら市歴史博物館係長 「霞ヶ浦の魚食文化の再構築からの新たな人間と自然との共生システム」
発表者4	大木 繁夫 銚田市まちづくり推進会議自然環境部会部会長 「自然と共に歩むまち ～銚田～」
発表者5	助川 太一 茨城県立竹園高等学校 「穴塚の谷津田における古代米づくりと淡水プランクトンの季節的変動」

○パネルディスカッション

内 容	事例発表により霞ヶ浦を取り巻く現状と問題点を把握するとともに課題を共有した上で、霞ヶ浦流域関係者が持続可能な生態系サービスに向けた具体的な行動に取り組むための討議を行います。
コーディネーター	福島 武彦 茨城県霞ヶ浦環境科学センター長
パネリスト	中村 正久 公益財団法人 国際湖沼環境委員会副理事長 桑名 美恵子 茨城県県民生活環境部次長 辰野 剛志 国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所所長 伊藤 一郎 霞ヶ浦漁業協同組合霞ヶ浦水産研究会会長 但田 賢哉 新日鐵住金株式会社鹿島製鐵所 安全環境防災部 環境防災室長 今野 浩紹 株式会社かすみがうら未来づくりカンパニー代表取締役 滝下 利男 世界湖沼会議市民の会'18(ワンエイト)副会長

7 分科会

(1) 口頭発表

第1分科会：生物多様性と生物資源

湖沼、湿地、河川及び水辺等の生物多様性や生物資源に焦点をあて、その価値や現状の評価、保全のあり方等について討議した。

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 9:00-17:20
2018年(平成30年)10月18日(木) 9:00-17:00

会場 つくば国際会議場
中ホール200(2018年(平成30年)10月16日, 2018年(平成30年)10月18日),
中会議室201A(2018年(平成30年)10月18日)

10月16日 (中ホール200)

9:00-10:20 **第1セッション 「生物多様性1」**
座長：吉田 丈人 (総合地球環境学研究所／東京大学)

10:40-12:00 **第2セッション 「生物多様性2」**
座長：吉田 丈人 (総合地球環境学研究所／東京大学)

TS1-1 **コイの日本在来系統：琵琶湖に残る貴重な自然遺産**
招待講演 馬淵 浩司 ((国研) 国立環境研究所琵琶湖分室, 日本)

14:00-15:20 **第3セッション 「生物多様性3」**
座長：傳田 正利 ((国研) 土木研究所水環境研究グループ
河川生態チーム)

15:40-17:20 **第4セッション 「生態系サービス」**
座長：山野 博哉 ((国研) 国立環境研究所生物・生態系環境研究センター)



10月18日 (中ホール200)

9:00-10:20 **第5セッション 「生物多様性4」**
座長：西廣 淳 (東邦大学理学部生命圏環境科学科)

10:40-12:00 **第6セッション 「生物多様性5」**
座長：吉田 丈人 (東京大学総合文化研究科)

TS1-2 **日本における湖沼の生物多様性評価や生態系保全のための研究の現状と将来**
招待講演 高村 典子 ((国研) 国立環境研究所生物・生態系環境研究センター琵琶湖分室, 日本)



14:00-15:20 **第7セッション 「侵入外来生物1」**
座長：傳田 正利 ((国研) 土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム)

15:40-17:00 **第8セッション 「侵入外来生物2」**
座長：西廣 淳 (東邦大学理学部生命圏環境科学科)

10月18日 (中会議室201A)

9:00-10:20 **第9セッション 「水産・漁業1」**
座長：馬淵 浩司 ((国研) 国立環境研究所琵琶湖分室)

10:40-11:20 **第10セッション 「水産・漁業2」**
座長：馬淵 浩司 ((国研) 国立環境研究所琵琶湖分室)

14:00-15:20 **第11セッション 「保全・管理・再生1」**
座長：吉田 丈人 (東京大学総合文化研究科)

15:40-17:00 **第12セッション 「保全・管理・再生2」**
座長：山野 博哉 ((国研) 国立環境研究所生物・生態系環境研究センター)

第2分科会：淡水資源の持続的利用

湖沼における水資源の持続的な利用に焦点をあて、流域において湖沼が持つ水収支や河川流量の調整機能(水量に関わる事項)、流域からの汚染物質や土砂の流入、化学物質による汚染、富栄養化(水質に関わる事項)、及び湖沼の管理等について討議した。

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 9:00-17:00

会場 つくば国際会議場 中会議室201A

9:00-10:20 **第1セッション 「水資源と水質」**
座長：天野 邦彦 (国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部)
片岡 稔温 ((独)水資源機構利根川下流総合管理所環境課)

TS2-1 **世界における水資源の状況：水資源の持続可能な使用方法について**

招待講演

András Szöllősi Nagy

(National University for Public Service (NUPS), ハンガリー)



10:40-12:00 **第2セッション 「環境変化の水資源への影響」**
座長：梅田 信 (東北大学大学院工学研究科)
天野 邦彦 (国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部)

14:00-15:20 **第3セッション 「湖沼の状態と管理」**
座長：矢島 啓 (島根大学研究・学術情報機構エスチュアリー研究センター)
梅田 信 (東北大学大学院工学研究科)

TS2-2

日本における流域の水循環・水資源管理の展開と課題

招待講演

渡邊 紹裕（京都大学大学院地球環境学学堂，日本）



15:40-17:00

第4セッション 「流域の変化と水資源」

座長：矢島 啓（島根大学研究・学術情報機構エスチュアリー研究センター）

小栗 幸雄（国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所）

第3分科会：湖沼の水質と生態系機能

湖沼の水質に焦点をあて、湖内の生態系がもつ機能である水質浄化能、微生物生産、有機物分解、底泥酸素消費、底泥溶出等について討議した。

日時

2018年(平成30年)10月16日(火) 9:00-17:00

2018年(平成30年)10月18日(木) 9:00-17:00

会場

つくば国際会議場

中ホール300(2018年(平成30年)10月16日，2018年(平成30年)10月18日)，

小会議室404(2018年(平成30年)10月18日)

10月16日（中ホール300）

9:00-10:20

第1セッション 「水質改善対策技術」

座長：高津 文人（(国研)国立環境研究所地域環境研究センター湖沼・河川研究室）

10:40-12:00

第2セッション 「湖沼生態系モニタリング1」

座長：内海 真生（筑波大学生命環境系）

14:00-15:20

第3セッション 「湖沼生態系モニタリング2」

座長：今井 章雄（(国研)国立環境研究所）

TS3-1

世界規模の炭素循環における陸水系の役割における富栄養化・せき止め・気候変動の相互作用

招待講演

Yves Prairie（UNESCO Chair in Global Environmental Change, Department of biological Sciences, UQAM, Montreal, カナダ）



15:40-17:00

第4セッション 「植物プランクトンの動態とアオコ1」

座長：石川 可奈子（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）

10月18日（中ホール300）

9:00-10:20

第5セッション 「植物プランクトンの動態とアオコ2」

座長：富岡 典子（(国研)国立環境研究所地域環境研究センター）

10:40-12:00

第6セッション 「気候変動影響」

座長：清水 和哉（筑波大学生命環境系）

14:00-15:20 **第7セッション 「有機物の動態」**
座長：今井 章雄（(国研) 国立環境研究所）

TS3-2 有機物動態と微生物生態に着目した琵琶湖における水質の長期変化

招待講演 中野 伸一（京都大学生態学研究センター，日本）



15:40-17:00 **第8セッション 「底泥堆積物と一次生産」**
座長：早川 和秀（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター総合解析部門）

10月18日（小会議室404）

9:00-10:20 **第9セッション 「化学物質の挙動と対策」**
座長：苅部 甚一（近畿大学工学部化学生命工学科）

10:40-12:00 **第10セッション 「水質モニタリング1」**
座長：李 沁潼（東洋大学生命科学部応用生物科学科）

14:40-15:20 **第11セッション 「水質モニタリング2」**
座長：広瀬 浩二（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）

15:40-17:00 **第12セッション 「湖沼生態系の諸問題」**
座長：小松 一弘（(国研) 国立環境研究所地域環境研究センター湖沼・河川環境研究室）

第4分科会：水辺地域の歴史と文化

歴史、文化、生活、景観、レクリエーション、観光利用等幅広く焦点をあて、湖沼がもたらす文化的サービスについて討議した。

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 9:00-17:00

会場 つくば国際会議場 小会議室404

9:00-10:20 **第1セッション 「水辺空間の活用と保全」**
座長：若月 博延（金城大学短期大学部ビジネス実務学科）

TS4-1 北海道テッシ-オ-ペツはカヌーの聖地
招待講演 草野 孝治（NPO法人ダウン・ザ・テッシ，日本）



10:40-12:00 **第2セッション 「霞ヶ浦の歴史と市民活動」**
座長：沼澤 篤（(一社)霞ヶ浦市民協会）
永井 博（茨城県立歴史館史料学芸部）

14:00-15:20 **第3セッション 「持続可能な観光まちづくり」**
座長：田養健太郎（流通経済大学大学院スポーツ健康科学部スポーツ健康科学研究科）

TS4-2

持続可能な湖沼地域と観光の関係について

招待講演

安村 克己 (追手門学院大学地域創造学部地域創造学科, 日本)



15:40-17:00

第4セッション 「アジアにおける水系と生活文化」

座長：永野 聡 (立命館大学産業社会学部)

楊 平 (滋賀県立琵琶湖博物館)

第5分科会：流域活動と物質循環

湖沼及びその流域における人間活動に伴う物質循環に焦点をあて、流域と河川・湖沼全体での窒素・りん循環や化学物質等の動態等について討議した。

日時

2018年(平成30年)10月16日(火) 9:00-17:00

2018年(平成30年)10月18日(木) 9:00-16:40

会場

つくば国際会議場 小会議室202A

10月16日

9:00-10:20

第1セッション 「安定同位体」

座長：仁科 一哉 ((国研) 国立環境研究所地域環境研究センター土壌環境研究室)

TS5-1

利水系における有害なアオコとその他の生態学的問題の一因となる栄養源のマルチ同位体法による特定

招待講演

Carol Kendall (U. S. Geological Survey, 米国)



10:40-12:00

第2セッション 「窒素汚染起源」

座長：志村もと子 ((国研) 農研機構西日本農業研究センター農地・水環境研究グループ)

14:00-15:20

第3セッション 「水質浄化対策」

座長：加藤 亮 (東京農工大学大学院農学研究院国際環境農学部門)

15:40-17:00

第4セッション 「土地利用・農業技術」

座長：吉田 貢士 (茨城大学農学部地域総合農学科)

10月18日

9:00-10:20

第5セッション 「森林保全」

座長：江口 定夫 ((国研) 農研機構農業環境変動研究センター物質循環研究領域水質影響評価ユニット)

TS5-2

植物の表面から湖まで：安定同位体で生態系の窒素ダイナミクスを明らかにする

招待講演

大手 信人 (京都大学大学院情報学研究所, 日本)



10:40-12:00

第6セッション 「リン循環」

座長：山岡 賢 ((国研) 農研機構農村工学研究部門水利工学研究領域水域環境ユニット)

- 14:00-15:20 **第7セッション 「バイオマス」**
座長：久保田富次郎（(国研)農研機構農村工学研究部門地域資源工学研究領域水文水資源ユニット）
- 15:40-16:40 **第8セッション 「化学物質」**
座長：黒田 久雄（茨城大学農学部地域総合農学科）

第6分科会：科学的知見に基づくモニタリング

湖沼や河川の水質、生態系等のモニタリング技術に焦点をあて、新しい知見に基づくモニタリング手法やそれを支える先進的技術及び解析手法について討議した。

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 9:00-17:00
2018年(平成30年)10月18日(木) 9:00-17:00

会場 つくば国際会議場 小会議室303

10月16日

- 9:00-10:20 **第1セッション 「環境モニタリング」**
座長：中村 圭吾（(国研)土木研究所水環境研究グループ）
- 10:40-12:00 **第2セッション 「長期モニタリングデータの解析」**
座長：田中 宏明（京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター）

TS6-1 摩周湖 – 鋭敏でありかつ安定である湖における環境記録の読み取り

招待講演 田中 敦（(国研)国立環境研究所環境計測研究センター基盤計測化学研究室，日本）



- 14:00-15:20 **第3セッション 「測定方法」**
座長：田尾 博明（(国研)産業技術総合研究所四国センター）
- 15:40-17:00 **第4セッション 「リモートセンシングによる湖沼のモニタリング」**
座長：松下 文経（筑波大学生命環境系）

10月18日

- 9:00-10:20 **第5セッション 「人為的影響のモニタリング」**
座長：中村 圭吾（(国研)土木研究所水環境研究グループ）
- 10:40-12:00 **第6セッション 「新規物質のモニタリング」**
座長：田尾 博明（(国研)産業技術総合研究所四国センター）

**TS6-2 データ、モデル、ネットワークの統合は、湖沼科学と予測を
進歩させる機会を生む****招待講演**David Hamilton (Australian Rivers Institute, Griffith University,
オーストラリア)14:00-15:20 **第7セッション 「データ解析とモデリング」**

座長：圓佛伊智朗 ((株)日立製作所研究開発グループ日立研究所制御イノベーションセンタ)

15:40-17:00 **第8セッション 「プランクトンと溶存有機物の動態」**

座長：中野 伸一 (京大大学生態学研究センター)

第7分科会：生態系サービスの持続可能な利用に向けた対策・技術

生態系サービスを将来にわたって持続的に享受するため、排水規制、生活排水対策、農地・畜産対策、流出水対策、浄水技術や排水処理技術、湖内浄化、適正技術、経済的インセンティブ施策等、ハード技術だけでなくソフト対策についても討議した。

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 9:00-17:00
2018年(平成30年)10月18日(木) 9:00-17:00**会場** つくば国際会議場 小会議室406**10月16日**9:00-10:20 **第1セッション 「湖沼モニタリングと水質改善」**

座長：古米 弘明 (東京大学大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター)

TS7-1 リーヴェン湖の再生：生態系サービスの維持**招待講演**Brian D'arcy (Independent environmental consultant, & Partner
C&D Associates LLP Co-founder consulting
gateway, 英国)10:40-12:00 **第2セッション 「生態系サービス」**

座長：田中 仁志 (埼玉県環境科学国際センター水環境担当)

14:00-15:20 **第3セッション 「生態毒性」**

座長：渡部 春奈 ((国研)国立環境研究所環境リスク・健康研究センター)

15:40-17:00 **第4セッション 「浄水処理」**

座長：小松 一弘 ((国研)国立環境研究所地域環境研究センター湖沼・河川環境研究室)

10月18日9:00-10:20 **第5セッション 「水質保全対策」**

座長：春日 郁朗 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻都市環境工学講座水環境制御研究室)

TS7-2 日本における湖沼の水質保全対策と今後の課題

招待講演

岡田 光正 (放送大学, 日本)



10:40-12:00 **第6セッション 「排水処理」**
座長：藤田 昌史 (茨城大学大学院理工学部都市システム工学領域)

14:00-15:20 **第7セッション 「排水処理／水草」**
座長：西廣 淳 (東邦大学理学部生命圏環境科学科)

15:40-17:00 **第8セッション 「衛生環境」**
座長：島崎 大 (国立保健医療科学院生活環境研究部)

第8分科会：市民活動と環境学習

湖沼流域で実践されている市民活動や環境学習に焦点をあて、地域に根ざしてよりよい水環境を未来に残していくための活動とそのあり方について討議した。

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 9:00-17:00
2018年(平成30年)10月18日(木) 9:00-17:00

会場 つくば国際会議場 中会議室201B

10月16日

9:00-10:20 **第1セッション 「市民参加と協働1」**
座長：井手 慎司 (滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科)
川嶋 宗継 (滋賀大学)

10:40-12:00 **第2セッション 「市民参加と協働2」**
座長：川嶋 宗継 (滋賀大学)
井手 慎司 (滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科)

TS8-1 タイ北部地域の総合水資源管理への住民参加

招待講演

Chitchol Phalaraksh (Department of Biology, Faculty of Science,
Chiang Mai University, タイ)



14:00-15:20 **第3セッション 「市民参加と協働3」**
座長：原田 泰 (NPO法人霞ヶ浦アカデミー)
小川かほる (小川かほる環境教育事務所)

15:40-17:00 **第4セッション 「市民参加と協働4」**
座長：小川かほる (小川かほる環境教育事務所)
原田 泰 (NPO法人霞ヶ浦アカデミー)

10月18日

9:00-10:20 **第5セッション 「生態系保全」**
座長：及川ひろみ (認定NPO法人穴塚の自然と歴史の会)
井手 慎司 (滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科)

- 10:40-12:00 **第6セッション 「教育プログラムと実践1」**
座長：小川かほる (小川かほる環境教育事務所)
井手 慎司 (滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科)

- TS8-2** **ESD&SDGs, 環境教育を超えて**
招待講演 見上 一幸 (前宮城教育大学長, 日本)



- 14:00-15:20 **第7セッション 「教育プログラムと実践2」**
座長：川嶋 宗継 (滋賀大学)
原田 泰 (NPO法人霞ヶ浦アカデミー)

- 15:40-17:00 **第8セッション 「教育プログラムと実践3」**
座長：原田 泰 (NPO法人霞ヶ浦アカデミー)
川嶋 宗継 (滋賀大学)

第9分科会：統合的湖沼流域管理 (ILBM)

湖沼流域の生態系サービスを維持・保全・向上させるために、流域の全ての関係者が連携的に取り組む「統合的湖沼流域管理(ILBM)」のあり方と、それを支える流域ガバナンスの段階的、継続的かつ長期にわたる向上のための取組みについて討議した。

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 9:20-17:00
2018年(平成30年)10月18日(木) 9:00-17:00

会場 つくば国際会議場 小会議室304

10月16日

- 9:40-10:20 **第1セッション 「湖沼河川湾岸流域ガバナンス」**
座長：中村 正久 ((公財)国際湖沼環境委員会)

- TS9-1** **琵琶湖・淀川流域圏における統合的流域管理の実現に向けたガバナンスのあり方**
招待講演 中塚 則男 ((公財)ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会, 日本)



- 10:40-12:00 **第2セッション 「ILBMと湖沼流域ガバナンス1」**
座長：瀧 健太郎 (滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科)

- TS9-2** **マレーシアの水セクター転換に不可欠な部分としての統合的湖沼流域管理 (ILBM)**
招待講演 Salmah Zakaria (ACADEMY OF SCIENCES MALAYSIA (ASM), マレーシア)



- 14:00-15:20 **第3セッション 「ILBMと湖沼流域ガバナンス2」**
座長：平山奈央子 (滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科)

15:40-17:00 **第4セッション 「ILBMの組織体制とその分類1」**
座長：和田 桂子（(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構琵琶湖・淀川水質浄化研究所）

10月18日

9:00-10:20 **第5セッション 「生態系サービス分析1」**
座長：和田 桂子（(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構琵琶湖・淀川水質浄化研究所）

10:40-12:00 **第6セッション 「生態系サービス分析2」**
座長：Victor Shiholo Muhandiki（(公財)国際湖沼環境委員会）

14:00-15:20 **第7セッション 「気候変動の影響」**
座長：平山奈央子（滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科）

15:40-17:00 **第8セッション 「ILBMの組織体制とその分類2」**
座長：中村 正久（(公財)国際湖沼環境委員会）



(2) ポスター発表

日時

<自由閲覧>

2018年(平成30年)10月16日(火) 9:00-17:00

2018年(平成30年)10月18日(木) 9:00-15:00

<コアタイム>

【発表番号末尾奇数】 2018年(平成30年)10月16日(火) 13:00-14:00

【発表番号末尾偶数】 2018年(平成30年)10月18日(木) 13:00-14:00

会場

つくば国際会議場 大会議室101, 102

8 ワークショップ

会議参加者が自ら企画するワークショップが以下のとおり開催された。

ワークショップ① 「日本海側汽水湖の現状と生態系機能の再生」

宍道湖・中海，湖山池や河北潟など，日本海側各地の代表的な汽水湖の現状と課題について情報共有し，それらが本来持っている生態系機能をいかに回復するかその方策を探る。

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 中会議室201A

開催団体 NPO法人河北潟湖沼研究所

ワークショップ② 「シジミの棲める湖沼環境を目指した自治体の取組」

湖沼の特徴や直面する課題を踏まえ，各地のこれまでの取組を共有し，今後，自治体が連携して進める湖沼の水環境改善において，必要となる取組を議論し，行政が担うべき取組のステップアップにつなげる。

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 中会議室201B

開催団体 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課

ワークショップ③ 「富栄養化を食生活の窒素フットプリントから考える」

環境中に過剰な反応性窒素が存在すると，富栄養化，地球温暖化，生物多様性の減少などの環境問題を引き起こします。本ワークショップでは，参加者の皆様と軽食を共にしながら，『窒素フットプリント』という新しい概念を理解すると共に，私たち消費者の食に関わるライフスタイルと反応性窒素による環境負荷との密接な関係や，食生活の改善が窒素負荷の削減に及ぼす影響などについて，自由に意見交換することを目的とします。

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 中会議室202A

開催団体 茨城大学農学部

ワークショップ④ 「統合管理のための情報プラットフォームの役割 アジアの湖沼：SDGsの教訓と経路」

- ・アジアの湖沼環境管理の複雑さと情報プラットフォームの役割を理解する。
- ・琵琶湖，ラグナ湖(フィリピン)，トンレサップ湖(カンボジア)の経験に基づき湖沼環境を統合的に管理するため，情報プラットフォームの確立に向けた効果的なアプローチを議論する。
- ・湖沼情報プラットフォームの設立，使用，管理に係る利害関係者の参加の向上を目指す。

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 18:00-20:00

2018年(平成30年)10月17日(水) 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 小会議室303

開催団体 (公財)地球環境戦略研究機関

ワークショップ⑤ 「南アジアの湖沼流域管理における問題と挑戦」

南アジアの湖沼流域管理における問題と挑戦の経験を共有し検討する。

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 小会議室304

開催団体 国際湿地保全連合南アジア

ワークショップ⑥ 「水辺の環境と社会を守る市民の活動に関する情報とアイデアを交換しましょう。」

水郷水都全国会議の活動を紹介するとともに、会議参加者の皆さんと水辺を守る市民活動の経験、理念と課題について意見交換をします。

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 小会議室404

開催団体 NPO法人霞ヶ浦アカデミー

ワークショップ⑦ 「西浦・北浦<千年村>に生きる人々～持続的な水辺のくらしの歴史的分析」

霞ヶ浦水系は、稲作文化の伸展とともに発展した地域であり、現在にも引き継がれている地名が10世紀の辞書に掲載されていることから「千年村」の通称もある。こうした持続性ある暮らしを象徴する千年村を事例に、西浦・北浦の水辺に生きた人びとと生業の知恵を歴史的かつ科学的に分析することで今後の湖沼と人びとの関係性を考える。

日時 2018年(平成30年)10月16日(火) 18:00-20:00

2018年(平成30年)10月17日(水) 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 小会議室406

開催団体 常陸国水辺空間フォーラム

ワークショップ⑧ 「ILBM研修等 研修修了者の交流」

ILBM研修等終了後に、帰国した研修参加者が繋がりを持つことにより、今後の湖沼管理に役立てる。

日時 2018年(平成30年)10月17日(水) 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 中会議室201A

開催団体 (公財)国際湖沼環境委員会

ワークショップ⑨ 「アフリカ湖沼の水質汚染防止と飢餓を防ぐエコサントイレ普及活動の成功報告 --SDGs 2,6,14の実践」

NICCOは、マラウイ湖とヴィクトリア湖地域と協力して、村の開発を支援し、エコサンのトイレと清潔な水を提供して飢餓から救っています。NICCOの活動により点源汚染が抑制され、村の農業従業者数が増加しました。NICCOの経験は、世界各地に容易に伝えることができます。このワークショップは、アフリカの専門家による経験を提供しています。

日時 2018年(平成30年)10月17日(水) 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 中会議室201B

開催団体 (公社)日本国際民間協力会(NICCO)

ワークショップ⑩ 「持続可能な湖沼管理の政策展開に向けたインドネシアと日本との連携について」

インドネシア国内と日本の湖沼における管理の現状や課題、対策の方向性等を共有することにより、今後両国の持続可能な湖沼管理の政策展開に資する。

日時 2018年(平成30年)10月17日(水) 18:00-20:00

会場 つくば国際会議場 中会議室202A

開催団体 環境省 水・大気環境局水環境課

9 学生会議

日時 2018年(平成30年)10月14日(日) 10:00-17:00

会場 小学生の部：中ホール300
中学生の部：中ホール200
高校生の部：大ホール
ポスターセッション：大会議室101,102

会議開催の前日である10月14日には、次世代を担う子どもたちの水環境に関する意識向上と、身近な湖沼等を誇りに思う郷土愛の醸成を図るため、水や湖沼に関する研究や取組について、子どもたちによる発表及びディスカッションを行う学生会議を実施した。

午前10時、つくば国際会議場大ホールで開会式が開始され、齋藤章 茨城県県民生活環境部長より開会の挨拶として、若い世代への激励の気持ちを込めた言葉が送られ、学生会議が始まった。10時20分から正午までは、小学生、中学生、高校生がそれぞれの会場に分かれ、「水や湖沼に関係した自然、自然の恵みについて」というテーマのもと研究・取組発表が行われた。

休憩を挟んで13時から14時30分までは、大会議室101、102にてポスターセッションが行われ、63の学生団体による活発な交流で賑わった。

14時45分から16時までは再び3つの会場に分かれ、「自然のめぐみ 命を育む水 一緒に生きる未来」をテーマに、各会場でディスカッションが行われた。

なお、子どもたちの熱心な発表に各会場とも満席の状況であり、中継会場においても多くの参加者がスクリーン越しに会議を見つめている状況であった。

16時15分から大ホールで行われた閉会式では、それぞれの部のファシリテーターからの総括報告の後、翌日の本会議前の開会式で学生会議の総括発表を行う、稲敷市立浮島小学校の黒田里瑚さん、水戸英宏中学校の中沢凧さん、逆川こどもエコクラブの川島英登史さんの3名の紹介がされた。最後に、学生会議委員会の委員長である桑名美恵子 茨城県県民生活環境部次長が、閉会の挨拶として、会議に参加した小学校19校、中学校17校、高校41校の合計77の学校の生徒たちの勇姿を労って、学生会議は17時に全てのプログラムを終了した。

○研究・取組発表

小学生の部 9団体(国内 8団体, 海外 1団体)

中学生の部 9団体(国内 9団体)

高校生の部 9団体(国内 9団体)

○ポスターセッション

小学生の部 14団体(国内 13団体, 海外 1団体)

中学生の部 11団体(国内 10団体, 海外 1団体)

高校生の部 38団体(国内 37団体, 海外 1団体)

その他、サテライトからの発表団体 高校1団体

○ディスカッション

小学生の部	ファシリテーター	細田 直人 茨城県霞ヶ浦環境科学センター係長
	アドバイザー	川嶋 宗継 国立大学法人滋賀大学名誉教授 林 暁嵐 国立大学法人東京農工大学大学院連合農学研究科・ 国立大学法人茨城大学配置
	参加団体	逆川こどもエコクラブ, 稲敷市立浮島小学校, 小美玉市立玉里東小学校, ラムサールびわっこ大使, 銚田市立旭北小学校, TANAKAMI こども環境クラブ
中学生の部	ファシリテーター	三輪 俊一 茨城県霞ヶ浦環境科学センター主査
	アドバイザー	原口 弥生 国立大学法人茨城大学人文社会科学部教授 ヌルル シャヒラ ビンチ シャムソル アヌア 国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科
	参加団体	水戸英宏中学校, 美浦村立美浦中学校, 青葉台初等・中等学部, TANAKAMI こども環境クラブ, 石岡市立国府中学校, 智学館中等教育学校
高校生の部	ファシリテーター	小幡 和男 茨城県自然博物館首席学芸員
	アドバイザー	清水 和哉 国立大学法人筑波大学生命環境系准教授 沈 慶月 国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科
	参加団体	劇団シンデレラ, 滋賀県立守山中学・高等学校, 茨城県立竹園高等学校, 山陽女子中学校・高等学校, 逆川こどもエコクラブ, 清風中学校・高等学校

10 サテライト会場

霞ヶ浦、涸沼、千波湖に近接する5市町（土浦市、かすみがうら市、鉾田市、茨城町、水戸市）において、会議前に市民団体等と連携した環境関連行事（環境フェアやシンポジウム等）を開催した。

サテライト会場での活動の成果は、霞ヶ浦セッションや湖沼セッション（国内湖沼）において発表した。

(1) 土浦市

主催：第17回世界湖沼会議サテライトつちうら実行委員会

① 泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル

日時 2018年(平成30年)7月16日(月・祝)

会場 国民宿舎「水郷」霞浦の湯前(土浦市大岩田)

内容

- ・土浦市内及び近郊6校の高校に在学する高校生が、各自「霞ヶ浦とその流域の将来像」を提案し、ディスカッションを行う「ハイスクール会議」
- ・カヌー、キャスティングゲーム、スラックラインなどの体験ブース
- ・各種展示ブース、飲食ブース
- ・移動動物園
- ・土浦市内及び近郊の小学生による吹奏楽演奏
- ・さかなクントークショー

参加者数 約6,000名



② 茨城県霞ヶ浦環境科学センター夏まつり

日時 2018年(平成30年)8月25日(土)

会場 茨城県霞ヶ浦環境科学センター(土浦市沖宿町)

内容

- ・農業者、漁業者、林業者、里山保全団体、大学生による活動事例発表及びパネルディスカッションを行う「流域連携市民会議」

特別講演：「霞ヶ浦について」

島根大学名誉教授・

前茨城県霞ヶ浦環境科学センター長

相崎 守弘 氏

- ・体験型イベント(子ども魚釣り教室、タッチングプール、クイズ大会、各種実験・工作教室等)

参加者数 約4,800名



③サテライトつちうらメイン大会

日時 2018年(平成30年)10月13日(土)

会場 L'AUBE (メイン会場), 土浦港, J:COM スタジアム土浦(以上, 土浦市川口), アルカス土浦, うらら大屋根広場, 茨城県県南生涯学習センター(以上, 土浦市大和町)

内容

- ・霞ヶ浦及びその流域で活動する市民団体, 企業, 研究機関, 行政など47団体による活動事例発表(ポスター発表, 口頭発表, パネルディスカッション)
- ・亀城太鼓保存会による太鼓演舞
- ・土浦市立第二小学校合唱団, 合唱団きんもくせいによる合唱
- ・陸上及び水上のゴミ拾い, 防潮堤の壁画アート
- ・霞ヶ浦遊覧船運行, 霞ヶ浦直接浄化実証施設見学会
- ・クイズ大会&フラタヒチアンダンスショー, うまいもの市, サイクリングイベント, つちうらが好き!ライブ&うららマルシェ
- ・体験型イベント(カヌー及びアクセスディンキー, ランニングバイク等)
- ・霞ヶ浦の恵みを用いた料理の無料提供
- ・ミニFM放送局
- ・映像展, 廃ガラスアート大作品展
- ・第13回土浦市環境展
- ・市民団体, 企業, 行政の展示・体験ブース等



参加者数 約10,000名

(2)かすみがうら市

主催：世界湖沼会議かすみがうらサテライト実行委員会

①帆引き船フェスタ with 世界湖沼会議

日時 2018年(平成30年)5月4日(金・祝)

会場 歩崎公園(かすみがうら市坂)

内容

- ・「霞ヶ浦の帆引網漁の技術」国選択無形民俗文化財選択書交付による伝達式
- ・「かすみがうら讃歌」合唱(合唱団きんもくせい), あゆみ太鼓, MJCダンス, オニツカサリーライブショー ステージ
- ・シラウオ丼の試食
- ・帆引き船実物陸揚げ展示, 帆上げ体験, 帆引き船の操業及び随伴船での観覧, 帆引き船の模型づくり教室



参加者数 約7,000名

②帆引き船講演会&帆引き船シンポジウム「帆引き船と霞ヶ浦の魚食文化」

日時 2018年(平成30年)9月16日(日)

会場 農村環境改善センター・歴史博物館(かすみがうら市坂)

内容

- ・ 基調講演や水産業従事者及び水産業行政に携わる方々のパネルディスカッションを通し、新たな霞ヶ浦と人との共生関係を模索
基調講演：「霞ヶ浦の恵みと魚食文化」
筑波学院大学 教授 古家 晴美 氏
- ・ 小・中学生による環境学習事例発表
- ・ 霞ヶ浦の川魚料理の試食会
- ・ 帆引き船模型100艘及びメッセージの展示
- ・ 世界湖沼会議(生態系サービス)、帆引き船の歴史、霞ヶ浦環境事業の取組、動物多様性等パネル展示
- ・ 七色帆引き船の操業及び随伴船での観覧
- ・ 世界湖沼会議開催記念ダムカード配布
- ・ 歴史博物館において世界湖沼会議を記念した特別展示
「日本漁業史の中の帆引き船 ―霞ヶ浦漁業からの殖産興業―」
(9月15日～10月21日)



参加者数 749名

(3) 鉾田市

主催：鉾田市世界湖沼会議サテライト会場実行委員会

○鉾田市世界湖沼会議サテライト会場

日時 2018年(平成30年)10月8日(月・祝)

会場 鉾田市総合公園(鉾田市当間)ほか

内容

- ・ 基調講演：「世界にひとつの鉾田の自然と農」
公益財団法人日本生態系協会 会長
池谷 奉文 氏
- ・ 市内の小学生や高校生、環境団体による環境学習事例発表
- ・ 各種ブース展示、市民活動のパネル展示
- ・ 市民活動への参加(7月～10月)
ホテル観賞会(中止)、ヨシゴイを見る会、
ツバメのねぐら入りを見る会、カムリカイツブリを見る会、
ノルディックウォーキング自然体験会



参加者数 900名

(4)茨城町

主催：第17回世界湖沼会議サテライトひぬま実行委員会

○第4回湖沼環境フェスティバル ラムサールシンポジウム in ひぬま

- 日時** 2018年(平成30年)10月8日(日)
(当初9月30日(日)に開催予定であったが台風24号の影響により順延)
- 会場** 茨城町駒場庁舎
- 内容**
 - ・特別講演：「気候の変動と生態系への影響」
気象予報士 森田 正光 氏
 - ・湖沼のラムサール条約登録をテーマとしたシンポジウム
 - ・シジミ汁や地元の農産物等の提供
- 参加者数** 250名



(5)水戸市

主催：水戸市環境フェア実行委員会

○水戸市環境フェア 2018

- 日時** 2018年(平成30年)6月3日(日)
- 会場** 千波公園(水戸市千波町)
- 内容**
 - ・シンポジウム, ワークショップ
 - ・さかなクントークショー, みとちゃんダンス, 環境啓発劇
 - ・体験型イベント(ボート体験, ピオトープ作り体験, 外来種フィッシング, セグウェイ体験等)
 - ・各種ブース展示, 地産地消グルメ, フリーマーケット等
- 参加者数** 約13,000名



11 展示企画

(1) 展示会

展示会は、つくば国際会議場1階多目的ホールにて、15日(月)～19日(金)の17日(水)を除く4日間行われた。42の企業・研究機関等が「科学的知見に基づくモニタリング」や「持続可能な生態系サービスに向けた対策・技術」等についての先進的な実例や活動内容等を展示した。

<出展者一覧> (小間数順, 五十音順に記載)

No.	出展者名	小間数	No.	出展者名	小間数
1	(株)日立製作所	6	22	宇部工業(株)	1
2	(一社)茨城県環境管理協会	4	23	econet いばらき by 常磐大松原ゼミ & 水戸英宏中科学同好会	1
3	茨城大学	4	24	応用地質(株)	1
4	(国研)農研機構	4	25	小美玉市	1
5	JX金属環境(株)	3	26	共和化工(株)	1
6	(株)カスミ	2	27	(一社)埼玉県環境検査研究協会	1
7	環境システム(株)	2	28	「逆川こどもエコクラブ」with 丸太建設	1
8	管清工業(株)	2	29	(株)サンユウ	1
9	国土交通省国土地理院	2	30	(株)シエル・テール・ジャパン	1
10	(国研)国立環境研究所	2	31	(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所	1
11	滋賀県	2	32	(株)生物技研	1
12	筑波大学	2	33	大央電設工業(株)	1
13	(株)西原環境	2	34	(公財)日本下水道新技術機構	1
14	ノダック(株)	2	35	(株)ハウステック	1
15	フジクリーン工業(株)	2	36	パシフィックコンサルタンツ(株)	1
16	(株)ワールドケミカル	2	37	ビーエルテック(株)	1
17	(有)アルファサービス	1	38	ピーティー・ウルトラトレックス・インドネシア	1
18	(株)安斉管鉄	1	39	(株)日吉	1
19	いであ(株)	1	40	(株)堀場アドバンスドテクノ	1
20	いばらきコープ生活協同組合	1	41	前澤工業(株)	1
21	(公社)茨城県水質保全協会	1	42	WEF技術開発(株)	1

(2) 協賛企業・団体の紹介パネル展示

協賛企業・団体の紹介パネル展示は、15日(月)～19日(金)の17日(水)を除く4日間、つくば国際会議場2階通路付近にて行われ、協賛企業の湖沼等の環境保全に対する取組をパネル等により紹介した。

<出展者一覧> (協賛・助成金額順, 五十音順に記載)

No.	展示企業・団体名	No.	展示企業・団体名
1	(株)日立製作所	7	(株)カスミ
2	(株)常陽銀行	8	JFEエンジニアリング(株)
3	(公財)茨城県開発公社	9	関彰商事(株)
4	(公財)本田記念財団	10	損害保険ジャパン日本興亜(株)
5	JAグループ茨城	11	(株)筑波銀行
6	(株)ウォーターエージェンシー		

※(公財)河川財団については、1階通路付近において、ダムカード配布ブースとともにパネル展示を実施。

(3)主催者等の取組展示

主催者等の取組展示は、15日(月)～19日(金)の17日(水)を除く4日間、つくば国際会議場中会議室202Bにて行われ、うち18日(木)11:00～14:00にコアタイムが設けられた。主催者や共催者等の湖沼環境等への取組をポスター等により紹介した。

<出展者一覧> (順不同)

(公財)国際湖沼環境委員会, 茨城県営業戦略部観光物産課, 茨城県霞ヶ浦環境科学センター, 茨城県霞ヶ浦北浦水産事務所, 茨城県環境放射線監視センター, 茨城県企業局, 茨城県教育庁総務企画部文化課, 茨城県産業技術イノベーションセンター, 茨城県政策企画部地域振興課, 茨城県生物多様性センター, 茨城県畜産センター, 茨城県農業総合センター, 茨城県農林水産部畜産課, 茨城県農林水産部農業技術課, 茨城県流域下水道事務所, 茨城県県民生活環境部環境対策課, ミュージアムパーク茨城県自然博物館, 環境省環境省水・大気環境局水環境課, 国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所, 国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦導水工事事務所, 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課, 農林水産省大臣官房政策課環境政策室, 茨城町生活経済部みどり環境課, かすみがうら市市民部生活環境課, つくば市生活環境部環境政策課, 土浦市市民生活部環境保全課, 鉾田市市民部生活環境課, 水戸市生活環境部環境課, 茨城大学, 霞ヶ浦問題協議会, (国研)国立環境研究所, (国研)国立環境研究所琵琶湖分室, 筑波大学生命環境系・水文科学リサーチユニット, (国研)土木研究所, (国研)農研機構, (独)水資源機構利根川下流総合管理所, ラムサール条約登録湿地ひぬまの会

(4)廃ガラスアート展示

会期中, 中ホール300前にて, 子どもたちが廃瓶となったガラス瓶を再利用しアートに仕上げた廃ガラスアートを展示した。

<出展者> NPO法人エコレン

12 会議総括

日時 2018年(平成30年)10月19日(金) 10:00-12:00

会場 つくば国際会議場 大ホール

○各プログラム報告

10月19日10時から、10月15日から5日間にわたって行われてきた第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）の会議総括が行われた。

まず、最初に、政策フォーラム、湖沼セッション、霞ヶ浦セッションの各プログラムのコーディネーター及び各分科会検討部会長からの発表総括が行われた。

<各プログラム総括報告者一覧>

・政策フォーラム	松井三郎	第17回世界湖沼会議企画推進委員会委員長
・湖沼セッション(国外湖沼)	中村正久	公益財団法人国際湖沼環境委員会副理事長
・国内湖沼セッション(国内湖沼)	福島武彦	茨城県霞ヶ浦環境科学センター長
・霞ヶ浦セッション	福島武彦	茨城県霞ヶ浦環境科学センター長
・第1分科会	山野博哉	国立環境研究所生物・生態系環境研究センター長
・第2分科会	天野邦彦	国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部長
・第3分科会	今井章雄	国立研究開発法人国立環境研究所フェロー、琵琶湖分室長
・第4分科会	香川眞	流通経済大学名誉教授
・第5分科会	黒田久雄	国立大学法人茨城大学農学部地域総合農学科教授
・第6分科会	田中宏明	国立大学法人京都大学大学院 工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター
・第7分科会	古米弘明	国立大学法人東京大学大学院 工学系研究科附属水環境制御研究センター教授
・第8分科会	小川かほる	小川かほる環境教育事務所代表
・第9分科会	中村正久	公益財団法人国際湖沼環境委員会副理事長

第1分科会 発表総括

生物多様性の評価から漁業を含む生態系サービスの評価、環境DNAや生態系モデルなど最新の手法、伝統知の活用が示されたほか、侵入種や気候変動の影響など、環境変化に対する変化や応答への関心の高まりが見られた。それらの結果を活用した生態系の保全・管理・再生への発展が望まれる。

第2分科会 発表総括

気候変動や社会変化に応じた利用水量の調整の必要性、水質、生態系及び土砂の管理のための流域管理などに関する発表が行われた。新技術が必要なのではなく、社会的に取り組む文化的解決の重要性が確認された。法的枠組みの整備、関係者の連携と合意形成のための枠組みの整備、そして具体的な管理ツールの開発・整備の展開が求められる。

第3分科会 発表総括

水質、富栄養化、水質汚染、栄養塩、底泥、水質管理、アオコ、生態系機能、気候変動など多岐にわたる発表があった。研究自体は、単なる調査やレビュー的まとめは少なく、定性的な研究からより定量的な研究志向が高まっている。簡易的かつ定量的な測定・モニタリング・評価・対策の手法の迅速な開発が求められる。

第4分科会 発表総括

地域の伝統文化の保全と創造に関して様々な発表が行われた。湖沼、水辺での生業が作り出してきた個性的な技術・文化・信仰などの発表があったほか、観光まちづくりによる地域発展の取組みの一例として、サイクルツーリズムやエコツーリズムなどの「遊び」を取り入れた事例が紹介された。持続的な発展のためには、リーダーの育成、地域連携の強化、ファシリテータ育成の観光教育等が必要となる。

第5分科会 発表総括

湖沼流域での窒素やリンの汚濁発生源とその物質循環の解明、流域の人間活動による水質汚濁と浄化対策、森林の保全対策及び原発事故由来の放射性物質や抗生物質由来の多剤耐性菌などの課題について発表があった。将来にわたって生態系サービスを衡平に享受するためにも、流域の人間活動により物質循環が歪められ湖沼へ影響が現れていることを認識すべきである。

第6分科会 発表総括

環境モニタリングデータベース、リモートセンシングによる湖沼モニタリング、モデリングと解析、プランクトンと溶存有機物の動態などについての発表があった。湖沼生態系は流域の人間活動、土砂供給、土地や水利用の変化、湖沼内あるいは生物間の相互作用、さらに温暖化や気候変動によって大きく影響を受ける。これらの現状を確実に把握し、将来変化を予測し、適切に対策をとるためには新しい知見を踏まえた科学的で長期的なモニタリングが重要である。

第7分科会 発表総括

生態系サービスを将来にわたって持続的に享受するためには、浄水技術・排水処理技術、湖内浄化などハード技術と排水規制、面源・流出水対策などが適切に組み合わせて導入される必要がある。排

水処理技術については、有機物・窒素・りんなどの栄養塩に加えて、微量化学物質にも配慮することが期待される。また、点源に加えて、面源対策の重要性が増加している。湖沼流域全体を俯瞰して、様々な利害関係者が連携して、湖沼流域や地域の社会や経済状況を考慮した適正技術の導入が必要となる。さらに、将来の気候変動に伴う生態系サービスへの影響評価も大事な課題である。

第8分科会 発表総括

多くの発表の中に共通するキーワードとして、意識啓発と協働があった。市民活動の中に環境学習の取組があり、その目的の一つに意識啓発があった。また、市民活動や環境学習を行うためには、多様なセクターとの協働が必要であり、協働から持続的なネットワークが広がり、世界各地で市民活動をベースにした湖沼流域の水環境改善のための取組みが広がっていることが報告された。

第9分科会 発表総括

発展途上国の湖沼環境問題は深刻化しており、湖沼環境問題への国際的な取組みを世界の水を巡る取組みの主要事項として位置づけることが必要。そのためには国際連合を含む国際機関や既に先進的な取組を推進してきた国々が統合的湖沼流域管理 (ILBM) の幅広い推進の中心的役割を果たし、発展途上国と経験や課題を共有することが望まれる。また、生態系サービスを適切にILBMプロセスに反映していくべきであるという指摘も数多くあり、今後、様々な反映手法を開発していくことが重要となる。

○全体総括

各プログラムの発表総括が終わると、松井三郎 第17回世界湖沼会議企画推進委員会委員長より、会議全体の総括が行われた。この会議が50ヶ国・地域から多くの参加者を迎えたこと、学生会議に多くの学生が参加し活発な意見交換が行われたこと、多くの市民や企業・団体などの協力もあり、成功を収めたことが報告された。

続いて、「いばらき霞ヶ浦宣言」に関して、報告がなされた。

「いばらき霞ヶ浦宣言」については、実行委員会に設置された専門委員会であるいばらき霞ヶ浦宣言起草委員会において作成された原案をもとに、ホームページでのパブリックコメント、世界湖沼会議の討議の結果などを取り込み、昨晚、作りあげたものであるという作成過程を説明し、その全文を読み上げた。

そして、この場で集約できない意見がある場合については、事務局に意見を申し立てることとし、事務局は改めて寄せられた全ての意見を宣言の付帯記録として残すことで、この宣言案を正式な宣言とすることの了解を求めた。それに対し、場内からは拍手が起こり、「いばらき霞ヶ浦宣言2018」が採択された。

Ⅶ 閉会式

日時 2018年(平成30年)10月19日(金) 13:00-14:00

会場 つくば国際会議場 大ホール

閉会式では、最初に第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)実行委員会会長 大井川和彦 茨城県知事が、主催者として挨拶をおこなった。挨拶では、関係省庁、地方公共団体をはじめ、協賛、後援で名を連ねた各種団体への謝辞に続き、14日の学生会議、そして会期中に活発な議論が行われたことを挙げ、「今回の会議が一過性のイベントで終わることなく、会議で築いた様々な連携を世界に広げ、生態系サービスを次の世代に引き継ぐ努力が世界中で展開されることを心から期待しているところであります」と、今後の展開への希望を述べた。また、2020年にメキシコ合衆国で行われる第18回世界湖沼会議と、2021年にセネガル共和国で開催される第9回世界水フォーラムの成功を祈念するとエールを送った。

続いて、齋藤章 茨城県県民生活環境部長が、午前中の会議総括において採択をされた「いばらき霞ヶ浦宣言2018」の全文を朗読した。朗読が終わると、会場は満場の拍手となった。

次に、メキシコ合衆国、グアナファト大学のセルジオ・アントニオ・シルバ・ムニョス副学長から挨拶があり、今回の会議で議論された重要な論点を、次回の第18回世界湖沼会議においても取り上げていきたいと抱負を語ると共に、次期開催地のグアナファトの紹介ビデオを上映し、「2年後にメキシコでお待ちしています」と締めくくった。

さらに、公益財団法人国際湖沼環境委員会科学委員長であるウォルター・ラスト テキサス州立大学名誉教授が登壇し、2021年にセネガル共和国のダカールで開催される第9回世界水フォーラムについて紹介した。

最後に、竹本和彦 公益財団法人国際湖沼環境委員会理事長が閉会の挨拶を行った。「人と湖沼の共生—持続可能な生態系サービスを目指して—」を主要テーマに据えた今回の世界湖沼会議が、「生態系サービスを衡平に享受すること、生態系サービスを次世代に引き継ぐことを目指し、あらゆる行動に結びつけていくことを国際社会に向けて発信できたことは大変大きな成果であったと思います」と述べてから、2020年グアナファトで開催される次回の世界湖沼会議での再会を約束して、5日間にわたって開催された会議は、全てのプログラムを終了した。

日程表

項目	概要
開会	
主催者挨拶	○実行委員会会長 茨城県知事 大井川 和彦
「いばらき霞ヶ浦宣言」朗読	○茨城県県民生活環境部長 齋藤 章
次回開催地主催者挨拶	○次回世界湖沼会議開催地の主催者 メキシコ合衆国グアナファト大学副学長 Sergio A.Silva Muñoz
ILEC科学委員挨拶	○次回世界水フォーラムについて紹介 ILEC科学委員長 Walter Rast
閉会の辞	○公益財団法人国際湖沼環境委員会(ILEC) 理事長 竹本 和彦
閉会	

いばらき霞ヶ浦宣言2018

私たちは、これまで世界湖沼会議をはじめ様々な会議において水質浄化、生態系保全、気候変動、持続可能な水利用など多くの課題について、意見を交換し、各地で行動をおこしてきた。

また、2015年には、国連サミットにおいて「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択され、世界各国では、その達成に向けて積極的な取組が始められようとしている。

しかしながら、SDGsに見られるとおり、世界の水環境問題を議論する場においては、湖沼の位置づけは弱く、極めて不十分である。多くの湖沼においては、汚濁負荷の増加や湖沼とその流域の開発などの人為的な圧力、地球規模の気候変動などにより、水質の悪化のみならず生物多様性が損なわれている。湖沼環境は、いったん破壊されるとその修復が難しく、湖沼が本来有している生態系サービスが十分に機能しなくなる。

今こそ私たちは、湖沼が水環境の中で極めて重要な位置を占めていることを認識し、今後、国連をはじめとする世界の水を巡る議論の場における主要課題として位置付けられるように努力する必要がある。さらに、人と湖沼が互いに良い作用を与えながら、湖沼環境の健全性を維持しつつ、湖沼から得られる恵み、すなわち生態系サービスを将来にわたって持続的に享受できるよう、英知を結集しなければならない。

第17回世界湖沼会議では、人と湖沼の共生—持続可能な生態系サービスを目指して—をテーマとして議論を重ねた。全ての参加者は、会議での議論、会議前に各地で開催されたサテライト会場での様々な意見や見解を踏まえ、生態系サービスを衡平に享受すること、生態系サービスを次世代に引き継ぐことを大原則として、以下のことを宣言する。

1 生態系サービスを衡平に享受すること

湖沼の生態系サービスは、次の4つで構成される。ひとつ、生命の存在とその多様性に関わる水や栄養塩の循環などにより生態系を機能させる「基盤サービス」、ひとつ、生活、農業、漁業、工業などに必要な水資源を提供する「供給サービス」、ひとつ、治水や自然浄化機能などの「調整サービス」、ひとつ、信仰、芸術、民俗等の歴史的財産、食文化、野鳥観察、水上スポーツ、釣りなどの「文化的サービス」である。

現在、これらの生態系サービス間の均衡が崩れてきており、それに伴い様々な課題が生じてきている。

生態系サービスの均衡を図り、衡平に享受するためには、流域住民、農林漁業者、事業者などのあらゆる主体が、自らの営みが環境に与える負荷を理解し、これを最小限に抑えるために、それぞれが責任を自覚し、応分の負担をしなければならない。また、行政は湖沼の生態系サービスに関わる全ての当事者と連携しながら真に効果のある対策を選択・実施し、その効果を定期的に検証し、躊躇することなく見直しを行っただうえで、新たな対策に反映させていかななければならない。このためには、流域住民、農林漁業者、事業者、行政、さらには市民団体、研究者などが効果的なパートナーシップを構築し、強化していくことが不可欠である。

人口増加や貧困、政治的不安定など多くの課題を抱える地域においては、生態系サービスを衡平に享受することが困難な状況にあることから、各国は先住民族や地域住民の主体性を考慮しながら、財政面、制度面あるいは技術面での情報提供、支援を強化するなど、国際的な協働を進めなければならない。さらに国家間、自治体間、湖沼の上流域から下流域の全ての関係者が連携して、それぞれの湖沼流域での課題と解決方法について情報共有を図るよう努めなければならない。

特に、湖沼流域における統合的な取組においては、現在、世界的に推進されている統合的水資源管理 (IWRM) や統合的河川流域管理 (IRBM) に加え、湖沼環境における生態系サービスの段階的・継続的な回復・向上の促進指針である統合的湖沼流域管理 (ILBM) を推進することが重要である。

2 生態系サービスを次世代に引き継ぐこと

湖沼の生態系サービスは、自然資本、人的資本など様々な資本により成り立っていること、また、これらの資本は時代のニーズや情勢により有機的に関わり合いつつ変化していることを理解したうえで、次世代に引き継ぐことに努めなければならない。

自然資本を継承していくためには、まずは生態系サービスの衡平性を確保する必要がある。そのためには湖沼環境に関する情報や課題を整理し、流域住民、農林漁業者、事業者などのあらゆる主体が、湖沼アセスメントに基づいて湖沼流域の共通の未来像について議論し共有することが重要である。また、今回の会議において得られた知見、技術を駆使し、効率的かつ科学的に、湖沼や流域の環境や生物相などのモニタリングデータを蓄積し、解析することで、自然資本減少の原因を明らかにし、回復に努める必要がある。

人的資本を増やしていくためには、子どもから大人まで全ての世代を対象とした、地域社会の伝統的な知恵も取り入れた湖沼に関する学習を契機に、教育機関のみならず、流域住民、農林漁業者、事業者、行政などが連携・協働して、持続可能な社会を見据え、地域から国際的な問題の解決に参画する能力を養う必要がある。今回の湖沼会議では、子どもたちによる会議が開催され、充実した活動内容が発表された。そこでは、人々の意識を変えるための「認知」、同じ気持ちをもつ仲間の輪を広げる「協力」、継続して環境保全活動に取り組んで行く「参加」といった、未来に向けての提言がなされた。私たちは、子どもたちも生態系サービスを衡平に享受するための大切なパートナーであることを認識し、彼ら次世代の自主性・主体性を尊重し、彼らの思い描く未来、そして現代に対する警鐘に真摯に耳を傾けなければならない。

一方、地球規模の気候変動に起因する自然災害のリスクや水を利用する者の競合は、湖沼流域における喫緊の課題となっている。湖沼管理には気候変動への適応が避けては通れないことを認識し、湖沼生態系が持つ気候変動への適応力を最大限に発揮できるよう、努めなければならない。

私たちは、地域の歴史、文化などを含め、湖沼がもたらす生態系サービスが、その地域の類まれなる財産であることを理解し、それらを誇りとして維持・向上することに努め、生態系サービスの衡平性を確保し、それらを次世代に引き継がなければならない。

Ibaraki Kasumigaura Declaration 2018

Having expressed and exchanged our views on many water issues at various international conferences, including past World Lake Conferences, we have worked to mobilize appropriate actions around the world to address a range of water issues, including water purification, ecosystem recovery and conservation, climate change, and sustainable water use.

Furthermore, with the Sustainable Development Goals (SDGs) having been adopted at the United Nations Summit in 2015, countries around the world have moved to initiate positive efforts aimed at achieving those goals.

Nevertheless, in the SDGs and in water-related global fora, reference to lakes and other lentic waters around the world has been quite limited and very inadequate. The environmental quality of many lakes and other lentic water systems continues to deteriorate, and their aquatic biodiversity is being seriously impaired because of anthropogenic pressures such as increased pollution loads, socioeconomic development of lakes and their basins, and global climate change. Once seriously degraded, restoring a lake environment to its former condition is difficult and, as a result, the range and magnitude of ecosystem services originally provided by lakes diminishes markedly.

Thus, we the participants at the 17th World Lake Conference must reaffirm that lakes and other lentic waters are critically important water environments on our planet, and should be mainstreamed in upcoming United Nations and other major international fora on water.

Accordingly, we must strive to provide our experience and wisdom so that humans and lakes may interact in a positive manner in order that humanity will be able to perpetually benefit from the blessings provided by lakes and their ecosystem services, while also maintaining the health of lake environments.

Extensive discussion has taken place at this 17th World Lake Conference on the theme, “*Harmonious Coexistence of Humans and Lakes: Toward Sustainable Ecosystem Services.*” In consideration of these discussions and the views expressed at the satellite venues during side events prior to the Conference, and based on the overriding principles of “sharing the benefits of ecosystem services fairly and equitably” and “utilizing ecosystem services sustainably,” we participants unanimously declare the following:

1. Share the benefits of ecosystem services fairly and equitably

Lake ecosystem services are grouped into four important categories, including supporting services that include recycling of water and nutrients, as well as maintenance of biodiversity; provisioning services that provide water resources necessary for life, agriculture, fisheries, and industrial use; regulating services such as flood control and natural purification functions; and cultural services that include religious beliefs, art, ethnic historical property, food culture, wild bird habitats, water sports and fishing.

The previous balance among these ecosystem service components is no longer in balance, with a wide range of problems resulting as a consequence of this imbalance.

In order to maintain the balance between ecosystem services, and to ensure these services are shared fairly and equitably, all those involved, including basin residents, farmers and fishermen, and business operators, must understand the impacts their activities have on the environment and also must be aware of their own responsibilities and assume their fair share of the burden and expenses in order to minimize the impacts. Moreover, governments must select and implement measures that are truly effective in cooperation with all parties benefitting from lake ecosystem services, including periodically reviewing and verifying the effects of those measures, before utilizing the outcomes of such reviews in developing or implementing new measures. To this end, it is essential for basin residents, farmers and fishermen, business operators, government employees, citizen groups, researchers and others to build and enhance effective partnerships focusing on this goal.

In regions facing numerous challenges such as population growth, poverty and political instability, it is not easy for ecosystem services to be shared fairly and equitably. Therefore, countries must promote international collaboration, such as strengthening the provision of financial, institutional or technological information and support, while also considering the useful role of indigenous peoples and community residents. In addition, efforts must be directed to ensuring stakeholders from different national governments, local governments and upstream and downstream districts cooperate with each other, and share information on relevant issues and solutions from their respective lake basins.

Particularly in terms of integrated lake basin initiatives, in addition to the Integrated Water Resources Management (IWRM) and Integrated River Basin Management (IRBM) approaches currently being promoted worldwide, it is important to promote and enhance Integrated Lake Basin Management (ILBM) as a guideline for facilitating the gradual and continuous assessment, restoration and improvement of ecosystem services in lake environments.

2. Utilize ecosystem services sustainably

Recognizing that lake ecosystem services comprise various forms of capital, including natural capital and human capital, and that these forms of capital are organically interconnected and change according to the needs and circumstances of the times, we must endeavor to ensure the health of lakes and other lentic water systems in order to ensure the next generation also can share their ecosystem services.

For natural capital to be handed down, we must first maintain the balance between respective ecosystem services. Accordingly, it is important to sort out the issues and information related to lake environments and for all stakeholders, including basin residents, farmers and fishermen, and business operators, to discuss and develop a common compatible vision for the future of lake basins based on scientific and socioeconomic lake assessments conducted globally. Furthermore, we must also clarify the causes of the declines in natural capital and

restore it by making full use of the knowledge and technology learned at this Conference, and by efficiently and scientifically accumulating and analyzing monitoring data regarding the environment and biota of lakes and their basins.

To increase human capital, educational institutions, as well as basin residents, farmers and fishermen, business operators, government employees and other relevant stakeholders, etc., must cooperate and collaborate to nurture competency in solving international problems that is derived from a local perspective, in anticipation of a sustainable society. This includes taking advantage of learning programs that incorporate the traditional wisdom of local communities, which are designed for all generations ranging from children to adults, to learn about lakes and their issues. To this end, sessions devoted solely to children and youth were held at this World Lake Conference. In addition to making presentations on their prolific activities, there was a lively exchange of opinions. A major recommendation was to value “perception” to influence people’s mindset, “collaboration” to expand the network of friends, and “participation” to pursue continuous activities for environmental conservation. Recognizing that children are also an important partner for sharing the benefits of ecosystem services fairly and equitably, we must respect the autonomy and independence of this next generation, paying careful attention to the future they envision, as well as the warnings they give to our present generation.

On the other hand, the risk of natural disasters attributable to global climate change and competition among water users have become urgent issues for lake basins and their stakeholders. Recognizing that adaptation to climate change is an inevitable part of lake management, we must endeavor to maximize the inherent ability of lake ecosystems to adapt to climate change.

Recognizing that ecosystem services derived from lakes, including local history and culture, are rare assets of that region, we must take pride in them, and strive to maintain and develop them, and well as maintaining the balance between our use of current ecosystem services, and ensuring the next generations also can fairly and equitably enjoy these services!

VIII 交流行事

1 歓迎パーティー

- 趣旨** 会議受付のために本会議前からお越しいただいた方（主に外国人）や、学生会議の関係者（参加児童・生徒は除く）を歓迎するものとして開催した。参加者の最初の交流の場として、日本や茨城の魅力を楽しんでいただくため、アトラクションや茨城の食材を使用した料理等でもてなした。
- 日時** 2018年(平成30年)10月14日(日)18:00～20:00
- 会場** ホテルグランド東雲 本館2階「東雲の間」
- 参加者** 約260名（立食ビュッフェ形式）
- ・ ILEC科学委員， 途上国参加者旅費等助成対象者， いばらき霞ヶ浦賞受賞者， 来賓（外国人）， 学生会議関係者 等を招待
 - ・ 茨城県， ILEC， 共催市町首長， 参加申込希望者

次第

内容
受付開始
開演
アトラクション1：太鼓演奏(常陸乃国ふるさと太鼓会)
主催者挨拶：大井川 和彦 茨城県知事(逐次通訳)
主催者挨拶：竹本 和彦 ILEC理事長
開催地挨拶：五十嵐 立青 つくば市長
共催者紹介
乾杯：松井 三郎 企画推進委員会委員長
歓談
アトラクション2：箏，フルート，チェロ三重奏(Sakura project)
歓談
中締め：齋藤 章 茨城県県民生活環境部長
閉宴

2 招待者レセプション

- 趣旨** 共催，後援，実行委員会委員等及び協賛企業・団体等に会議への準備にご尽力いただいたことを感謝し，開催した。
- 日時** 2018年(平成30年)10月15日(月)18:00～20:00
- 会場** オークラフロンティアホテルつくば アネックス1階「昴の間」
- 招待者** 約330名
- ・ 実行委員会委員， 企画推進委員会委員， 専門委員会委員， 本県選出国會議員， 県議會議員， 県内市町村長， 市町村議會議長， 分科会招待発表者・座長， 政策フォーラム等パネリスト， ILEC科学委員， 途上国参加者旅費等助成対象者， いばらき霞ヶ浦賞受賞者， 滋賀県知事， 滋賀県議會議長， 協賛企業・団体代表者 等
- メニュー** 県産食材をふんだんに使用した料理と，県内全域から取り寄せた日本酒を用意（立食ビュッフェ形式）

次 第

内 容
受付開始
開演
主催者挨拶：大井川 和彦 茨城県知事
来賓挨拶：中川 清 土浦市長 Gábor Molnár バラトン湖開発評議委員会マネージングディレクター
鏡開き、乾杯：竹本 和彦 ILEC理事長
歓談
アトラクション1 ・津軽三味線：はなわ ちえ氏 ・パフォーマンス書道：笹島 沙恵氏
アトラクション2 ・高校生によるジャズバンド演奏： 水戸工業高校 BLUE BEGINNERS
歓談
中締め：山岡 恒夫 茨城県議会議長
閉宴

3 参加者交流会

趣 旨 閉会式前日に会議参加者の最後の交流の場として、会議場内で開催した。会議の余韻に浸り、活発な交流が行なわれるよう、アトラクションや茨城県の食材を使用した料理等でもてなした。

日 時 2018年(平成30年)10月18日(木)18:00～20:00

会 場 つくば国際会議場 1階大会議室101+102

参加者 約260名（立食ビュッフェ形式）

- ・実行委員会、企画推進委員会、各種専門委員会委員等を招待
- ・茨城県、ILEC、参加申込希望者

次 第

内 容
受付開始
開宴
挨拶：齋藤 章 茨城県県民生活環境部長
乾杯：Walter Rast ILEC科学委員長
歓談
分科会優秀発表表彰式：福島 武彦 茨城県霞ヶ浦環境科学センター長(授与者)
歓談
会期中の写真をもとめた映像の上映
中締め：中村 正久 ILEC副理事長
閉宴、写真撮影

Ⅸ エクスカーション

10月17日には、会議参加者を対象に霞ヶ浦、北浦、涸沼、千波湖周辺の環境関連施設等の現地視察や取組紹介を行うエクスカーションが実施された。参加は有料で、事前申込制とした。

コースは、霞ヶ浦周辺の施設での現地視察や生態系サービスへのふれあいを通して、霞ヶ浦の水質浄化に係る取組みを学ぶ「霞ヶ浦コース」と、ラムサール条約湿地に登録された涸沼に係る関係機関の取組紹介や、北浦、涸沼及び千波湖周辺の視察を行う「北浦・涸沼・千波湖コース」の2つを用意した。「霞ヶ浦コース」はA、B、C班の3班に分け、A、B班を外国人班、C班を日本人班とした。1班につきマイクロバス4台、計12台で班ごと異なる順番で各視察先を回った。一方、「北浦・涸沼・千波湖コース」では、参加者を4班に分け、1班につき大型バス1台、計4台で視察を行った。

エクスカーションには総勢254名が参加し、その中でも外国人が約8割を占めていた。そのため、ハラルやベジタリアンに合わせた食事の用意や、英語での説明・案内等を行った。

○霞ヶ浦コース

日時 2018年(平成30年)10月17日(水) 8:40-16:50

概要 霞ヶ浦周辺の国、県の環境関連施設等の現地視察を行い、霞ヶ浦の生態系サービスに触れ合うとともに、霞ヶ浦の水質浄化に係る取組を学んだ。

行程

項目	場所
(出発)	つくば国際会議場
①視察	石田湖岸
②視察	自然再生事業(B区間)
③視察	自然再生事業(H区間)
④視察	川尻川ウエットランド
⑤プレゼンテーション・昼食	茨城県霞ヶ浦環境科学センター
⑥視察	茨城県流域下水道事務所霞ヶ浦浄化センター
⑦視察	霞ヶ浦直接浄化実証施設
⑧視察	茨城県企業局霞ヶ浦浄水場
(到着)	つくば国際会議場

地図



(出典：国土地理院の地理院地図(標準地図)を掲載)

視察先の概要

視察先	概要
	<p>①石田湖岸[土浦市手野町] 湖水を直接浄化装置によって浄化し、湖内の閉鎖された区域に放流することで、浄化効果を視覚化し、住民に霞ヶ浦への親しみを持ってもらうことを目的とした場所です。</p>
	<p>②自然再生事業(B区間)[土浦市田村町] 多様な生物の生息環境を再生させることを目標に、浅水域、静水域、深場を持つ湾入部などの湖岸環境を整備しています。この場所では、ボート体験など環境学習の場として利用されています。</p>
	<p>③自然再生事業(H区間)[土浦市沖宿町] 既存植生を保全しながら、湖と連続性を持つ水辺空間を再生することを目標として、突堤や潜堤、養浜などの整備を行っています。この場所では、水生生物調査など環境学習の場として利用されています。</p> <p>「自然再生協議会」について 湖岸におけるかつての多様な自然環境を保全・再生するとともに、茨城県霞ヶ浦環境科学センターと連携した環境学習の場として活用することを目的とし、「自然再生推進法」に基づく協議会を平成16年に設置し、事業を進めています。 ※自然再生推進法：平成14年12月制定(国交省・環境省・農水省) ※協議会委員は、専門家、公募委員、行政関係の計39名で構成(H30.3)</p>
	<p>④川尻川ウエットランド[かすみがうら市戸崎] ウエットランド(湖内湖植生浄化施設)は、流入河川河口部に、仕切堤で区切った小さな湖(湖内湖)を設け、流入する汚濁物質の滞留や沈降による負荷軽減と、湖岸植生帯が持つ浄化機能や生物生息環境の創出を目的とした施設です。</p>
<p>▶プレゼンテーション ▶昼食</p> 	<p>⑤茨城県霞ヶ浦環境科学センター[土浦市沖宿町] 霞ヶ浦をはじめとする県内の湖沼、河川の水環境や大気環境などの保全に取組むため、「調査研究・技術開発」「環境学習」「市民活動との連携・支援」、「情報・交流」の4つの機能を有する総合的な施設です。</p> <p>【プレゼンテーション発表機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所 ・ミュージアムパーク茨城県自然博物館 ・茨城県企業局霞ヶ浦浄水場、茨城県流域下水道事務所霞ヶ浦浄化センター ・茨城県県民生活環境部環境対策課・茨城県霞ヶ浦環境科学センター
	<p>⑥茨城県流域下水道事務所霞ヶ浦浄化センター[土浦市湖北] 処理水量80,336t/日(平成29年度)の下水処理場です。霞ヶ浦に下水処理水を放流しているため、全系列でCOD、窒素及びりん除去のための高度処理を行っています。</p> <p>現在、処理系列は13系列あり、それらのうち2系列では「担体投入型修正バードンフォ法」という高効率高度処理法を日本で唯一採用しています。</p>
	<p>⑦霞ヶ浦直接浄化実証施設[土浦市川口] 土浦港内の湖水を汲み上げ、アオコなどの植物プランクトンの増殖要因の一つとなっているリン等を削減することにより、植物プランクトンの発生を抑制し、水質を改善する実証実験を行っています。処理能力は1万m³/日で、原水に凝集剤と磁性粉を添加し、フロック(凝集物)を磁石で回収しています。</p>
	<p>⑧茨城県企業局霞ヶ浦浄水場[土浦市大岩田] 霞ヶ浦を水源とする浄水場です。つくば市や土浦市等に水道水を供給しています。より安全で安心な水道水を安定的に供給するため、新しい高度処理技術(帯磁性イオン交換樹脂処理と促進酸化処理を組み合わせた世界初の処理技術)を導入する取り組みを行っています。</p>

○北浦・涸沼・千波湖コース

日時 2018年(平成30年)10月17日(水) 8:00-17:25

概要 ラムサール条約湿地に登録された涸沼に係る関係機関の取組を紹介するほか、北浦、涸沼及び千波湖の視察を行った。

行程

項目	場所
(出発)	つくば国際会議場
①視察	北浦北部周辺地域
②プレゼンテーション・昼食	いこいの村涸沼
③視察	涸沼自然公園
④視察	那珂機場(霞ヶ浦導水事業)
⑤視察	千波湖
(到着)	つくば国際会議場

地図



(出典：国土地理院の地理院地図(標準地図)を掲載)

視察先の概要

視察先	概要
	<p>①北浦北部周辺地域[銚田市安塚] 北浦北部周辺地域は、日本の原風景ともいえる手つかずの自然環境が残っています。とりわけ旧市街地と隣接する銚田川や巴川の流域の湿地帯には、多様な生物や水生植物群など豊富な自然環境が見られます。</p>
<p>▶プレゼンテーション ▶昼食</p> 	<p>②いこいの村酒沼[銚田市箕輪] 関東唯一の汽水湖である酒沼に面した温泉宿泊施設です。 敷地内に設置したインフォメーションプラザでは、「酒沼の自然と歴史と文化に触れる」と題して、ラムサール条約に認定された酒沼の自然などの展示を行っています。</p> <p>【プレゼンテーション発表機関】 ・大酒沼漁業協同組合 ・酒沼ラムサール条約推進協議会 ・ラムサール条約登録湿地ひぬまの会</p>
	<p>③酒沼自然公園[東茨城郡茨城町中石崎] 酒沼近くに位置し、自然の地形を生かした公園です。 四季折々の花や野鳥に出会える散策路や溪流が流れ、高台にある太陽の広場からは酒沼が一望できます。</p>
	<p>④那珂機場(霞ヶ浦導水事業)[水戸市渡里町] 水質浄化、流水の正常な機能の維持などを目的とした霞ヶ浦導水事業のための施設のひとつです。 ここに設置された導水用ポンプから地下トンネルを通じ、那珂川の水が霞ヶ浦や桜川へ送られます。 また、霞ヶ浦から那珂川への送水もこの施設を通じて行います。</p>
	<p>⑤千波湖[水戸市千波町] 水戸市のほぼ中心にある千波湖は、市民の憩いの場・観光客のおもてなしの場となっており、日本三公園である偕楽園から見下ろす眺めは壮観です。</p>

○参加人数

	外国人(名)	日本人(名)	全体(名)
霞ヶ浦コース	89	40	129
酒沼・北浦・千波湖コース	110	15	125
計	199	55	254

X 会議運営

1 参加登録・受付

(1) 事前登録

第17回世界湖沼会議の参加者は、当初、市民、研究者、企業、行政担当者等4,000名を想定し、準備を進めた。

会議に参加するためには、原則として事前に申込登録を行うこととした。

多くの方々に第17回世界湖沼会議を周知し、参加していただくため、事前情報を含め3回の開催案内書を作成し、内外の関係者に配布するとともに、公式ホームページ等に公開した。

2017年7月には、開催地（茨城県）や会場へのアクセス、会議構成等を全世界に広くPRし会議開催を周知するとともに、会議への参加を呼びかけるため、第1回開催案内書（日本語版10,000部、英語版1,500部発行）を配布するとともに、ホームページ上に掲載した。

2018年2月に発行した第2回開催案内書（日本語版20,000部、英語版5,000部発行、ホームページ上で公開）では、会議概要や登録料を含めた参加登録方法、論文募集方法等を全世界に広くPRし、会議開催を周知するとともに、会議への参加を呼びかけ、参加登録の受付を開始した。

事前登録の受付は、2018年2月5日から9月14日までとした。また、7月16日までの申込者には4,000円（途上国料金区分は2,000円）、また9月14日までの申込者には2,000円、通常登録料金から割り引く早期登録制度を設けた。

登録手続きは、会議への参加希望者が、公式ホームページよりオンラインを通して申し込みを行ったうえで、登録料をクレジットカードもしくは銀行振込にて納付する方式をとった。事務局の申込に対する入金確認をもって、事前にメールにて申込者宛て登録確認証を送信し、申込者は、この登録確認証と引き換えに、当日、受付で会議資料等を受け取るシステムとした。

2018年7月16日の早期登録締切日の登録状況は498件であった。このため、一層の参加促進を図る目的で、イベント等において案内書やパンフレット、広報媒体を活用し、積極的に参加を呼びかける広報に努めた。

その結果、2018年9月16日の通常登録締切日の登録状況は1,149件となった。

なお、それ以降の参加希望者については、すべて当日扱いとした。

(2) 登録料

第17回世界湖沼会議への参加者には、これまでに開催してきた会議（第1回会議は除く）と同様、参加者に登録料を負担していただくこととした。登録料の設定にあたっては、過去の会議の登録料の区分を参考に、先進国・途上国、学生（大学生・院生）、同伴者、1日登録等を区別して料金を区分することとした。また、多くの県民に会議に参加してもらうため、茨城県民特別料金（1日1,000円）を設定した。ただし、他の参加者から不公平感が出ないように、茨城県民特別料金で参加される方は、分科会等での発表は不可であること、コンgresバッグ、論文集等の配布は行わないなど、会議を傍聴するのみの廉価版であることを明記し、通常登録と特別料金を自由に選択いただくこととした。

なお、エクスカーション、歓迎パーティー、参加者交流会については、参加者区分、申込時期に関わらず、同一料金とした。

登録区分と登録料

		通し料金(単位：円) ()内の料金は途上国料金			一日参加(単位：円) ()内の料金は途上国料金	
		早期	通常	当日	事前	当日
期間		2/5～7/16	7/17～9/14	10/14～19	2/5～9/14	10/14～10/19
区分	一般	16,000 (12,000)	18,000 (12,000)	20,000 (14,000)	4,500 (3,000) 【県民1,000】	5,000 (3,500) 【県民1,000】
	学生	10,000 (8,000)	10,000 (8,000)	12,000 (10,000)	2,500 (2,000) 【県民1,000】	3,000 (2,500) 【県民1,000】
	同伴者	4,000			1,000	

○オプション料金

- ・ エクスカーション (10月17日) 2,000円
- ・ 歓迎パーティー (10月14日) 5,000円
- ・ 参加者交流会 (10月18日) 5,000円

登録に含まれるもの

	一般	学生	同伴者	1日参加	県民特別料金
論文応募	○	○	×	○	×
開会式及びいばらき霞ヶ浦賞授与式※	○	○	○	○	○
大ホールセッション 政策フォーラム、湖沼セッション、 霞ヶ浦セッション	○	○	○	○	○
会議総括及び閉会式	○	○	○	○	○
分科会	○	○	○	○	○
学生会議	○	○	○	○	○
交流行事(招待者レセプション除く) 歓迎パーティー、参加者交流会	×	×	×	×	×
展示会	○	○	○	○	○
ワークショップ	○	○	○	○	○
エクスカーション	×	×	×	×	×

※開会式については当日登録者は大ホールの入場を不可とし、中継会場(中ホール200)へのご案内とした。

○登録の取り消し

登録を取り消す場合の登録料の返金については、以下のとおりとした

キャンセルの受付期間	2/5～7/16	7/17～9/14	9/15～
キャンセル料金	登録料の20%	登録料の50%	登録料の100%

(締切日時は日本時間の24:00)

(3) 登録受付

10月14日、会期前プログラムである学生会議の開催日より、つくば国際会議場での受付を開始した。なお事前登録を行っていた方は、受付において、参加者が参加登録証を呈示し、IDカードや会議プログラム、論文集の等の資料が入ったコンgresバックを受け取り、会議に参加していた。

初日は、学生会議参加者の他、招待者、途上国旅費等助成制度を受けた外国人の参加者が多く、約1,300名が登録した。登録した参加者のほとんどが学生会議に参加し、次世代を担う子どもたちの湖沼環境保全に関する真剣な議論に耳を傾けていた。

会議開催初日となる10月15日には、開会式への秋篠宮同妃両殿下の御臨席に伴い警備体制を強化したことにより、受付後の会場入り口でのセキュリティチェック（金属探知機検査と手荷物検査）を行うこととしたことに加え、開会式への招待者を含む多くの方が来場することから、受付及び会場入口での混乱が特に心配されたが、会議参加者の理解のもと、会議運営面に支障をきたすことなく、予定どおり開会式を執り行うことができた。

10月16日以降は、事前登録している参加者、当日受付の参加者で混雑することもあったが、概ね順調に受付が行われていた。

配布資料一覧

資料名	仕様	一般・学生		県民	学生会議参加者	
		日本人	外国人	—	日本人	外国人
コンgresバック(一般)	A4トート(黒)	○	○			
コンgresバック(県民)	A4トート(スカイブルー)			○		
プログラム・抄録集(日)	A4版 表紙+扉6頁+本文288頁	○		○		
プログラム・抄録集(英)	A4版 表紙+扉6頁+本文376頁		○			
プロシーディングスCD	CD-R 盤面デザイン有、 スリムケース入	○	○			
コンgresバック (学生会議)	A4トート(ライトブルー)				○	○
学生会議冊子(日)	A4版 全12頁				○	
学生会議冊子(英)	A4版 全12頁					○
茨城県による 霞ヶ浦への取組(日)	A4版 全26頁	○		○		
霞ヶ浦に関する リーフレット (国土交通省作成)(日)	A4版 全26頁	○		○		
霞ヶ浦に関する リーフレット (国土交通省作成)(英)	A4版 全26頁		○			

(4)会議参加者

会期中の参加者は、延べ約5,500名の参加となり、想定4,000名を大きく超える結果となった。また、前日に開催された学生会議の参加者は約1,300名（うち学生800名）であり、数多くの方の参加をいただいた。

参加者のうち、外国人は、研究者、行政機関関係者、国際湖沼環境委員会委員など、49の国と地域より371名の参加があり、その多くが、会期中を通して熱心に参加している姿が見られた。

なお、参加者の多かった開会式、いばらき霞ヶ浦賞授与式と学生会議については、会場に入れなかった方のため中継会場を設けた。

参加国・参加者実数一覧

地域区分 (国・地域数)	国名	参加者数(名)	地域区分 (国・地域数)	国名	参加者数(名)
アジア (16)	インドネシア	71	アフリカ (15)	ケニア	8
	中国	53		南アフリカ	7
	フィリピン	41		ガーナ	6
	インド	28		エジプト	4
	タイ	19		ナイジェリア	3
	ネパール	13		セネガル	2
	台湾	13		ウガンダ	1
	カンボジア	10		ガンビア	1
	マレーシア	10		コートジボワール	1
	バングラデシュ	9		コンゴ民主共和国	1
	ベトナム	9		トーゴ	1
	パキスタン	7		ベナン	1
	スリランカ	6		馬拉ウイ	1
	大韓民国	4		マリ	1
	ブータン	1		モザンビーク	1
	ミャンマー	1	オセアニア (1)	オーストラリア	2
ヨーロッパ (10)	ロシア	7	中東 (1)	トルコ	1
	ポーランド	3	中南米 (4)	メキシコ	4
	オランダ	2		コロンビア	2
	ハンガリー	2		ブラジル	2
	アゼルバイジャン	1		アルゼンチン	1
	アルメニア	1	北米 (2)	アメリカ	4
	ウクライナ	1		カナダ	1
	カザフスタン	1			
	スペイン	1			
	イギリス	1			
				計	371
				日本	1550
				合計	1921

2 宿泊・輸送

(1) 宿泊

会場となるつくば市周辺には、参加者の宿泊を十分受け入れる数の宿泊施設が存在していること、公共交通機関を利用した東京からのアクセスが容易であることなどから、参加者自身での予約をお願いした。また、公式ホームページに茨城県公式観光サイト「観光いばらき」上のホテルリストのページにリンクし、近隣ホテルの紹介を行った。

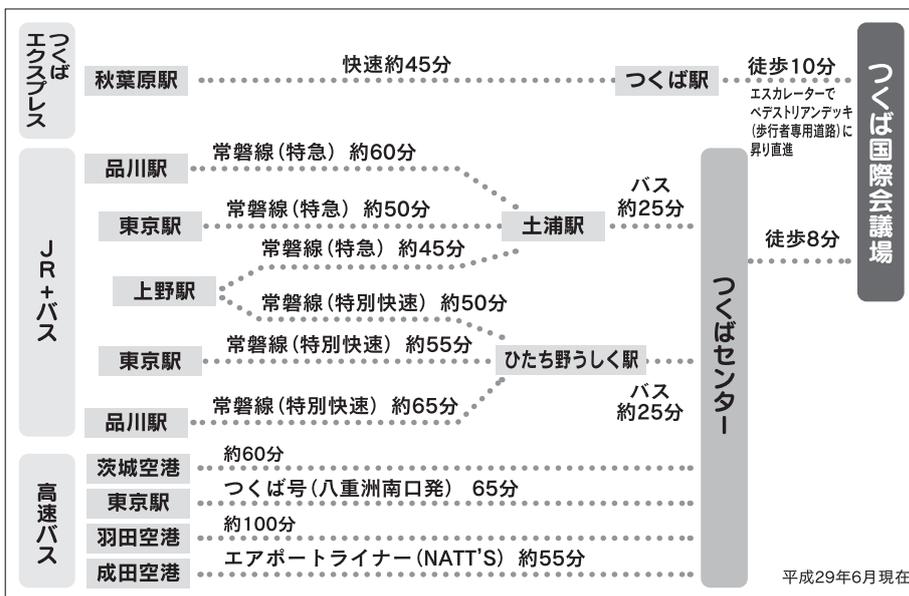
なお、招聘した講演者等及び途上国参加者旅費等助成対象者については、世界湖沼会議実行委員会事務局にて会場周辺の宿泊施設を確保した。

(2) 輸送

第17回世界湖沼会議では、開催案内書等により、国内外からの一般参加者に対し公共交通機関による案内を掲載するなど周知に努めた。併せて、海外からの一般参加者については、成田空港、羽田空港からの会場までの経路を案内した。

また、乗用車等で来場される参加者に対し、プログラム抄録集にて、一般財団法人つくば交通都市センターが所管する有料駐車場を案内するとともに、南2、南3、南4駐車場を利用した参加者に対し、場内インフォメーションデスクにおいて駐車券を販売した。

公共交通機関案内図



駐車券の販売

○期間：10月14日(日)～10月19日(金)

○販売場所：つくば国際会議場 1F インフォメーションデスク

駐車場名	台数	駐車サービス券
南2	601台	2時間 270円
南3	690台	3時間 410円
		4時間 550円
南4	552台	1日 620円

3 案内・誘導

(1)案内

会期中は、会場1階エントランスホール内にインフォメーションデスクを設け、参加者や関係者からの会議・会場に関する全般的な問い合わせに対応し、参加者の会議参加のサポートに努めた。

また、語学ボランティアを会期中に延べ27人配置し、海外からの参加者に対し、会場内での問い合わせ対応、案内、展示の紹介・説明などを行なった。

協力機関：つくば観光コンベンション協会、つくば市国際交流協会、筑波大学、茨城大学

(2)誘導

開会式が開催された10月15日には、会場周辺及びつくばエクスプレスつくば駅から会場までの徒歩経路に、世界湖沼会議実施本部案内誘導班員等を配置し、参加者の案内・誘導に努めた。

4 参加者サービス

(1)コーヒーブレイク

休憩時間には、コーヒーブレイクとして、会議場内においてコーヒー、紅茶、オレンジジュースの飲料及び県内産茶葉等の無料配布を行った。

また、会期中は、会場2階ロビー等にて、茨城県企業局により提供された、高度浄水技術により浄水された水(原水は霞ヶ浦湖水)のペットボトルを配布した。

日付	時間帯	場所
10月15日(月)	午後	大ホール前 ロビー
10月16日(火)	午前・午後	大ホール前 ロビー、 2F 及び3F エスカレーター近く
10月18日(木)	午前・午後	
10月19日(金)	午前	大ホール前 ロビー



提供茶菓一覧

提供日	提供場所、時間	菓子名	供給元	個数
10月15日	①大ホール前 14:10～14:30頃 15:30～15:50頃	霞ヶ浦サブレ	久月	500個
		れんこん最中	すぎやま	500個
		福来氷 ※	御菓子処 いたう	100個
		つくばの茶摘っ娘 ※	(有)コートダジュール	100個
		銀シャリフロランタン ※	つくばSweets	100個
10月16日 午前	①大ホール前 10:30～10:50頃 ②2Fエスカレーター付近, ③3Fエスカレーター付近 10:20～10:40頃	茨城ラスク(梅)	お菓子のきくち	500個
		すいーとまるん	ナガタフーズ	500個
		福来氷 ※	御菓子処 いたう	100個
		つくばの茶摘っ娘 ※	(有)コートダジュール	100個
		つくばの青い果実の ラングドシャ ※	つくば市ブルーベリー 生産者連絡協議会	100個
10月16日 午後	①大ホール前 14:50～15:20頃 ②2Fエスカレーター付近, ③3Fエスカレーター付近 15:20～15:40頃	れんこんサブレ	中村屋	500個
		ぼてら	お菓子のきくち	500個
		福来氷 ※	御菓子処 いたう	100個
		つくばの茶摘っ娘 ※	(有)コートダジュール	100個
		銀シャリフロランタン ※	つくばSweets	100個
10月18日 午前	①大ホール前 10:30～10:50頃 ②2Fエスカレーター付近, ③3Fエスカレーター付近 10:20～10:40頃	帆引きれんこん物語	久月	500個
		イチゴゴッペ	那珂湊菓子商工組合	500個
		福来氷 ※	御菓子処 いたう	100個
		つくばの茶摘っ娘 ※	(有)コートダジュール	100個
		つくばの青い果実の ラングドシャ ※	つくば市ブルーベリー 生産者連絡協議会	100個
10月18日 午後	①大ホール前 15:10～15:30頃 ②2Fエスカレーター付近, ③3Fエスカレーター付近 15:20～15:40頃	コシヒカリクッキー	あさ川	500個
		ほっしーも	お菓子のきくち	500個
		福来氷 ※	御菓子処 いたう	100個
		つくばの茶摘っ娘 ※	(有)コートダジュール	100個
		銀シャリフロランタン ※	つくばSweets	100個
10月19日	①大ホール前 12:00～13:00頃	茨城ラスク(納豆)	お菓子のきくち	500個
		黄門漫遊	あさ川	500個
		福来氷 ※	御菓子処 いたう	100個
		つくばの茶摘っ娘 ※	(有)コートダジュール	100個
		つくばの青い果実の ラングドシャ ※	つくば市ブルーベリー 生産者連絡協議会	100個

※：つくば市物産品

(2)おもてなしプログラム

来場者へのおもてなしプログラムとして、会場1階エントランスホールにて、県内の観光名所をバックに写真を撮ることができるフォトブースや、ユネスコ無形文化遺産「結城紬」の着付け体験を開催した。

日時	内容	場所
10月16日(火) 9:00-17:00	世界湖沼会議フォトブース	つくば国際会議場 1F エントランスホール
10月18日(木) 9:00-15:00	ユネスコ無形文化遺産 「結城紬」の着心地体験	

また、会期中はメインエントランスや大ホールステージ等を華道家宮内信江氏による霞ヶ浦をイメージした草花で装飾した。

(3)観光案内

会議場の大ホール前に、茨城県内の観光パンフレットやポスター等を設置し、参加者へのPRに努めた。

(4)宗教上の配慮

コーヒープレイク、各交流行事等において、ベジタリアン、ハラールなど宗教上の理由による食事制限や、料理の素材が分かるキャプションを日英併記で準備した。

また、イスラム教においては、男女別に礼拝室が必要なため、会場に2つの礼拝室を設置し、絨毯を敷きメッカの方向の表示をするなどして整え、利用できるようにした。



(5)託児室

会期中、10月14日～19日の6日間、子どもを同伴している参加者のため、会場内に保育士を配置した託児室を設置した。

(6) オプショナルツアー

参加者に茨城の魅力等を満喫していただくため、観光ツアーを企画し、2018年2月に作成・配布した第2回開催案内書において募集を開始した。

コースは、1日コースとして茨城県内を巡る4コース、1泊2日コースとして、県内及び県外各1コースの計6コースを準備し、会議への参加申込と共に公式ホームページ上の専用サイトから申込みしてもらう方式とした。

8月31日に申込を締め切ったが、申込者が、最少催行人員数に達しない状況であったため、中止とし、申込者に通知するとともに、別途、つくば市内・近郊の観光名所を紹介した。

1日コース

- ①「満喫！茨城の海」
- ②「世界一！牛久大仏&秋の味覚・果物狩り体験」
- ③「ユネスコ無形文化遺産結城紬&ミュージアムパークを巡る」
- ④「茨城の味覚とパワースポット観光」

1泊2日コース

- ①「秋の県北に親しむ」
- ②「秋田県田沢湖・日本の秘湯！ 乳頭温泉郷」

5 協賛・寄附・助成制度

第17回世界湖沼会議では、世界湖沼会議の開催趣旨に賛同し、開発途上国からの発表希望者の参加に伴う渡航費・宿泊費等の経費や会議運営費等の支援をいただくため、広く民間企業等からの協賛及び寄附を募集した。その結果、県内外の57団体からの協賛（経費及び物品等支援）と、2団体からの寄附をいただいた。

また、環境関連の助成制度を活用し、4団体から助成を受けた。

<協賛・寄付企業、団体等>（協賛・寄附金額順）

株式会社日立製作所，株式会社常陽銀行，公益財団法人茨城県開発公社，JAグループ茨城，株式会社ウォーターエージェンシー，株式会社カスミ，JFEエンジニアリング株式会社，関彰商事株式会社，損害保険ジャパン日本興亜株式会社，株式会社筑波銀行，公益社団法人茨城県水質保全協会，鹿島東部コンビナート，鹿島臨海工業地帯 西部地区企業連絡会，新日鐵住金株式会社鹿島製鐵所，一般社団法人茨城県産業廃棄物協会，中川ヒューム管工業株式会社，前澤工業株式会社，株式会社藤代範雄デザイン事務所，いであ株式会社，サントリー酒類（株）関東支店，鹿島都市開発株式会社，鹿島埠頭株式会社，鹿島臨海鉄道株式会社，日立セメント株式会社，株式会社あおぞら，株式会社潮来工機，株式会社エコイノベーション，株式会社カツタ，神栖商事有限会社，関東鉄道株式会社，黒沢産業株式会社，JX金属株式会社日立事業所，JFE条鋼株式会社東日本工場鹿島製造所，株式会社昭栄，新和企業有限会社，水ing株式会社，有限会社大進エンジニアリング，高野工業株式会社，高橋商事株式会社，株式会社日昇つくば，有限会社沼田クリーンサービス，百里開発株式会社，有限会社プライムクリエイト，株式会社フルヤ建商，八幡碎石工業株式会社，株式会社やまたけ，吉江総業有限会社，株式会社リサイクルパーク，麒麟ビール株式会社，いばらきコープ生活協同組合，NC東日本コンクリート工業株式会社，国際ロジテック株式会社，中山商事株式会社，三菱電機プラントエンジニアリング株式会社

<助成団体>（助成金額順）

(公財)河川財団，(公財)本田記念財団，(一社)関東地域づくり協会，(公財)つくば科学万博記念財団

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）に対する協賛・寄附金について

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会

1 考え方

今回の会議では、湖沼がもたらす自然の恵み、即ち生態系サービスを将来にわたって持続的に享受するためには、どのようなことに取組むべきなのかについて、住民、農林漁業者、事業者、研究者、行政など湖沼に関わりを持つ全ての人々が、情報の共有、意見交換を行います。

そのため、誰もが参加しやすい会議とするよう内容に配慮するとともに、サテライト会場で環境関連行事等を行うこととして、所要の経費を見込んでおります。

会議開催に要する経費につきましては、県だけでなく、霞ヶ浦の管理者である国土交通省や、環境全般を担当する環境省等の負担及び会議参加者等による負担とするとともに、県内の多くの皆様にも会議を支えていただきたいことから、協賛・寄附をお願いすることとしたところであります。

2 協賛・寄附金の使途（予定）

いただいた協賛・寄附金については、以下の経費に充当したいと考えております。

(1) 同時通訳費用

- ・日本から参加される方々が海外からの参加者の発表を聞き、理解を深め意見交換を行うために、大ホールでの開会式や閉会式はもとより、各セッションや分科会においても同時通訳を予定しております。

(2) サテライト会場負担金

- ・霞ヶ浦、潤沼、千波湖の近接する5市町（土浦市、かすみがうら市、鉾田市、茨城町、水戸市）で開催されるサテライト会場での環境関連行事等を通じ、県民の気運を醸成してまいります。

(3) 途上国研究者参加支援

- ・第17回世界湖沼会議への海外からの参加については、特に発展途上国への財政支援の要望が寄せられております。このため、これらの国から参加し論文を発表する方々に対する参加費助成を予定しております。

(4) いばらき霞ヶ浦賞賞金

- ・県では前回会議以降、途上国研究者の優れた論文を顕彰するため、「いばらき霞ヶ浦賞」の表彰を行っております。今回会議では記念すべき第10回目として、授与者数を拡大し、多くの研究者から論文を募集いたします。

6 プレスセンター

第17回世界湖沼会議では、多くのプレス関係者の取材が見込まれることから、県政記者クラブをはじめ、国土交通省、環境省、農林省記者クラブに所属する団体に、世界湖沼会議の取材に係る意向調査を実施した。

その結果、25団体59人の取材申し込みがあり、これに対応するため、プレスセンターを会場内に設置し、プレス関係者の取材活動のサポートを行った。

○プレスセンター概要

- ・ 開設期間 10月14日～19日の9:00～18:00(19日は19時まで)
- ・ 設置場所 つくば国際会議場中会議室202A(10/14～15)
つくば国際会議場小会議室405(10/16～19)
- ・ 設備等 ホワイトボード、資料机、プリンター、FAX、無線LAN

○取材団体一覧(人数順)

会社名	人数
茨城新聞社	8
NHK水戸放送局	7
一般財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス(ACCS)	5
環境新聞社	5
朝日新聞社	4
NPO法人NEWSつくば	4
国立大学法人茨城大学	3
毎日新聞社	3
一般社団法人共同通信社	2
Springer	2
読売新聞東京本社	2
朝日新聞社東京本社	1
茨城放送	1
かすみがうら市役所	1
京都新聞社	1
産経新聞社	1
新日本海新聞社	1
水道産業新聞社	1
中日新聞	1
中日新聞東京本社	1
日本経済新聞社	1
日本水道新聞社	1
びわ湖放送株式会社	1
読売新聞大阪本社	1
その他	1

7 危機管理対応

傷病者の対応について、つくば市消防本部の協力を得て救急搬送体制を整えるとともに、10月14日から19日の17日を除く5日間、会場の実施本部内に、看護師を延べ10名配置し、万全な体制を整えた。

会期中、看護師が対応した傷病者は1名（うち外国人1名）であったが、救急搬送に至った者はいなかった。また、火事、地震等の緊急事態が発生した場合の体制も整えたが、当該事案の発生はなかった。

XI 途上国参加者旅費等助成制度

世界の湖沼の中でも、特に開発途上国等の多くの湖沼は、慢性的な水不足、水質悪化や水質汚染、砂漠化等様々な問題を抱え、その解決に早急に取り組まなければならない状況がある。

第17回世界湖沼会議においては、これらの喫緊の課題を抱えている開発途上国から多くの研究者、行政担当者等が参加し、それぞれの湖沼が抱えている諸問題について議論し、また霞ヶ浦をはじめとした先進国の湖沼での経験や、湖沼環境に対する取組について情報収集することにより、自国の問題解決の契機として役立てていただくことも大きな目的のひとつであった。

しかし、開発途上国からの参加は、渡航費等の財政支援なくして難しいことが思料されたため、会議の目的と国際貢献の観点から、発表を希望する開発途上国等からの参加者に対し、渡航費及び滞在費等の助成制度を設けることし、第2回開催案内書においてその旨を提示した。また、支援に要する費用は、企業や団体等からの協賛・寄附をお願いし、財源に充てることとした。

この結果、25か国から105名に対し財政支援を行い、来日参加することができた。

◆助成制度の基本的な考え方

- 助成内容
 - ・ 航空運賃、宿泊費、参加登録料、エクスクーション参加費
- 助成対象者
 - ・ 経済協力開発機構 (OECD) の開発援助委員会 (DAC) の援助受取国・地域リストに掲載された国又は地域からの参加者で、分科会において自らが論文を発表(口頭又はポスター発表)する者
- 助成要件
 - ・ 分科会において自らが論文を発表(口頭又はポスターによる。)すること
 - ・ 県が指定する宿泊施設に宿泊すること
 - ・ 県が指定する世界湖沼会議における行事に参加すること(ただし、費用は免除)

XII 運営体制

1 茨城県の組織体制

2015年10月1日の第17回世界湖沼会議の開催の正式決定を受け、2016年4月より茨城県生活環境部（現 県民生活環境部）環境対策課霞ヶ浦対策グループにて開催準備事務等を行っていたが、2017年4月1日、環境対策課内に世界湖沼会議準備室を設置した。職員は、室長以下8名（うち1名は土浦市からの派遣職員（～2018年3月まで））であった。

開催準備が本格化したことに伴い、2017年9月～2018年3月まで生活環境部に担当参事が、2018年4月より霞ヶ浦浄化対策監がおかれた。

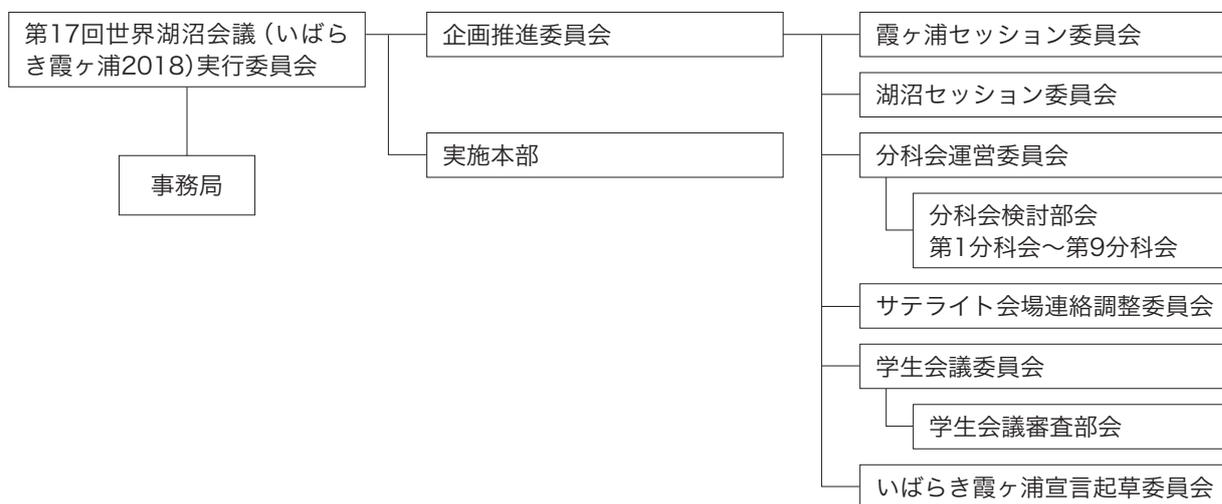
2 第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会

2017年3月29日、世界湖沼会議の開催準備運営にあたる組織として、第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会が設立された。

会長は、茨城県知事が、副会長は公益財団法人国際湖沼環境委員会（ILEC）理事長及び茨城県副知事とすることとした。

実行委員会の下部組織として、企画推進委員会及び17の専門委員会等を順次設置した。

◆第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会組織図



◆各委員会の役割

委員会名	役割
実行委員会	会議の運営に関する総合調整
企画推進委員会	会議の運営方策の策定及び運営に係る総合調整
霞ヶ浦セッション委員会	霞ヶ浦セッションに関する企画立案等
湖沼セッション委員会	湖沼セッションに関する企画立案等
分科会運営委員会	分科会に関する企画立案・準備運営等
分科会検討部会（9部会）	各分科会の企画立案・人日運営等
サテライト会場連絡調整委員	サテライト会場に関する連絡調整等
学生会議委員会	学生会議の内容の検討
学生会議審査部会	学生会議における発表団体の一次審査及び選考等
いばらき霞ヶ浦宣言起草委員会	いばらき霞ヶ浦宣言の起草等

実行委員会は、解散までに計4回開催し、会議運営にあたっての基本事項について詮議決定した。

◆実行委員会開催結果

	開催日及び場所	議題等
第1回	2017.3.29 茨城県市町村会館	実行委員会の設立及び規約策定 企画推進委員会委員長の選任 平成29年度事業計画・収支予算
第2回	2018.2.5 茨城県開発公社ビル	経過報告 実施計画の策定 第2回開催案内書の策定
第3回	2018.4.24 水戸プラザホテル	経過報告 平成29年度事業報告・収支決算 平成30年度事業計画・収支予算
第4回	2019.2.13 茨城県開発公社ビル	開催結果報告 平成30年度事業報告・収支決算(見込み) 残余財産の取扱い 実行委員会の解散及び規約の廃止

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会委員

	役職	区分	職名	
1	会長	主催者	茨城県知事	
2	副会長	主催者	茨城県副知事（県民生活環境部担当）	
3	副会長	主催者	公益財団法人国際湖沼環境委員会理事長	
4	委員	県	茨城県副知事	
5			茨城県議会議長	
6		市町村	茨城県市長会長	
7			茨城県町村会長	
8			土浦市長	
9			霞ヶ浦問題協議会長	
10			つくば市長	
11			かすみがうら市長	
12			鉾田市長	
13			茨城町長	
14			ラムサール条約登録湿地ひぬまの会長	
15			水戸市長	
16			国	国土交通省水管理・国土保全局長
17		環境省水・大気環境局長		
18		農林水産省技術総括審議官兼農林水産技術会議事務局長		
19		産業関係	茨城産業会議議長	
20			霞ヶ浦漁業協同組合代表理事組合長	
21			きたうら広域漁業協同組合代表理事組合長	
22			茨城県内水面漁業協同組合連合会代表理事会長	
23			茨城県農業協同組合中央会長	
24			公益社団法人茨城県畜産協会会長	
25		市民活動関係	茨城県地域女性団体連絡会長	
26			茨城県女性団体連盟会長	
27			チャレンジいばらき県民運動 理事長	
28			世界湖沼会議市民の会'18会長	
29		研究関係	国立大学法人筑波大学長	
30			国立大学法人茨城大学長	
31			国立研究開発法人国立環境研究所理事長	
32			国立研究開発法人農研機構理事長	
33			国立研究開発法人土木研究所理事長	
34		マス メディア	株式会社茨城新聞社代表取締役社長	
35			日本放送協会水戸放送局長	
36			株式会社茨城放送代表取締役社長	
37		その他	独立行政法人水資源機構理事長	
38			茨城県河川協会会長	
39			世界湖沼会議企画推進委員会委員長	
40		監事	県	茨城県会計管理者
41		監事	市町村	茨城県市長会・町村会 常務理事兼事務局長

3 第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)実行委員会事務局

実行委員会の設立とともに、事務局を2017年3月29日に発足させた。事務局長には県生活環境部長(現 県民生活環境部長)が、事務局長代理には県生活環境部(現 県民生活環境部)次長(環境担当)及び同参事が就任した。また事務局次長には同環境対策課長、事務局次長代理には同世界湖沼会議準備室長が就任するとともに、世界湖沼会議準備室員が事務局職員となった。

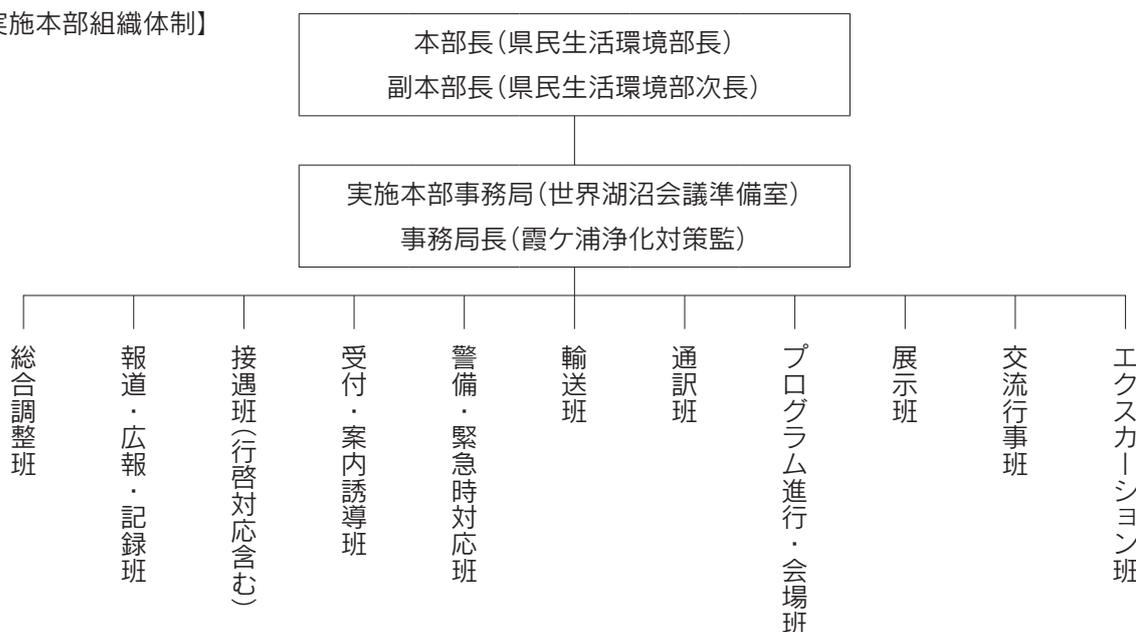
2018年4月1日、人事異動に伴い、事務局長代理について参事から霞ヶ浦浄化対策監に変更した。

4 第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)実施本部

開催準備が本格化した2018年6月、会議の運営実施組織として、実行委員会に、第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)実施本部を組織した。実施本部には、茨城県から2部13課所の参加のもと、11班を組織し、受付・案内誘導、接遇、報道対応等の業務に従事した。会期中は、延べ266名が担当業務に従事した。

	10/13	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19
従事担当者数	18人	35人	64人	54人	13人	50人	32人

【実施本部組織体制】



【実施本部協力部課所】

- 県民生活環境部 環境対策課，生活文化課，女性活躍・県民協働課，国際交流課，環境政策課，自然環境課，廃棄物対策課，オリンピック・パラリンピック課，霞ヶ浦環境科学センター
- 総務部 県北県民センター環境・保安課，鹿行県民センター環境・保安課，県南県民センター環境・保安課，県西県民センター環境・保安課

XIII 開催までの歩み

1 会議の誘致

世界湖沼会議 (World Lake Conference, WLC) は、1984年(昭和59年)に滋賀県の提唱により琵琶湖で開催された「世界湖沼環境会議」の後身として、世界各地で開催されている国際会議である。会議では、研究者だけでなく行政担当者、企業、市民など様々な分野の参加者が、世界の湖沼及び湖沼流域で起こっている多種多様な環境問題の解決に向けて意見交換を行い、その総括と成果として、開催地から世界に向けた湖沼保全のための宣言を発信している。会議は、公益財団法人国際湖沼環境委員会 (ILEC) と開催国の団体等との共催で概ね2年ごとに開催されている。

茨城県では、1995年(平成7年)に第6回世界湖沼会議をつくば市及び土浦市を会場として開催しており、今回の会議開催は、23年ぶり2回目となる。

第6回沼会議は、湖沼が抱える富栄養化などの様々な問題の解決に向けて、世界の最新の研究成果について学ぶ機会が得られるとともに、水環境保全活動へ市民参加を促進する契機となった。また、湖沼環境の保全に関わりを持つ人々が連携することの重要性や国際協力の必要性が認識され、最終日には、21世紀に向けた行動指針となる「霞ヶ浦宣言」を世界に向けて発信した。

第6回会議から約20年を経た2013年(平成25年)12月の県議会第4回定例会において、知事が「世界湖沼会議の再誘致の是非について検討してまいりたい」と答弁したことから、ILECから開催年度や開催地の決定方法等についての情報収集を行うとともに、霞ヶ浦流域市町村や学識経験者等からの意見聴取を開始した。その後、2015年(平成27年)3月に市民団体から知事あての会議開催要望書が提出されたことや、5月に霞ヶ浦問題協議会総会において誘致のための議論を進めていくことが確認されたなどを受け、同年7月、茨城県は、「公益財団法人国際湖沼環境委員会 (ILEC) に「開催地応募書」を提出した。

国際湖沼環境委員会 (ILEC) は、2015年(平成27年)10月1日に、茨城県での開催を正式に決定した。

2 基本構想の策定

2015年(平成27年)10月に、第17回世界湖沼会議の開催が決定したことを受け、2016年(平成28年)1月に、第17回世界湖沼会議企画準備委員会(委員長 松井三郎公益財団法人国際湖沼環境委員会 (ILEC) 評議員、委員15名で構成) が設立された。委員会では、会期及び会場の選定、会議のメインテーマや組織体制、会議の方向性などについて検討し、2016年(平成28年)8月に基本構想を取りまとめた。

この基本構想では、第17回世界湖沼会議が、人と湖沼が互いに支えあう、共に生きていく社会づくり(方策)について議論する会議であり、会議を契機として様々な立場の者の連携をより一層強化し、湖沼問題解決の新たな進展につなげることを目指すとした。

○第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)基本構想

会議名称：第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)

1 テーマ

人と湖沼の共生—持続可能な生態系サービスを目指して—

2 趣旨

水はすべての生命の基礎であり、人を含む多様な生態系に多大な恩恵を与えてきました。湖沼は、農業や漁業、産業そして文化においても、きわめて重要な資源・資産であり、その環境の保全が重要です。

前回、1995年に茨城県で開催されました第6回世界湖沼会議では「人と湖沼の調和-持続可能な湖沼と貯水池の利用をめざして-」というテーマを掲げ、湖沼の利用と環境保全、淡水資源の確保と管理、湖沼の富栄養化や化学物質の影響について議論し、人間と湖沼の調和をとるべく意見交換を実施しました。更に、水環境保全活動の取組や環境教育に焦点をあてたことによって、多くの流域住民や市民団体が参加し、市民活動が活発になる契機となりました。会議以降、市民、研究者、企業、行政4者がパートナーシップのもと水環境問題に取組み続けています。

近年、世界湖沼会議においては、生態系に関するテーマが議論されています。また生物多様性は人類の生存を支え、人類に様々な恵みをもたらすもので、生物に国境はなく、世界全体でこの問題に取り組むことが重要であることから、生物多様性条約が1992年に採択され、情報交換や調査研究等を各国が協力して行っています。

一方、日本においては、水が人類共通の財産であることを再認識し、水が健全に循環し、そのもたらす恵沢を将来にわたり享受できるよう、水循環に関する施策を総合的かつ一体的に推進するために、水循環基本法が2014年7月に施行されました。法律では、「水循環の重要性」、「流域の総合的管理」等を基本理念として掲げ、地方公共団体、事業者、国民それぞれの責務と関係者相互の連携及び協力について定めています。

食料や水の供給など生物の多様性を基盤とする生態系から得られる恵みである生態系サービスを人は享受してきました。しかし、開発行為や気候変動等により生物の多様性は急激に失われつつあります。今回の会議では、人が生物多様性の保全や回復により一層務めることで、生態系が維持される、即ち人と湖沼が互いに支えあう、共に生きていく社会づくり(方策)について議論します。また、生態系サービスを将来にわたって持続的に享受するためには、どのようなことに取組むべきなのかを、住民、農林漁業者、事業者、研究者、行政など湖沼に関わりを持つ全ての人々が、情報の共有、意見交換を行います。

本会議を契機に、様々な立場の者がそれぞれの役割分担のもと、連携がより一層強化され、湖沼問題解決の新たな進展につながることを目指します。

3 会議の概要

- (1)主催者：茨城県、公益財団法人国際湖沼環境委員会(ILEC)
- (2)共催・後援：国、流域市町村、大学、研究機関、市民団体等
- (3)会期：平成30年10月15日(月曜日)～19日(金曜日)
- (4)会場：メインつくば国際会議場
 - ・開閉会式、基調講演、分科会、政策フォーラム等
 - サテライト霞ヶ浦流域や湖沼沿岸等の拠点施設
 - ・環境関連行事
- (5)会議構成：
 - 基調講演、分科会、政策フォーラム、霞ヶ浦セッション、湖沼セッション、
 - 学生(青少年)会議、いばらき霞ヶ浦賞授賞式、展示会、エクスカージョン等
- (6)会議の公用語：英語及び日本語
- (7)参加者・規模：市民、研究者、企業、行政担当者4,000名
- (8)参加料：有料

(9) 会議テーマ：

A 生態系サービスの現状と課題

A-1 生物多様性と遺伝資源

A-2 淡水資源の確保

A-3 湖沼の水質と浄化機能

A-4 水辺や地域の文化

A-5 流域活動と物質循環

B 持続可能な生態系サービスに向けた取組

B-1 科学的知見に基づくモニタリング

B-2 持続可能な生態系サービスに向けた対策・技術

B-3 統合的湖沼流域管理(ILBM)

3 第16回世界湖沼会議(インドネシア・バリ島)への参加

茨城県は、第6回会議以来23年ぶり2回目となる2018年10月開催の第17回世界湖沼会議開催に向けて、インドネシアのバリ島で開催された第16回世界湖沼会議に調査団を派遣した。会議では、次回会議の主催者として、橋本昌茨城県知事(当時)が次期開催地宣言を行うとともに、第9回いばらき霞ヶ浦賞授与式において2組の研究者を顕彰した。

また、本県から県民発表者及び県職員計11名が研究成果や行政の取組などを分科会において発表し世界各国の研究者等と活発な意見交換を行ったほか、PRブースにおいて、第17回世界湖沼会議の基本構想や第6回世界湖沼会議以降の本県の取組を紹介するとともに、会議運営方法等の調査等、様々な活動を行った。

○開催概要

(1) 開催地

インドネシア共和国バリ島 クタ ディスカバリー・カルティカ・プラザホテルほか

(2) 開催期間

2016年(平成28年)11月7日(月)～11月11日(金)

(3) テーマ

湖沼生態系の健全性と回復力ー生物多様性と種の絶滅の危機ー

(4) 主催者

インドネシア環境林業省

(5) 共催

インドネシア公共事業・国民住宅省、インドネシア科学院(LIPI)、ウダヤナ大学、公益財団法人国際湖沼環境委員会(ILEC)ほか

(6) 参加国

35カ国(参加者数 1,064名)

○茨城県調査団の概要 (順不同 敬称略, 所属等は当時)

①活動状況

開会式における次期開催地宣言(知事), いばらき霞ヶ浦賞授与式(授与者: 知事)
第17回世界湖沼会議PRブース設置, 会議等調査, 分科会発表

②参加者

企画準備委員会委員

松井 三郎 企画準備委員会委員長
市村 和男 (一社)霞ヶ浦市民協会理事長
市木 繁和 (公財)国際湖沼環境委員会事務局長
福島 武彦 筑波大学教授
黒田 久雄 茨城大学教授

県民参加者(分科会発表者, 会議調査, 県が参加費の1/2を補助)

沼澤 篤 (一社)霞ヶ浦市民協会(分科会発表)
大久保 和男 (一社)霞ヶ浦市民協会(分科会発表)
内海 真生 筑波大学生命環境系准教授(分科会発表)
橋本 梓 筑波大学大学院(分科会発表)
島田 裕介 筑波大学大学院(分科会発表)
大山 峻一 筑波大学大学院(分科会発表)
秋葉 龍郎 (国研)産業技術総合研究所(分科会発表)
吉川 省子 (国研)農業・食品産業技術総合研究機構(分科会発表)
箭田 佐衣子 (国研)農業・食品産業技術総合研究機構(分科会発表)
宮内 正行 (一社)霞ヶ浦市民協会(会議調査)

県関係者

橋本 昌 茨城県知事
小川 一成 茨城県議会議長
桑名 美恵子 茨城県生活環境部環境対策課長
齋藤 正博 茨城県秘書課課長補佐
荒木 宏和 茨城県議会事務局秘書室長
小松崎 園子 茨城県生活環境部環境対策課水環境室主査
小沼 直樹 茨城県生活環境部環境対策課水環境室主任
小田 直哉 茨城県生活環境部環境対策課水環境室技師
相馬 久仁花 茨城県生活環境部環境対策課水環境室主任(分科会発表)
大内 孝雄 茨城県霞ヶ浦環境科学センター技師(分科会発表)

○参考(調査団以外の参加者)

中川 清 土浦市長, 坪井 透 かすみがうら市長
茨城県議会議員(外塚 潔, 八島 功男, 安藤 真理子, 設楽 詠美子)
土浦市職員(分科会発表者1名ほか), かすみがうら市職員, つくば市職員
(一社)霞ヶ浦市民協会会員 ほか

4 基本計画の策定

第17回世界湖沼会議企画準備委員会では、2016年(平成28年)8月に策定された基本構想に基づき、分科会の内容の検討や、各セッションの概要等などを取りまとめた、第17回世界湖沼会議基本計画を2017年(平成29年)2月に策定した。

○第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）基本計画

1 テーマ

人と湖沼の共生—持続可能な生態系サービスを目指して—

2 趣旨

水はすべての生命の基礎であり、人を含む多様な生態系に多大な恩恵を与えてきました。湖沼は、農業や漁業、産業そして文化においても、きわめて重要な資源・資産であり、その環境の保全が重要です。

前回、1995年に茨城県で開催されました第6回世界湖沼会議では「人と湖沼の調和-持続可能な湖沼と貯水池の利用をめざして-」というテーマを掲げ、湖沼の利用と環境保全、淡水資源の確保と管理、湖沼の富栄養化や化学物質の影響について議論し、人間と湖沼の調和をとるべく意見交換を実施しました。更に、水環境保全活動の取組や環境教育に焦点をあてたことによって、多くの流域住民や市民団体が参加し、市民活動が活発になる契機となりました。会議以降、市民、研究者、企業、行政4者がパートナーシップのもと水環境問題に取り組んでいます。

近年、世界湖沼会議においては、生態系に関するテーマが議論されています。また生物多様性は人類の生存を支え、人類に様々な恵みをもたらすもので、生物に国境はなく、世界全体でこの問題に取り組むことが重要であることから、生物多様性条約が1992年に採択され、情報交換や調査研究等を各国が協力して行っています。

一方、日本においては、水が人類共通の財産であることを再認識し、水が健全に循環し、そのもたらす恵沢を将来にわたり享受できるよう、水循環に関する施策を総合的かつ一体的に推進するために、水循環基本法が2014年7月に施行されました。法律では、「水循環の重要性」、「流域の総合的管理」等を基本理念として掲げ、地方公共団体、事業者、国民それぞれの責務と関係者相互の連携及び協力について定めています。

食料や水の供給など生物の多様性を基盤とする生態系から得られる恵みである生態系サービスを人は享受してきました。しかし、開発行為や気候変動等により生物の多様性は急激に失われつつあります。今回の会議では、人が生物多様性の保全や回復により一層務めることで、生態系が維持される、即ち人と湖沼が互いに支えあう、共に生きていく社会づくり(方策)について議論します。また、生態系サービスを将来にわたって持続的に享受するためには、どのようなことに取り組むべきなのかを、住民、農林漁業者、事業者、研究者、行政など湖沼に関わりを持つ全ての人々が、情報の共有、意見交換を行います。

本会議を契機に、様々な立場の者がそれぞれの役割分担のもと、連携がより一層強化され、湖沼問題解決の新たな進展につながることを目指します。

3 会議の概要

- (1)主催者：茨城県、公益財団法人国際湖沼環境委員会(ILEC)
- (2)共 催：国土交通省、環境省、農林水産省、土浦市、つくば市、かすみがうら市、鉾田市、茨城町、水戸市、霞ヶ浦問題協議会、ラムサール条約登録湿地ひぬまの会
- (3)後 援：研究機関、大学、学会、産業団体等
- (4)会 期：平成30年10月15日(月曜日)～19日(金曜日)
- (5)会 場：
　　<メイン>　　つくば国際会議場
　　　　　　　・開閉会式、基調講演、分科会、政策フォーラム等
　　<サテライト>土浦市、かすみがうら市、鉾田市、茨城町、水戸市の拠点施設
　　　　　　　・サテライトセッション、環境関連行事等

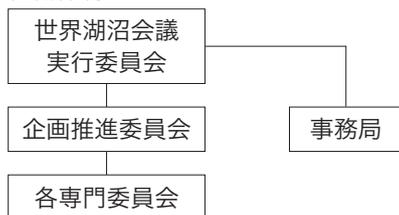
- (6)会議構成：基調講演，分科会(口頭・ポスター)，政策フォーラム，霞ヶ浦セッション，湖沼セッション，サテライトセッション，学生会議，ワークショップ，いばらき霞ヶ浦賞授賞式，エクスカーション，展示会等
- (7)会議の公用語：英語及び日本語
- (8)参加者・規模：市民，研究者，企業，行政担当者 4,000名
- (9)参加料：有料
- (10)分科会
 - <第1分科会>生物多様性と生物資源
 - <第2分科会>淡水資源の確保
 - <第3分科会>湖沼の水質と浄化機能
 - <第4分科会>水辺や地域の文化
 - <第5分科会>流域活動と物質循環
 - <第6分科会>科学的知見に基づくモニタリング
 - <第7分科会>持続可能な生態系サービスに向けた対策・技術
 - <第8分科会>市民活動・環境学習
 - <第9分科会>統合的湖沼流域管理(ILBM)
- (11)政策フォーラム：湖沼環境保全政策の展望について，国内外の政策責任者が討議
- (12)霞ヶ浦セッション：霞ヶ浦流域関係者等による持続可能な生態系サービスに向けた具体的な取組みについて討議
- (13)湖沼セッション：国内外の湖沼流域の市民,行政,研究者等による活動内容や施策等について討議
- (14)サテライトセッション：霞ヶ浦流域及び湖沼沿岸等の拠点施設でのフォーラムや環境関連行事の開催
- (15)学生会議：学生の湖沼や水辺の環境に関する研究発表や討議
 - ※小学生を対象とした子ども会議と中高生以上を対象とした青少年会議を実施
- (16)ワークショップ：参加者による自主企画を公募し，分科会のテーマの流れを引き継いだ具体的なテーマを討議
- (17)エクスカーション：霞ヶ浦流域や湖沼沿岸等の環境関連施設等の現地視察
- (18)展示会：企業や研究機関等が「科学的知見に基づくモニタリング」や「持続可能な生態系サービスにむけた対策・技術」についての先進的な実例や各企業・機関・団体の活動内容等を展示

4 会議スケジュール(案)

区分 日程	午前	午後	夜	終日
10月14日(日)	学生会議 登録受付		歓迎パーティー	
10月15日(月)	開会式 いばらき霞ヶ浦賞授賞式	基調講演 政策フォーラム	レセプション	展示会
10月16日(火)	湖沼セッション 分科会	湖沼セッション 分科会	ワークショップ (自主企画)	
10月17日(水)	エクスカーション(視察) サテライトセッション		ワークショップ (自主企画)	
10月18日(木)	霞ヶ浦セッション 分科会	霞ヶ浦セッション 分科会	参加者交流会	
10月19日(金)	会議総括	閉会式		
10月20日(土)	オプションツアー			

5 実行委員会運営体制

(1) 組織体制



(2) 委員会の構成と役割

実行委員会	会議の開催運営に関する事業計画・予算の審議決定
企画推進委員会	会議の運営方策の決定及び会議構成の総合調整・運営
専門委員会	セッションや分科会等の企画立案・運営

5 論文募集・審査

(1) 論文応募状況

第17回世界湖沼会議において、一般の参加者（団体）が発表できる会議プログラムである分科会（口頭発表、ポスター発表）及び霞ヶ浦セッション（ポスター発表）については、2017年（平成29年）12月4日に発表募集要項を公表し、2018年（平成30年）2月より論文募集を開始した。

募集概要は以下のとおりである。

○分科会発表論文募集概要

1 概要

- (1) 内容：9つの分科会テーマを設定し、分科会のテーマごとに研究や活動の成果を発表できる会議プログラムです。
- (2) 日程：平成30年10月16日（火）、10月18日（木）
- (3) 会場：つくば国際会議場内 会議室
- (4) 発表形式：口頭発表またはポスター発表

2 一般発表の募集

- (1) 分科会の概要及びテーマ
※既に学会等で発表している論文についても発表可能

第1分科会：生物多様性と生物資源

湖沼、湿地、河川及び水辺等の生物多様性や生物資源に焦点をあて、その価値や現状の評価、保全のあり方などについて討議します。

キーワード 生物多様性評価、絶滅危惧種、侵入外来生物、生態系機能、生態系サービス、生態系ネットワーク、生態系管理、自然再生、生物利用、水産・漁業

第2分科会：淡水資源の持続的利用

湖沼における水資源の持続的な利用に焦点をあて、流域において湖沼が持つ水収支や河川流量の調整機能（水量に関わる事項）、流域からの汚染物質や土砂の流入、化学物質による汚染、富栄養化（水質に関わる事項）、及び湖沼の管理などについて討議します。

キーワード 水資源の利用・開発、表流水と地下水、水利用に関わる水質障害と汚染、土砂の影響、気候変動による影響、将来の淡水資源シナリオ

第3分科会：湖沼の水質と生態系機能

湖沼の水質に焦点をあて、湖内の生態系がもつ機能である水質浄化能、微生物生産、有機物分解、底泥酸素消費、底泥溶出などについて討議します。

キーワード 生態系機能、水質汚濁、水質浄化能、水質管理、一次生産、分解、
底泥溶出、栄養塩動態、貧酸素、透明度、富栄養化、アオコ、気候変動

第4分科会：水辺地域の歴史と文化

歴史、文化、生活、景観、レクリエーション、観光利用など幅広く焦点をあて、湖沼がもたらす文化的サービスについて討議します。

キーワード 水辺空間、レクリエーション、伝統、文化、生活、信仰、景観、観光、
ラムサール条約、里山、コミュニティ・モラル、環境ホスピタリティ、
経済と水運、地域づくり

第5分科会：流域活動と物質循環

湖沼及びその流域における人間活動に伴う物質循環に焦点をあて、流域と河川・湖沼全体での窒素・りん循環や化学物質等の動態などについて討議します。

キーワード 窒素・りん循環、化学物質、点源及び面源汚染、広域的大気環境の影響、
土地利用管理、食糧生産、バイオマス、森林保全、里山保全

第6分科会：科学的知見に基づくモニタリング

湖沼や河川の水質、生態系などのモニタリング技術に焦点をあて、新しい知見に基づくモニタリング手法やそれを支える先進的技術及び解析手法について討議します。

キーワード 水質計測技術、湖沼・河川モニタリング技術(リモートセンシング、GISを含む)、
生態系モニタリング技術、モニタリング体制、データ解析とモデリング

第7分科会：生態系サービスの持続可能な利用に向けた対策・技術

生態系サービスを将来にわたって持続的に享受するため、排水規制、生活排水対策、農地・畜産対策、流出水対策、浄水技術や排水処理技術、湖内浄化、適正技術、経済的インセンティブ施策など、ハード技術だけでなくソフト対策についても討議します。

キーワード 排水規制、生活排水対策、点源及び面源汚染の制御、湖内浄化対策、
浄水・排水処理技術、環境容量に基づく管理、
発展途上地域における適正技術、ソフト対策、経済的インセンティブ施策

第8分科会：市民活動と環境学習

湖沼流域で実践されている市民活動や環境学習に焦点をあて、地域に根ざしてよりよい水環境を未来に残していくための活動とそのあり方について討議します。

キーワード 市民参加、協働、里山保全、水辺ふれあい、地域活性化、まちづくり、
コミュニケーション、人材育成、カリキュラム開発、意識啓発、
政策提言、合意形成、自然保護、持続可能な開発目標

第9分科会：統合的湖沼流域管理(ILBM)

湖沼流域の生態系サービスを維持・保全・向上させるために、流域の全ての関係者が連携的に取り組む「統合的湖沼流域管理(ILBM)」のあり方と、それを支える流域ガバナンスの段階的、継続的かつ長期にわたる向上のための取組について討議します。

キーワード 様々な湖沼流域管理の在り方、統合的湖沼流域管理(ILBM)、
湖沼・湿地・貯水池などの静水系を含む河川流域管理(ILLBM)、
健全な水循環のための流域管理、流域ガバナンス、
ハートウェア・アプローチ、生態系サービスと流域政策、
気候変動と防災・減災、湖沼データベース

(2) 申込方法

平成30年2月以降に第17回世界湖沼会議ホームページ上のオンライン受付システムのフォームに従って、必要事項を入力

(3) 申込期間

平成30年2月～4月20日（※5月9日まで延長）

(4) 分科会発表募集要項

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）
分科会 発表募集要項

■応募にあたって

分科会で発表を行いたい方は、下記の募集要項を参照の上で、指定のオンライン受付システム（<http://www.wlc17ibaraki.jp>）を用いて、発表の情報等を締切りまでに提出してください。

なお、2018年2月6日に募集を開始しました。

■発表募集要項

No.	項目	内容(仕様)
1	発表言語	日本語又は英語(口頭発表の場合, 日英同時通訳あり)
2	発表形式	・口頭(発表時間15分, 質疑 5分)又は ・ポスター(展示パネル 横90cm×縦210cm)
3	提出情報 《注意》 登録された抄録や プロシーディングス 論文の内容について は、事務局は修正 を行いません。	タイトル(日本語, 英語両方提出してください。)
		抄録(日本語400字以内, 英語250語以内で両方提出してください。)
		プロシーディングス論文 (日本語, 英語いずれかの指定テンプレートを使用し, オンライン 受付システムにアップロードしてください。用紙サイズはA4 (297mm×210mm), 全体3ページ以内で記載。)
		著者・所属(日本語, 英語両方提出してください。)
		キーワード(日本語, 英語両方提出してください。) ※最大5件, 開催案内書に掲載しているキーワードから1つ以上選 択してください。
		連絡先(住所・電話番号・Eメールアドレスを提出してください。)
		希望する分科会(必ず第2希望まで申告してください。)
4	提出方法	オンライン受付システム(http://www.wlc17ibaraki.jp/) 上記URLからアカウントを作成し, 締切りまでに提出してください。 ※分科会の発表申込は, 主著者1名につき1題に限ります。
5	締切り	2018年5月9日
6	選考	分科会への応募受付後, 委員会において審査し, その結果を各応 募者に連絡します。なお, 希望と異なる分科会での発表や, 希望 と異なる形式(口頭発表⇄ポスター発表)での発表に変更をお願い する場合があります。
7	採否の通知	採否と発表形式等を2018年6月下旬～7月上旬に通知します。
8	発表セクションの 通知	発表日時・場所等を2018年8月上旬～8月下旬に通知します。
9	個人情報の取扱い	オンラインで提出する個人情報等は, 本会議の準備・通知・受付 といった業務のみに使用することを提出者は同意したものとみな します。

10	抄録集・プロシーディングス論文集への掲載	著者は、抄録集及びプロシーディングス論文集に掲載されることを同意したものとみなします。
11	登録料の支払	分科会で発表を行うためには、採否の通知を受けた後、2018年7月半ばまでに登録料を支払って、参加登録をする必要があります。
12	登録料の払戻し	登録料の支払後、当人都合で参加できなくなった場合でかつ代理発表ができないときは登録料の払い戻しはありません。
13	その他	霞ヶ浦セッション(ポスター発表)への発表応募申込内容と同一のタイトルまたは内容で分科会に重複して応募することはできません。

■問合せ先

第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)運営事務局
 〒102-0075 東京都千代田区三番町2 株式会社コンベンションリンクージ内
 TEL : 03-3263-8695 / FAX : 03-3263-8693 / Email : cl-wlc17@c-linkage.co.jp

○霞ヶ浦セッション発表論文募集概要

1 概要

- (1)内容：霞ヶ浦に特化して、霞ヶ浦流域関係者が霞ヶ浦の抱える様々な課題を共有し、持続可能な生態系サービスに向けた具体的な行動に連携して取組むための討議を行う会議プログラムです。
- (2)日程：平成30年10月18日(木)
- (3)会場：つくば国際会議場 大ホール前ホワイエ ほか
- (4)発表形式：ポスター

2 ポスター発表の募集

- (1)申込方法
 平成30年2月以降に第17回世界湖沼会議ホームページ上のオンライン受付システムのフォームに従って、必要事項を入力し応募してください。その際に、抄録集及びプロシーディングス論文集に掲載する原稿を登録していただきます。
- (2)申込期間
 平成30年2月～4月20日(※5月9日まで延長)
- (3)霞ヶ浦セッション発表募集要項

第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)
 霞ヶ浦セッション(ポスター発表) 発表募集要項

■応募にあたって

霞ヶ浦セッションでポスター発表を行いたい方は、下記の募集要項を参照の上で、指定のオンライン受付システム (<http://www.wlc17ibaraki.jp>) を用いて、発表の情報等を締切りまでに提出してください。
 なお、2018年2月に募集を開始しました。

■応募要件

霞ヶ浦セッションは、霞ヶ浦における流域内連携を推進するために、霞ヶ浦流域関係者が霞ヶ浦の抱える様々な課題を共有し、持続可能な生態系サービスに向けた具体的な行動に連携して取組むための討議を行うセッションです。このため、霞ヶ浦及びその流域に関する内容が入っていることが応募条件です。
 ※霞ヶ浦及びその流域に関する内容以外について発表を希望する方は、分科会へ応募してください。

■発表募集要項

No.	項目	内容（仕様）
1	発表言語	日本語 又は 英語
2	発表形式	ポスター（展示パネル 横90cm×縦210cm）
3	提出情報 ※注意※ 登録された抄録や プロシーディングス論文の内容については、事務局は修正を行いません。	タイトル（日本語・英語両方提出してください。）
		抄録（日本語400字以内、英語250語以内で両方提出してください。）
		プロシーディングス論文 （日本語又は英語いずれかの指定テンプレートを使用しオンライン受付システムにアップロードしてください。用紙サイズはA4（297mm×210mm）、全体3ページ以内で記載。）
		著者・所属（日本語・英語両方提出してください。）
		キーワード（日本語・英語両方提出してください。） ※最大5件まで記載
		連絡先（住所・電話番号・Eメールアドレスを提出してください。）
4	提出方法	オンライン受付システム（ http://www.wlc17ibaraki.jp/ ） 上記URLからアカウントを作成し、締切りまでに提出してください。 ※発表申込は、主著者1名につき1題に限ります。
5	締切り	2018年5月9日
6	選考	応募受付後、委員会において審査し、その結果を各応募者に連絡します。
7	採否の通知	採否と発表形式等を2018年6月下旬～7月上旬に通知します。
8	個人情報の取扱い	オンラインで提出する個人情報等は、本会議の準備・通知・受付といった業務のみに使用することを提出者は同意したものとみなします。
9	抄録集・プロシーディングス論文集への掲載	著者は、抄録集及びプロシーディングス論文集に掲載されることを同意したものとみなします。
10	登録料の支払	霞ヶ浦セッションでポスター発表を行うためには、採否の通知を受けた後、2018年7月半ばまでに登録料を支払って、参加登録をする必要があります。
11	登録料の払戻し	登録料の支払後、当人都合で参加できなくなった場合でかつ代理発表ができないときは登録料の払い戻しはありません。
12	その他	分科会への発表応募申込内容と同一のタイトルまたは内容で霞ヶ浦セッション（ポスター発表）に重複して応募することはできません。

■問合せ先

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）運営事務局
 〒102-0075 東京都千代田区三番町2 株式会社コンベンションリンケージ内
 TEL：03-3263-8695 / FAX：03-3263-8693 / Email：cl-wlc17@c-linkage.co.jp

2018年5月9日、募集を締め切り、国内外から分科会に452編、霞ヶ浦セッションに35編、合計487件の論文の応募があった。

(2) 応募論文の審査・選考

分科会の応募論文・選考基準については、2018年3月に開催された分科会運営委員会において検討が重ねられ、審査方法及び選考基準が「論文審査とプログラム編成の進め方について」として取りまとめられた。応募論文は、この基準に基づき2018年5月中旬から下旬にかけて、分科会検討部会委員によりに厳格な審査・選考が行われた。

この結果、34の国と地域から448件（口頭発表246件，ポスター発表202件）の発表が採用され、2018年6月29日付けで、各応募者に審査結果の通知を行った。

なお、実際に会議での発表を行ったのは、418件であった。

○分科会 論文審査概要

1 全体概要

①募集

「第17回世界湖沼会議分科会発表のための募集要項」

- ・規定と手順を明示して的確に案内する
- ・事務局による支援（質問回答・説明・チェック）を行う

②提出

- ・アカウント作成ならびに発表原稿の提出
- ・操作をわかりやすくガイド（例示含む）
- ・審査で「問題あり」とならないよう支援

③審査

- ・抄録を基に審査する
- ・審査のやりやすさに配慮（PDF・CSV出力／CSV入力も）
- ・進捗状況を把握して、円滑に審査を進める

④割振

- ・審査結果を基に、セクションごとに発表（抄録・プロシーディングス論文）を割り振る

⑤プログラム編成

- ・Webシステムを最大活用（オンライン編成）
- ・各分科会のプログラム編成者に操作を説明する
- ・骨格を定め、段階的にプログラムを完成させる

2 審査の流れ

①受付締切	4月20日(金) →	5月 9日(水)延期(4月19日(木)公表)
②対象割当	5月11日(金) ～	5月14日(月)
③審査期間	5月14日(月)以降 ～	5月28日(月)
④割振	6月 1日(金)以降 ～	6月 7日(木)
⑤プログラム編成	6月12日(金)以降 ～	6月21日(木)
⑥最終確認	6月22日(金)以降 ～	6月25日(月)
⑦採否通知	6月29日(金) (予定)	
⑧採択者の登録締切日	7月16日(月：早期割引の最終日)	

3 審査基準

- ・◎優秀，○採用，△活動を評価し採用，×不採用とする。
- ・コメント [優秀・不採用の理由記載]
- ・優秀判定の割合：審査員1人当たり，全体の応募者から1割程度

①不採用と判断するための基準

- ・科学的根拠を欠いていないか
- ・倫理性を欠く内容となっていないか（※ 宣伝・広報のみを含む）

②積極的に採用するための基準

- ・オリジナリティのある内容か
- ・活動内容が実務的に評価できるか

【コメントの取扱い】

- ・審査結果の確認，採否判定の最終決定の参考とする。
- ・審査員によるコメントは，全分科会一律で発表応募者には返さないこととする。
- ・不採用の場合，本人からの要望に応じて理由を説明する。

霞ヶ浦セッションの応募論文・選考基準については，2017年11月に開催された霞ヶ浦セッション委員会において検討が行われ，2018年4月に審査基準を定めた。応募論文は，この基準に基づき5月中旬から下旬にかけて審査員3名により厳格な審査・選考が行われた。

その結果，応募された35件について，すべて採用することし，2018年6月27日付けで各応募者に審査結果の通知を行った。

○霞ヶ浦セッション 論文審査概要

1 全体概要

①募集

「第17回世界湖沼会議霞ヶ浦セッション(ポスター発表)発表募集要項」

- ・規定と手順を明示して的確に案内する
- ・事務局による支援(質問回答・説明・チェック)を行う

②提出

- ・アカウント作成ならびに発表原稿の提出
- ・操作をわかりやすくガイド(例示含む)
- ・審査で「問題あり」とならないよう支援

③審査

- ・抄録を基に審査する(審査員3名)
- ・審査のやりやすさに配慮(PDF・CSV出力/CSV入力も)
- ・進捗状況を把握して，円滑に審査を進める

④確認・判定

- ・審査結果を確認し，最終判定を行う(審査責任者)

⑤プログラム編成

- ・掲示する順番を決める(登録事務局)

2 審査の流れ

①受付締切	5月 9日(水)	※4月18日(水)公表
②審査方法説明	5月15日(火)頃	
③審査期間	5月17日(木)以降	～ 5月31日(木)
④確認・判定	6月 1日(金)以降	～ 6月 8日(金)
⑤プログラム編成	6月11日(月)以降	～ 6月15日(金)
	※登録事務局が順番を機械的に決定	
⑥最終確認	6月18日(月)以降	～ 6月25日(月)
⑦採否通知	6月29日(金)	(予定)
⑧採択者の登録締切日	7月16日(月)	(早期割引の最終日)

3 審査基準

- ・○採用，×不採用
- ・コメント [不採用の理由記載]

①不採用と判断するための基準

- ・ 科学的根拠を欠いていないか
- ・ 倫理性を欠く内容となっていないか(※ 宣伝・広報のみを含む)

②積極的に採用するための基準

- ・ オリジナリティのある内容か
- ・ 活動内容が実務的に評価できるか

※これまでの関連委員会での議論から、学術的な観点だけの採否判断は困難。

【コメントの取扱い】

- ・ 審査結果の確認，採否判定の最終決定の参考とする。
- ・ 審査員によるコメントは，発表応募者には返さないこととする。
- ・ 不採用の場合，本人からの要望に応じて理由を説明する。

○論文採用結果

	発表形式		
	口頭	ポスター	合計
第1分科会	42	45	87
第2分科会	12	7	19
第3分科会	40	48	88
第4分科会	12	4	16
第5分科会	26	11	37
第6分科会	28	16	44
第7分科会	28	25	53
第8分科会	27	16	43
第9分科会	23	8	31
霞ヶ浦セッション	—	35	35
合計	238	215	453

※会議当日までに応募者から発表辞退があったものを除く

6 プログラムの策定

基調講演の講演者及び政策フォーラムの発表者については、企画推進委員会委員の助言のもと、以下のとおり事務局で決定した。

基調講演については、昨今問題となっている地球温暖化、気候変動による湖沼の変化や生態系への影響、適応策等について、三村信男国立大学法人茨城大学学長に地球温暖化問題の我が国を代表する研究者として、大局的な見地から講演をいただくこととした。

政策フォーラムについては、湖沼環境保全に係る施策の方向性の検討を行うセッションであるため、パネリストは国内外の政策責任者に、コーディネーターは国内外の事例を良く知る専門家に依頼した。

また、湖沼セッション及び霞ヶ浦セッションについては、発表とパネルディスカッションから構成されることから、各専門委員会においてテーマの選定や人選を行い、決定した。

分科会においては、分科会運営委員会において、国内外の第一線で活躍している方々を招待し、より充実した分科会運営を目指すこととした。そのため、各分科会につき2名、計18名を招待することとした。

○基調講演

演 者： 三村 信男 国立大学法人茨城大学 学長
演 題： 地球環境の変動と湖沼の未来

○政策フォーラムのコーディネーター及びパネリスト

コーディネーター： 松井 三郎 世界湖沼会議企画推進委員会委員長
パネリスト： 大井川 和彦 茨城県知事
塚原 浩一 国土交通省水管理・国土保全局長
田中 聡志 環境省水・大気環境局長
島田 和彦 農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官
Keith Alverson 国際連合環境計画国際環境技術センター所長
Gábor Molnár バラトン湖開発評議委員会マネージングディレクター

○湖沼セッション(国外湖沼)のコーディネーター及びパネリスト

コーディネーター： 中村 正久 (公財)国際湖沼環境委員会副理事長
パネリスト： 《コメンテーター》
Ajit Pattnaik ウェットランズ・インターナショナル
南アジア副会長
Walter Rast テキサス州立大学名誉教授
《事例発表者》
Colin Finlayson チャールズ・スタート大学教授
Daniel Olago ナイロビ大学教授
Alejandro Juárez Aguilar NGOコラソン・ディ・ラ・ティエラ理事長

○湖沼セッション(国内湖沼)のコーディネーター及びパネリスト

コーディネーター：	福島 武彦	茨城県霞ヶ浦環境科学センター長
パネリスト：	《パネリスト発表者》	
	中村 正久	(公財)国際湖沼環境委員会副理事長
	熊谷 和哉	環境省水・大気環境局水環境課長
	岩井 聖	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課企画専門官
	井手 慎司	滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科教授
	奥田 昇	総合地球環境学研究所准教授
	《事例発表者》	
	尾崎 昂希	NPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA) 琵琶湖オオバナミズキンバイ対策チーム長
	大西 真人	(株)日立製作所水ビジネスユニット水事業部 CTO

○霞ヶ浦セッション(国内湖沼)のコーディネーター及びパネリスト

コーディネーター：	福島 武彦	茨城県霞ヶ浦環境科学センター長
パネリスト：	中村 正久	(公財)国際湖沼環境委員会副理事長
	桑名 美恵子	茨城県県民生活環境部次長
	辰野 剛志	国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所長
	伊藤 一郎	霞ヶ浦漁業協同組合霞ヶ浦水産研究会会長
	但田 賢哉	新日鐵住金(株)鹿島製鐵所安全環境防災部環境防災室長
	今野 浩紹	(株)かすみがうら未来づくりカンパニー代表取締役
	滝下 利男	世界湖沼会議市民の会'18副会長

○分科会招待発表者

第1分科会：	馬淵 浩司	(国研)国立環境研究所琵琶湖分室, 日本
	高村 典子	(国研)国立環境研究所生物・生態系環境研究センター 琵琶湖分室, 日本
第2分科会：	András Szöllósi Nagy	National University for Public Service (NUPS), ハンガリー
	渡邊 紹裕	京都大学大学院地球環境学堂, 日本
第3分科会：	Yves Prairie	UNESCO Chair in Global Environmental Change, Department of biological Sciences, UQAM, Montreal, カナダ
	中野 伸一	京都大学生態学研究センター, 日本
第4分科会：	草野 孝治	NPO法人ダウン・ザ・テッシ, 日本
	安村 克己	追手門学院大学地域創造学部地域創造学科, 日本
第5分科会：	Carol Kendall	U. S. Geological Survey, 米国
	大手 信人	京都大学大学院情報学研究科, 日本



第6分科会 :	田中 敦	(国研)国立環境研究所環境計測研究センター 基盤計測化学研究室, 日本
	David Hamilton	Australian Rivers Institute, Griffith University, オーストラリア
第7分科会 :	Brian D'arcy	Independent environmental consultant, & Partner C&D Associates LLP Co-founder consulting gateway, 英国
	岡田 光正	放送大学, 日本
第8分科会 :	Chitchol Phalaraksh	Department of Biology, Faculty of Science, Chiang Mai University, タイ
	見上 一幸	前宮城教育大学長, 日本
第9分科会 :	中塚 則男	(公財)ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会, 日本
	Salmah Zakaria	ACADEMY OF SCIENCES MALAYSIA (ASM), マレーシア

7 優秀発表賞

第17回世界湖沼会議では、参加者の参加・発表への意欲、また今後の研究に対する意欲の向上を目指し、分科会における全ての発表者を対象として、優秀な者を表彰することとした。

審査方法等については、2018年3月に開催された分科会運営委員会において検討が重ねられ、審査方法及び選考基準が取りまとめられた。

まずは、応募があった発表論文について各分科会検討部会委員により発表内容の審査が行われた後、会議中の分科会での発表時に分科会検討部会委員が厳選な採点・審査を行い、それらの結果をもって、各分科会から数名程度受賞者が決定された。

この結果、28名（ポスター発表11名、口頭発表17名）が受賞し、10月18日の参加者交流会において表彰された。

優秀発表賞受賞者一覧(ポスター)

大塚 俊彦	(一社)埼玉県環境検査研究協会
岡野 邦宏	秋田県立大学
風間 健宏	(国研)国立環境研究所
小室 俊輔	茨城県霞ヶ浦環境科学センター
中國 正寿	創価大学
根本 孝	茨城県庁
番場 泰彰	国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所湖沼環境課
藤村 葉子	千葉大学院工学研究科共生応用化学専攻
吉田 誠	(国研)国立環境研究所琵琶湖分室
米田 一路	山形大学農学部
Jocelyn Fabian Siapno	Laguna Lake Development Authority

優秀発表賞受賞者一覧(口頭)

安達 遥	東京農工大学
板山 朋聡	長崎大学工学研究科
菊地 哲郎	茨城県霞ヶ浦環境科学センター
鈴木 久夫	特定非営利活動法人NPO富里のホテル
田中 佑芽	NPO法人国際ボランティア協会IVUSA
長濱 祐美	茨城県霞ヶ浦環境科学センター
伴 修平	滋賀県立大学
平井 幸弘	駒澤大学文学部地理学科
古米 弘明	東京大学大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター
増永 英治	茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター
渡邊 英幸	(株)日立製作所
Djiby Sambou	University Assane Seck of Ziguinchor, Senegal
Marcin Dziuba	Adam Mickiewicz University in Poznan, Poland
Nurul Syahirah Shamsol Anuar	筑波大学
Porsry Ung	Institute of Technology of Cambodia
Ria Adoracion Lambino	Research Institute for Humanity and Nature
Xian Cao	東北大学

8 第10回いばらき霞ヶ浦賞

いばらき霞ヶ浦賞は、1995年（平成7年）に本県で開催された第6回世界湖沼会議を契機に茨城県が創設したものである。

この賞は、開発途上国の研究者等の湖沼環境保全に関する優れた論文を顕彰することにより、世界の湖沼環境保全に関する研究や技術開発の進展に寄与することを目的としており、過去9回の授与で、27ヶ国50組に授与している。

募集については、2018年2月、第2回開催案内書に記載するとともに開始した。募集概要は以下のとおり。

○いばらき霞ヶ浦賞募集要項

茨城県では、湖沼、河川又はこれらに関連する分野の研究や技術開発の進展及び情報の交換等に寄与するため、開発途上国の10編以内の優れた論文に対していばらき霞ヶ浦賞（表彰状及び副賞25万円）を授与します。

(1) 募集要件

- ・分科会において発表すること
- ・応募者は、経済協力開発機構（OECD）の開発援助委員会（DAC）の援助受取国・地域リストに掲載された国又は地域の研究者であること

(2) 応募方法

分科会の発表申込みと併せて、オンライン受付システムから申請してください。

(3) 一次審査

分科会発表申込に際して提出されたプロシーディングス論文を審査し約30編を一次審査通過とします。

(4) 最終審査

一次審査通過者は、最終審査のためのフルペーパー（分量は、A4用紙10ページ以上、20ページ以内）を、平成30年6月下旬以降、指定される期日までに提出してください。日時の詳細は後日お知らせします。最終審査の結果は、平成30年9月下旬までにお知らせします。

受賞者は第17回世界湖沼会議の分科会において、研究内容を発表する必要があります。

(5) その他・いばらき霞ヶ浦賞と途上国旅費等助成制度に重複して応募することも可能です。

- ・副賞は、会議終了後速やかに指定の受賞者名義の銀行口座に振り込みます。

2018年5月9日の募集の締め切りまでに108編の応募があり、6月26日に実施した一次審査においてその中から24編を選定した。そのうち、7月13日までにフルペーパーの提出があったもの21編について、8月22日に行われたいばらき霞ヶ浦賞審査会において厳選な審査を行い、10編の受賞が決定した。

なお、受賞者については、10月15日のいばらき霞ヶ浦賞授与式において、賞状を授与した。また副賞25万円は、後日授与した。

○第10回いばらき霞ヶ浦賞概要

1 目的

開発途上国の研究者等の優れた論文を顕彰することにより、湖沼、河川又はこれに関する分野の研究及び技術開発の進展並びに情報の交換等に寄与し、もって本県の開発途上国に対する国際貢献に資する。

2 授与対象

賞は、湖沼、河川又はこれに関連する分野において、学術的、社会的見地から優れていると認められる論文の著者で、次のいずれにも該当するもの。

- ①経済協力開発機構 (OECD) の開発援助委員会 (DAC) の援助受取国・地域リストに掲載された国又は地域の研究者等であること。
- ②授与の対象となった論文について、自らが第17回世界湖沼会議の分科会において発表すること。

3 募集

希望者のみを対象とし、分科会の発表募集に併せて、オンライン受付システムから申込みを受け付ける。

4 選考

(1)1次審査

- ・審査対象 プロシーディングス論文
- ・提出締切り 5月9日

(2)最終審査

- ・審査対象 フルペーパー(分量は、A4用紙10ページ以上20ページ以内)
- ・提出締切り 7月13日
- ・審査会 8月22日
- ・結果通知 8月23日

【選考の経過】

	申込数 (編)	一次審査通過 (編)	最終審査対象 (編)		受賞論文数(編)
第1分科会	26	5	4	➡	10
第2分科会	4	1	1		
第3分科会	28	6	6		
第4分科会	4	1	1		
第5分科会	2	1	1		
第6分科会	12	3	2		
第7分科会	10	2	2		
第8分科会	8	2	2		
第9分科会	14	3	2		
合計	108	24	21		

5 受賞者一覧

No	分科会	著者(代表者)	年齢	性別	国名	タイトル
1	第3	Porsry Ung	31	男性	カンボジア王国	カンボジア・トンレサップ湖につながる主要河川での生物学的な水質状況
2	第6	Fajar Setiawan	36	男性	インドネシア共和国	ランドサットTMとETM+を用いたインドネシア湖沼における透明度推定モデルの開発
3	第3	Pradipta Ranjan Muduli	36	男性	インド	アジア最大の汽水系であるチリカ湖におけるCO ₂ フラックス長期変動と制御因子
4	第4	Tapas Ranjan Chakraborty	46	男性	バングラデシュ人民共和国	バングラデシュ・ハオール盆地の民族文化に気候変動が及ぼす影響
5	第8	Cynthia Caburnay Buen	37	女性	フィリピン共和国	湖の豊かさ（ヤーマヌンラーワ）のためのM.A.T.H.（湖の豊かさの持続可能な開発戦略）－フィリピン・ラグナ湖カランバ市の事例－
6	第7	Sumant Kumar	35	男性	インド	インド・ヒマラヤ地域のナイニताल湖集水域からの雨水流出水の特異性解析と処理
7	第9	Ria Adoracion Lambino	44	女性	フィリピン共和国	フィリピンのラグナ湖のサンタ・ローサ流域におけるガバナス・ギャップと展望
8	第3	Hidayat	48	男性	インドネシア共和国	熱帯氾濫原湖における洪水パルスが水生生物生息動態に及ぼす影響－インドネシア・カリマンタン、セントラル湖地域におけるケーススタディー
9	第1	Wimal Ananda Heenatigala Palliya Guruge	56	男性	スリランカ民主社会主義共和国	スリランカの侵入魚種であるスポッテッド・ナイフフィッシュ（硬骨魚類、ナイフフィッシュ）の栄養状態とその侵入によるベントタ川支流の魚の多様性への影響
10	第1	Emmanuel Tetteh-Doku Mensah	36	男性	ガーナ共和国	ヴォルタ湖漁業の物質収支モデル（エコパスモデルの使用）

≪国籍別人数≫

インド	2
インドネシア	2
フィリピン	2
カンボジア	1
ガーナ	1
スリランカ	1
バングラデシュ	1
合計	10

9 学生会議

(1) 論文応募状況

学生会議の論文募集については、2018年2月の第2回開催案内書公表に先駆け、2017年11月1日から学生会議募集要項を公表し、発表申込の受付を始めた。

発表が見込まれる学校・団体へは、直接案内を送付したほか、2月11日に開催した水環境セミナーにおいて、参加者全員に募集要項を配布すると同時に、学生会議の参加を呼び掛けた。

募集要項は以下のとおりである。

○学生会議募集概要

1 応募資格

・平成30年度に以下(1)～(3)のいずれかに該当する児童生徒

(1)小学校1年生～小学校6年生

(2)中学校1年生～中学校3年生

(3)高校1年生～高校3年生

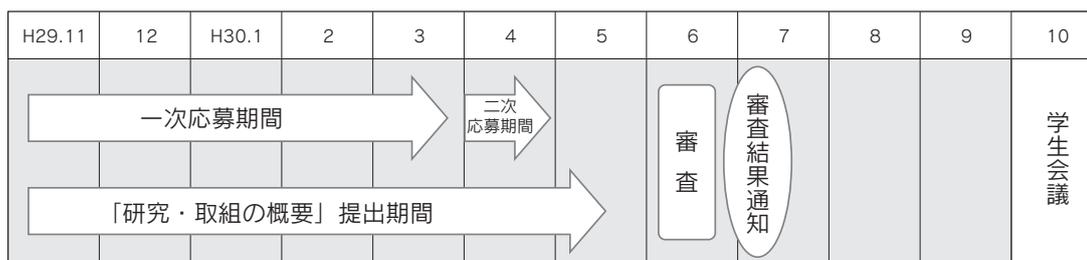
※海外からの応募者は、以下の対照表を参考にしてください。

区分	年齢
小学生	6～11歳
中学生	12～14歳
高校生	15～17歳

(年齢は、平成30年4月1日時点)

・発表者、研究に取り組む人数に定めはありません。クラス単位や学年単位での研究、発表も可能です。

2 学生会議募集から当日までのスケジュール



3 応募及び応募受付について

(1) 応募について

- ・学生会議において研究・取組の発表を希望する団体（個人も含む）は、学校や所属しているクラブ等を通じて、所定の応募用紙にて応募してください。
- ・研究・取組を応募する団体を1団体と数えます。
※1名で応募する場合も1団体と数えます。
- ・1団体が、異なる内容の研究・取組を応募することも可能です。1団体あたりの応募数に定めはありません。
- ・年度毎に参加者を募り、事業を実施しているクラブ等（公共機関も含む）の研究・取組も応募可能です。その場合の応募用紙の記入方法については「(3) 応募用紙について」を参照してください。

(2) 応募用紙提出方法及び受付について

- ・ 応募用紙の提出方法は、郵送とします。応募用紙太枠内の所定欄に必要な事項を記入し、第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会事務局宛に郵送してください。（「11 応募・提出・問合せ先」参照）
- ・ 実行委員会事務局で応募を受付後、登録が完了次第、受付番号を付記し、順次受付票を返送します。応募から一カ月以上、受付票が届かない場合、実行委員会事務局までお問い合わせください。
- ・ 当実行委員会の過失等を除き、期間内に応募が間に合わない場合、受付はできませんので、締め切り間際の応募はなるべく避けるようにしてください。

(3) 応募用紙について

- ・ 「グループ名」欄は、部活動等、複数人のグループで応募をする場合、記入してください。
- ・ 年度毎に参加者を募り、事業を実施しているクラブ等（公共機関も含む）の研究・取組を応募する場合、応募期間に応募者の児童生徒が変更となることが予想されるため、応募者の名前（代表者）欄への記入は不要です。事業を実施するクラブ等を連絡先に記入してください。
- ・ 「学年」欄は、応募時の学年を記入してください。また、1つの研究・取組に対し、複数人で取り組み、異なる学年の応募者がいる場合は、全ての応募者の学年を記入してください。

例1) 小学校2年生と5年生 …………… ① 2, 5年生

例2) 小学校3年生と4年生と5年生 …………… ① 3～5年生

- ・ 「研究・取組分野（予定）」欄の1では、応募時点で想定している内容が、水質調査など仮説を立て、実験などにより検証する「研究」、清掃活動など目標を立て取組（活動）を実施する等の「取組」のどちらに該当するかを選択してください。また、応募時点で検討中の場合は、現時点での考えでかまいませんので選択してください。
- ・ 「研究・取組分野（予定）」欄の2では、応募時点で想定している内容が、「水質」、「生物」、「文化」、「環境活動」のいずれに該当するかを選択してください。また、それ以外の分野に該当する場合は、「その他」を選択し、具体的に記入してください。
- ・ 研究・取組の発表方法は、i) 口頭発表、ii) ポスター発表の2種類があります。希望する発表方法を応募用紙の「希望する発表方法」選択欄にチェックをしてください。また、i) 口頭発表、ii) ポスター発表の両方を希望することも可能ですので、その場合は両方の選択欄にチェックをしてください。
- ・ i) 口頭発表のみをチェックした場合、発表団体数に上限があるため、審査により、研究・取組の発表を行うことが出来なくなることも想定されますので、ご注意ください。（詳細は「7 口頭発表について」参照）
- ・ ディスカッションに参加を希望する団体は、応募用紙の「ディスカッションへの参加を希望する」の欄にチェックをしてください。（詳細は「9 ディスカッションについて」参照）
- ・ 応募用紙については、第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）公式HP上より、ダウンロードが出来ます。（「11 応募・提出・問合せ先」参照）

(4) 応募期間

- ・ 一次応募期間：平成29年11月1日（水）～平成30年3月30日（金）
- ・ 二次応募期間：平成30年4月2日（月）～平成30年4月27日（金）

※二次応募期間の対象は全児童生徒です。

※第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会事務局必着

- ・ 応募期間中に応募用紙と「研究・取組の概要」を併せて提出することも可能です。

4 「研究・取組の概要」について

(1) 「研究・取組の概要」

- ・学生会議における口頭発表及びポスター発表に応募する団体は、所定の「研究・取組の概要」を提出してください。
- ・「研究・取組の概要」は、以下6項目「(1) 受付番号, (2) 研究・取組名, (3) 研究・取組分野, (4) 動機及び目的, (5) 考察・内容, (6) 結論・成果 (又は, 結論・成果の見通し)」とし、所定の様式にてA4用紙3枚以内にまとめてください。
- ・応募用紙と「研究・取組の概要」を同時に提出する際は、「(1) 受付番号」欄に応募者の名前(代表者)を必ず記入してください。
- ・(3) 研究・取組分野は、1で研究又は取組(活動)を、2で内容が該当すると思われる分野を選択してください。また、該当する分野がない場合は、その他に記入してください。
- ・まとめる際には、図、写真、グラフ等文字以外を掲載することも可能です。
- ・「研究・取組の概要」については、第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)公式HP上より、ダウンロードが出来ます。(「11 応募・提出・問合せ先」参照)

(2) 「研究・取組の概要」の提出方法

- ・提出方法は、郵送とします。「研究・取組の概要」を記入し、第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)実行委員会事務局宛に郵送してください。なお、提出していただいた「研究・取組の概要」の返却は行いませんのでご了承ください。(「11 応募・提出・問合せ先」参照)

(3) 「研究・取組の概要」提出期間

平成29年11月1日(水)～平成30年5月18日(金)

※平成29年11月1日(水)～平成30年4月27日(金)の期間は、応募と併せて提出することも可能です。

※第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)実行委員会事務局必着

(4) 口頭発表、ポスター発表及びディスカッションでの審査

提出された「研究・取組の概要」にて審査を行い、各発表・参加団体を決定します。(「7 口頭発表について」、「8 ポスター発表について」、「9 ディスカッションについて」参照)

5 研究・取組テーマ(口頭発表及びポスター発表)

水や湖沼に関係した自然、自然の恵みについて

私たちは、自然から多くの恵みを受けています。

水や食べ物のように目に見える形のものだけではなく、きれいな空気、安全で豊かな生活、さらに文化や観光など、私たちの生活は自然の恵みにあふれており、自然の恵みなしでは生きていくことができません。

今回開催される第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)の学生会議では、身近な自然である湖沼や河川、また、そこから得られる自然の恵みに関することについて、これまで取り組んできたことや研究していることをぜひ発表してください。そこで水や湖沼についてもう一度考え、私たちに何ができるか一緒に考えてみましょう。

(発表題材の例)

- ・ 湖沼における水質調査
- ・ 河川における生き物のつながり(食物連鎖)
- ・ 水に関係する歴史や文化
- ・ 霞ヶ浦で釣れた生物調査
- ・ 里山の自然を守るための取組
- ・ 上流と下流に住む生物の違い
- ・ 河川清掃活動による水質の変化
- ・ 水を活用した観光

6 研究・取組の内容について

- ・募集する研究・取組は、「5 研究・取組テーマ」に関する内容のものとします。ただし、湖沼や河川等を直接浄化する研究・取組については、その効果が科学的に検証されている手法を用いるものに限り、応募することができません。
- ・研究・取組内容はオリジナルのものに限り、他の団体及び個人が過去に行ったものは、応募することができません。
- ・募集開始以前から行っている研究・取組（同一団体で、メンバーが変わっても継続している研究・取組も含む）も応募が可能です。
- ・他のコンクールや自由研究作品展などに応募した研究・取組（オリジナル作品）でも、継続しているものであれば応募が可能です。

7 口頭発表について

(1) 口頭発表

- ・学生会議における「研究・取組発表」での発表となります。
- ・高校生は青少年会議（高校生）、中学生は青少年会議（中学生）、小学生は子ども会議においてそれぞれ発表を行います。
- ・1団体あたりの発表時間は7分間、質疑応答3分間です。
- ・学生会議は、平成30年10月14日に実施しますので、平成30年度の学校区分での参加となります。（例：平成30年度の中学校1年生は、青少年会議（中学生の部）での参加となります。）

(2) 口頭発表団体数

高校生、中学生、小学生、いずれも最大で各9団体です。

(3) 発表及び表示言語

発表及び発表資料の表示言語は、日本語又は英語、いずれも可能です。

(4) 審査及び審査結果

提出された「研究・取組の概要」にて審査を行い、発表団体を決定します。審査実施後、採択に関わらず、口頭発表へ応募された団体全てに審査結果を通知します。

また、審査結果により不採択となった場合、口頭発表を行うことが出来ませんので、口頭発表のみに応募をする場合は、ご注意ください。（発表団体数が多いポスター発表へも併せて応募することをおすすめします。）

(5) 審査結果通知日

平成30年6月下旬から7月上旬（予定）

8 ポスター発表について

(1) ポスター発表

- ・学生会議における「ポスターセッション」での発表となります。
- ・各団体が作成したポスターの前で、研究・取組について発表及び説明を行います。
- ・ポスターを掲示するパネル（横90cm×縦210cm）は、各団体1枚（片面）とします。

(2) ポスター様式・枚数

- ・大きさは、ポスターパネル内に収まるものとし、複数のポスターを掲示することも可能です。
- ・用紙や色の指定はありません。

(3) ポスター発表団体数

50団体程度です。※応募状況により変更となる可能性があります。

(4) 表示言語

ポスターの表示言語は、日本語又は英語、いずれも可能です。

(5) 審査及び審査結果

提出された「研究・取組の概要」にて審査を行い、発表団体を決定します。審査実施後、採択に関わらず、ポスター発表へ応募された団体全てに審査結果を通知します。

(6) 審査結果通知日

平成30年6月下旬から7月上旬（予定）

(7) ポスターの掲示について

掲示するポスターは、学生会議当日に持参し、受付後、ポスターセッションが開始するまでに受付で指定したポスターパネルに発表団体が掲示してください。

※ポスターセッション開始時間(予定)は、13:00です。

※掲示に使用する画鋏及び虫ピンは、実行委員会が会場内に用意します。

9 ディスカッションについて

(1) ディスカッション

・青少年会議(高校生の部)、青少年会議(中学生の部)、子ども会議(小学生の部)の3つのグループに分かれ、同一のテーマによるディスカッションを、それぞれ別ホールにて実施します。

・ディスカッション参加者は、事前に2回程度、グループごとに練習を実施する予定です。

・学生会議は、平成30年10月14日に実施しますので、平成30年度の学校区分での参加となります。

(例:平成30年度の高校1年生は、青少年会議(高校生の部)での参加となります。)

(2) ディスカッションのテーマ

「自然のめぐみ 命を育む水 ー共に生きる未来ー」

(3) ディスカッション参加団体数

高校生、中学生、小学生、いずれも各6団体です。

※応募状況により変更となる可能性があります

(4) ディスカッションにおける言語

ディスカッションにおける言語は、日本語です。

(5) 参加団体の選出方法・手順

①口頭発表及びポスター発表応募団体の中で、ディスカッションへの参加を希望する団体を選出します。

②提出された「研究・取組の概要」にて審査を行い、ディスカッション参加団体を決定します。

③各参加決定団体から3名程度推薦していただきます。

(6) 審査及び審査結果

提出された「研究・取組の概要」にて審査を行い、ディスカッション参加団体を決定します。審査実施後、採択に関わらず、ディスカッションへの参加を希望された団体全てに審査結果を通知します。

(7) 審査結果通知日

平成30年6月下旬から7月上旬(予定)

10 注意事項

(1) 研究・取組内容について

・「6 研究・取組の内容について」に記載されている項目を遵守してください。遵守されていない場合、主催者協議の上、審査対象外とすること、審査終了後でも発表をお断りすることがあります。(「6 研究・取組の内容について」参照)

・応募及び発表にあたって、文献、論文、新聞・雑誌の記事、テレビなどの映像番組、インターネット、講演会、インタビューなど第三者の研究・著作物を参考にしている場合は、参考資料として必ず明記してください。不備がある場合、主催者協議の上、審査対象外とすること、審査終了後でも発表をお断りすることがあります。

・研究・取組内容および応募者(指導者を含む)に以下の点が認められた場合には、主催者協議の上、発表をお断りすることがあります。

①募集要項違反が認められた場合

②法令等に反する等により、主催者が不適格と判断した場合

・応募された研究・取組の内容について、著作者その他権利を保有している第三者から使用について異議の申し出のあった場合、応募者の責任で問題の解決を図っていただきます。

・著作者をはじめ、第三者の権利の侵害と判断された場合、発表をお断りすることがあります。

(2) 学生会議当日及び事前練習について

- ・学生会議当日は、1団体に最低1名の引率者が必要です。ただし、同一学校やクラブ等より複数の団体が発表する際は、1名が複数の団体の引率者を兼ねることは可能です。
- ・引率者は、発表団体が在学している学校の教員又は保護者等とします。
- ・ディスカッションにおいては、事前練習を行うことを予定していますが、その際の引率者も学生会議当日と同様とします。

(3) 個人情報について

- ・応募用紙に記入いただいた氏名、学校名、グループ名、学年及び研究・取組内容は、茨城県及び第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会の刊行物、ホームページ等で公表することがあります。ご了承の上、応募願います。
- ・応募用紙に記入していただいた上記以外の個人情報に関しましては、連絡や審査結果通知等、第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）業務での範囲内のみで使用し、適正に管理いたします。

11 応募・提出・問合せ先

〒310-8555

茨城県水戸市笠原町978番6（茨城県環境対策課世界湖沼会議準備室内）

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会事務局 学生会議担当

Tel:029-301-2995(直通) Fax:029-301-2969

Email: wlc17@pref.ibaraki.lg.jp

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）公式HP: <http://www.wlc17ibaraki.jp/>

※応募用紙等を郵送する際には、上記住所を切り取って封筒に張り付ける等ご利用ください。

募集は2018年4月27日を締め切りとした。応募は、口頭発表は27団体の枠を準備していたところ56団体の応募が、ディスカッションについては、18団体の枠を準備していたところ39団体の応募が、また、ポスター発表については、50団体の枠を準備していたところ75団体の応募があり、募集枠を大幅に超える状況となった。

(2) 審査・選考

審査・選考の基準については、2018年5月に開催された学生会議委員会において検討が重ねられ、審査方法及び選考基準が「学生会議の審査要領」として取りまとめられた。応募については、この基準に基づき、2018年6月2日の1次審査（学生会議審査部会）及び6月28日の最終審査（学生会議委員会）において厳格な審査・選考が行われた。

その結果、口頭発表については27団体（小中高各9団体）、ディスカッションについては18団体（小中高各6団体）を採用した。また、ポスター発表団体については63団体（小14団体、中11団体、高38団体）を採用した。

○審査要領

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018） 学生会議審査要領

第17回世界湖沼会議
（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会

1 目的

この要領は、第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）学生会議（以下、「学生会議」という。）における、研究・取組発表（口頭発表）、ポスターセッション（ポスター発表）及びディスカッションに応募した団体（以下、「応募団体」という。）から発表団体を選考するため、審査に必要な事項を定める。

2 選考団体数

(1) 選考する発表団体数は、次のとおりとする。

ア 研究・取組発表	小学生	9団体
	中学生	9団体
	高校生	9団体
イ ポスターセッション	50団体程度	
ウ ディスカッション	小学生	6団体
	中学生	6団体
	高校生	6団体

(2) 同一団体が、研究・取組発表、ポスターセッション及びディスカッションに参加する場合、また、研究・取組発表とポスターセッションの内容が同一の場合であっても、それぞれ発表団体として認めることとする。

3 審査

(1) 審査は、第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）専門委員会設置要項に規定する、学生会議審査部会（以下、「審査部会」という。）及び学生会議委員会（以下、「委員会」という。）において、応募団体から提出された「研究・取組の概要」により行う。

(2) 審査項目は、次の4項目とする。

- ア 主体性・独創性・協調性
- ・主体的に研究・取組を行っているか。
 - ・研究・取組に対する熱意が感じられるか。
 - ・研究・取組に独創性が感じられるか。
 - ・（団体の場合）協調して研究・取組を行っているか。
- イ 研究・取組の「考察・内容」
- ・研究や取組の「(5) 考察・内容」が、「(6) 結論・成果（または、結論・成果の見通し）」に結びついているか。
 - ・目的に対して適切な調査が行われ、適切な結論が出ているか。

ウ 継続・発展性

- ・継続的な研究・取組であるか。
- ・研究・取組の「結論・成果」は発信されている、もしくは今後の発信に期待できるか。
- ・他の研究・取組に対しても活かすことが可能か。

エ 構成力

- ・わかりやすくまとめられているか。
- ・論旨が納得・理解できるものか。

(3) 審査方法

ア 審査は、審査項目ごとの5段階評価（5，4，3，2，1）の基準に基づき、各委員の採点結果をもとに委員協議のうえ行う。（別紙、「学生会議審査表」による。）

イ 採点は、一次審査を行う審査部会、最終審査・選考を行う委員会の各開催までに、各委員が個別に行う。なお、審査部会の各委員は、担当する分野（研究、または取組）の採点を行う。

ウ 一次審査

- ①審査部会により一次審査を行い、最終審査対象団体を選考する。
- ②最終審査対象団体数は、概ね次のとおりとする。
 - ・研究・取組発表：小中高各12団体（計36団体）程度
 - ・ディスカッション：小中高各9団体（計27団体）程度
 - ・ポスターセッション：趣旨に沿って作成されているもの

エ 最終審査

委員会により最終審査を行い、2の選考団体数を決定する。

(4) 委員の関与

審査部会及び委員会の委員は、自らが関与している団体については審査に加わらないこととする。

4 選考

(1) 基準

一次審査及び最終審査で選定の対象となる団体は、原則として、各委員の審査項目ごとの評価が全て「2」以上であること。

(2) 方法

ア 原則として、4(1)の選考基準を満たしている団体の中から、各委員の合計点を平均した点の上位団体順に選定する。

イ 特定の審査項目が突出して評価されているなど、内容の一部が秀逸と判断されている団体については、4(1)または4(2)アによらず、必要に応じて委員会の審査、協議を経て選定する。

ウ 審査の結果、点数が同点であった場合は、委員会において協議のうえ発表団体を決定する。

5 選考結果の発表

選考結果は、全ての応募団体に対して速やかに文書で通知するとともに、選考された発表団体は実行委員会のホームページ等で公表する。

○審査・選考フロー

①応募 応募期限：4月27日(金)
②「研究・取組の概要」提出 提出期限：5月18日(金)
③事務局にて形式チェック，不備があれば修正
④学生会議審査部会にて事前採点 期限：5月28日(月)
⑤学生会議審査部会にて一次審査・選考(6月2日(土)) 不採択の場合は発表不可
【一次審査・選考通過】
研究・取組発表(口頭発表)：小中高各12団体程度
ディスカッション：小中高各9団体程度
ポスターセッション：趣旨に沿って作成されているもの
⑥学生会議委員会にて事前採点 期限：6月19日(火)
⑦学生会議委員会にて最終審査・選考(6月28日(木)) 不採択の場合は発表不可
【最終審査・選考通過】
研究・取組発表(口頭発表)：小中高各9団体
ディスカッション：小中高各6団体
ポスターセッション：趣旨に沿って作成されているもの
⑧発表決定 決定通知：6月下旬～7月上旬

○学生会議論文等採用結果

	発表形式別						参加団体数*	
	口頭発表		ポスター発表		ディスカッション			
	申込数	採用数	申込数	採用数	申込数	採用数	申込数	採用数
小学生	18	9	18	14	8	6	19	19
中学生	10	9	16	11	8	6	17	17
高校生	28	9	41	38	23	6	41	41
計	56	27	75	63	39	18	77	77

※重複して応募した学校あり

○学生会議ディスカッション参加団体

小学生の部	ファシリテーター	細田 直人	茨城県霞ヶ浦環境科学センター係長
	アドバイザー	川嶋 宗継	国立大学法人滋賀大学名誉教授
		林 暁嵐	国立大学法人東京農工大学大学院連合農学研究科・ 国立大学法人茨城大学配置
参加団体		逆川こどもエコクラブ(茨城県)	
		稲敷市立浮島小学校(茨城県)	
		小美玉市立玉里東小学校(茨城県)	
		ラムサールびわっこ大使(滋賀県)	
		銚田市立旭北小学校(茨城県)	
		TANAKAMIこども環境クラブ(滋賀県)	



- 中学生の部**
- ファシリテーター 三輪 俊一 茨城県霞ヶ浦環境科学センター主査
- アドバイザー 原口 弥生 国立大学法人茨城大学人文社会科学部教授
ヌルル シャヒラ ビンチ シャムソル アヌア
国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科
- 参加団体 水戸英宏中学校(茨城県)
美浦村立美浦中学校(茨城県)
青葉台初等・中等学部(茨城県)
TANAKAMIこども環境クラブ(滋賀県)
石岡市立国府中学校(茨城県)
智学館中等教育学校(茨城県)
- 高校生の部**
- ファシリテーター 小幡 和男 茨城県自然博物館主席学芸員
- アドバイザー 清水 和哉 国立大学法人筑波大学生命環境系准教授
沈 慶月 国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科
- 参加団体 劇団シンデレラ(愛知県)
滋賀県立守山中学・高等学校(滋賀県)
茨城県立竹園高等学校(茨城県)
山陽女子中学校・高等学校(岡山県)
逆川こどもエコクラブ(茨城県)
清風中学校・高等学校(大阪府)

10 開催準備・広報活動

(1) 開催準備

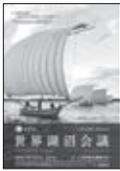
第17回世界湖沼会議では、世界中の研究者や行政担当者、市民、企業関係者などの幅広い参加を得るため、国内外へ向けて開催案内書を配布し、会議への論文募集及び参加登録を積極的に呼びかけた。

また、多くの人々に会議のイメージや関連行事の内容を伝えるため、ポスターやチラシを作成し、PRを行った。

○開催案内書

案内書	作成時期	内容	仕様	印刷部数	主な配布先
第1回開催案内書 	平成29年6月	会議の名称、テーマ、開催趣旨、スケジュール(案)、会場	A4 8ページ カラー	日本語 10,000部 英語 1,500部	大学(国公立、私立)、学会、国(国交省、環境省、農水省)、都道府県、県内市町村、市民団体、研究機関
第2回開催案内書 	平成30年2月	会議概要や参加料を含めた参加登録方法、論文募集方法等を全世界に広くPRし会議開催を周知するとともに、会議への参加を呼びかける。	A4 28ページ カラー	日本語 20,000部 英語 5,000部	実行委員会等委員、大学(国公立、私立)、学会、都道府県、県内市町村、市民団体、協賛企業、後援機関(現在までに承諾のあるもの)、その他関係機関
最終開催案内書 	平成30年9月	事前に、参加者に対して、当日の受付手続きをはじめとした必要な手続き、会議プログラム、会場施設の情報を案内。	A4 88ページ カラー	日本語 3,000部 ※英語版の冊子は作成せず、公式ホームページへ掲載。	実行委員会等委員、都道府県、県内市町村、会議参加事前登録者、展示会出展者

○ポスター

	作成時期	仕様	印刷枚数
開催案内ポスター 	平成29年11月(100枚) 平成30年5月(800枚)	B2カラー刷り	日本語 900枚
サテライト環境関連行事案内ポスター 	平成30年4月	B2カラー刷り	日本語 800枚
最終開催案内ポスター 	平成30年9月	A1カラー刷り	日本語 500枚

○チラシ

	配布時期	仕様	印刷枚数
開催決定チラシ 	平成28年5月～ 平成28年7月	A4カラー刷り	日英(裏表) 2,000枚
基本構想チラシ 	平成28年9月～ 平成29年10月	A4カラー刷り	日英(裏表) 30,000枚
基本計画チラシ 	平成29年11月～ 平成30年3月	A4カラー刷り	日本語 6,000枚 英語 2,000枚
開催案内チラシ 	平成30年4月～ 平成30年8月	A4カラー刷り	日本語 17,000枚
最終開催案内チラシ 	平成30年9月～ 平成30年10月	A4カラー刷り	日本語 4,200枚
サテライト会場環境関連行事 	平成30年4月～ 平成30年10月	A4カラー刷り	日本語 100,000枚

(2) カウントダウンボード除幕式

第17回世界湖沼会議の開催の1年前を記念し、カウントダウンボードの除幕式を行うとともに、海外からの留学生による応援スピーチ、亀城太鼓の演奏が行われた。

開催日時：2017年(平成29年)10月16日 10:30～11:10

場 所：県庁舎2階 県民ホール

参 加 者：関係者約200人

日 程：

項目	内容
開会	
主催者挨拶	大井川 和彦 茨城県知事
来賓挨拶, 紹介	挨拶 藤島 正孝 茨城県議会議長 中川 清 土浦市長 坪井 透 かすみがうら市長 鬼沢 保平 鉾田市長 小林 宣夫 茨城町長 紹介 飯野 哲雄 つくば市副市長 田尻 充 水戸市副市長
応援スピーチ	外国人留学生2名 Augusto Vundo氏 (モザンビーク出身, 筑波大学生命環境科学研究科博士課程2年) Fajar Setiawan氏 (インドネシア出身, 筑波大学生命環境科学研究科修士課程2年)
除幕	除幕出席者(11名) 茨城県知事, 茨城県議会議長, 6市町長, 応援スピーチ者(2名), 近藤 慶一茨城県生活環境部長 ※ 亀城太鼓保存会による演奏
閉会	



カウントダウンボード除幕式

(3) 第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）プレ会議

第17回湖沼会議開催1年前のプレイベントとして2日間に渡りプレ会議を開催した。多くの県民や行政担当者が集い、開催に向けた機運醸成を図ることができた。

開催日：2017年(平成29年)11月1日～11月2日 2日間

場所：つくば国際会議場

① 特別講演、事例発表及びパネルディスカッション(1日目)

開催日時：2017年(平成29年)11月1日 13:30～17:00

場所：つくば国際会議場 多目的ホール

主催：茨城県

参加者：国内の湖沼関係者(行政関係者、研究者、市民団体等)約400名

日程：

時間	内容
13:30-14:40	開会 主催者挨拶：菊地 健太郎 茨城県副知事 はじめに「第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）開催について」
13:40-14:40	特別講演 講演者：有森 裕子氏 (元マラソン選手、NPO ハート・オブ・ゴールド代表理事) 演目：「スポーツを通して感じる霞ヶ浦の魅力」 ※「かすみがうらマラソン」に平成12年の第10回大会から17年連続で盲人選手の伴走ランナーとして参加
14:40-15:00	(休憩)
15:00-16:10	事例発表及びパネルディスカッション テーマ：「人と湖沼の共生に向けて」 コーディネーター：井手 慎司 公立大学法人滋賀県立大学 教授 ○はじめに(10分) 発表者：井手 慎司 公立大学法人滋賀県立大学 教授 ○事例発表 ・滝下 利男 一般社団法人霞ヶ浦市民協会 理事 「霞ヶ浦における市民活動」 ・宮本 康 福井県里山里海湖研究所 研究員 「人と三方五湖のかかわり、そして自然再生」 ・三輪 俊一 茨城県霞ヶ浦環境科学センター 環境活動推進課 主査 「人と湖沼の共生に向けたセンターが行う環境学習事業」 ・小松 直樹 滋賀県琵琶湖環境部 技監 「琵琶湖の環境保全 人と湖沼の共生に向けて」
16:10-16:55	○パネルディスカッション コーディネーター：井手 慎司 公立大学法人滋賀県立大学 教授 パネリスト：事例発表者4名 渡邊 康正 環境省水・大気環境局 水環境課長
17:00	閉会



特別講演（有森裕子氏）



パネルディスカッション

②流域政策研究フォーラム(2日目)

開催日時：2017年(平成29年)11月2日 9:30～14:30

場 所：つくば国際会議場 多目的ホール

主 催：公益財団法人国際湖沼環境委員会(ILEC)

参 加 者：国内の湖沼関係研究者及び行政担当者等 54名

日 程：

時間	内容
9:30-10:30	全体討議 各湖沼に共通する課題についての現状の事例発表 事例発表 ・小松 直樹 滋賀県琵琶湖政策課 技監 「琵琶湖の環境保全－現状と課題－」 ・朴 虎東 信州大学理学部 教授 「諏訪湖の保全対策と水質、生態系の推移」 ・桑名 美恵子 茨城県生活環境部環境対策課 課長 「霞ヶ浦の水質保全対策」
10:30-12:30	ラウンドテーブルディスカッション 全参加者が2つのテーマに分かれて対応策についての議論 ・水質に視点をおいて （コーディネーター：桑名 美恵子 茨城県生活環境部環境対策課 課長） ・生態系に視点をおいて （コーディネーター：松崎 慎一郎 国立環境研究所 主任研究員）
12:30-13:30	(昼食休憩)
13:30-14:30	取りまとめ 第17回世界湖沼会議に向けた論点整理
14:30	閉会



ラウンドテーブルディスカッション

(4) 第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）水環境セミナー 「自然の恵みを未来につなごう！」

第17回世界湖沼会議に向け、次世代を担う子どもたちの水環境に関する意識向上や霞ヶ浦等の湖沼を誇りに思う郷土愛の醸成を図るとともに、研究取組に資するための体験型環境学習イベントを開催した。

開催日時：2018年(平成30年)2月12日 13:00～16:40

場 所：つくば国際会議場

参加者：約1,200名

日 程：

時間	内容
13:00	開 会（主催者挨拶，解説「湖沼会議・生態系サービスとは」）
13:10(80分) 大ホール	第1部 講演会 講演(講師：東京海洋大学客員准教授 さかなクン) 題目：「さかなクンのギョギョツと霞ヶ浦のお魚の話 自然の恵みを未来につなごう」
14:30(20分)	(休憩)
14:50(110分) 大ホール 多目的ホール	第2部 研究・実験観察講座 (1) 研究講座(全3回。各30分) 研究・取組のポイント，発表時の工夫などを伝授 ア 講師 茨城大学教授 黒田久雄氏 イ 対象 1回目：小学生，2回目：中学生，3回目：高校生 (2) 実験観察講座 環境や科学，生物などについて楽しく学べるブースを設営 ① (公社)日本技術士会茨城県支部 ② 茨城県土木部下水道課・流域下水道事務所 ③ 国立研究開発法人国立環境研究所 ④ 茨城県生活環境部霞ヶ浦環境科学センター ⑤ ミュージアムパーク茨城県自然博物館 ⑥ 茨城県生活環境部環境政策課生物多様性センター ⑦ (一社)茨城県環境管理協会 ⑧ 茨城県農林水産部霞ヶ浦北浦水産事務所 ⑨ (公社)茨城県水質保全協会
16:40	閉 会



講演会（さかなクン）



研究講座（黒田久雄 茨城大学教授）



実験観察講座

(5) 世界湖沼会議応援事業

世界湖沼会議周知イベント等を行った関連行事。事業名又は事業名以外の目立つ箇所に「第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)応援事業」又は「私たちは第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)を応援します」を表記し、イベント等を実施していただいた。

事業名	主催等	開催日	場所	内容
湖沼浄化を考える講演会・発表会	循環型社会を目指すフォーラム・茨城県	平成29年9月5日(火)	茨城県霞ヶ浦環境科学センター(土浦市)	事業の後援、開催ポスター・チラシへの応援事業表記及びシンボルマーク掲載
封筒を用いた啓発	(公財)本田記念財団	平成29年10月～平成30年10月	—	封筒への応援事業表記及びシンボルマーク掲載
市広報誌及びホームページでの啓発	かすみがうら市	平成29年7月～平成30年10月	—	市広報誌7月号, 10月号お知らせ版及び市作成HPへのシンボルマーク掲載
霞ヶ浦帆引き船フォトコンテスト	霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会	平成29年12月1日(金)～平成29年12月24日(日)	かすみがうら市歴史博物館(かすみがうら市)	刊行物へのシンボルマーク掲載
第17回世界湖沼会議フォトコンテスト作品展	霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会	平成30年2月18日(日)～平成30年3月4日(日)	かすみがうら市歴史博物館(かすみがうら市)	刊行物へのシンボルマーク掲載
霞ヶ浦帆引き船フォトコンテスト入選作品展と帆引き船模型作り教室	(株)カスミ	平成30年2月16日(金)～平成30年3月18日(日)	カスミフードスクエア土浦ピアタウン店(土浦市)	イベントポスター, チラシ(1,000部)に応援事業表記, シンボルマーク掲載
第29回全国トンボ市民サミット茨城県湖沼大会	第29回全国トンボ市民サミット茨城県湖沼大会実行委員会	平成30年6月9日(土)～平成30年6月10日(日)	いこいの村湖沼, 湖沼自然公園他(銚田市, 茨城町)	事業の後援, 大会プログラム等刊行物への応援事業表記, シンボルマーク掲載
刊行物の掲載	いばらきコープ生活協同組合	平成30年6月～10月	ときめきスマイル(広報誌)	刊行物への応援事業表記, シンボルマークの掲載
コープのがっこう	いばらきコープ生活協同組合	平成30年6月～10月	県内各地	刊行物への応援事業表記, シンボルマークの掲載
写真パネル展示及び夏休み親子帆引き船模型づくり教室	霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会	平成30年6月1日(金)～平成30年8月31日(金)	茨城県庁展望室(水戸市)	事業の後援, チラシ, パネル等への応援事業表記, シンボルマーク掲載
小美玉市環境フェスティバル2018ーブレ第17回世界湖沼会議ー	小美玉市環境フェスティバル実行委員会	平成30年7月21日(土)	小美玉市生涯学習センター(コスモス)(小美玉市)	環境関連イベントでの応援事業表記
霞ヶ浦日帰りネイチャーツアー	(株)カスミ	平成30年7月29日(日), 平成30年8月26日(日)	霞ヶ浦湖上及び湖岸	ポスター・チラシ等への応援事業表記, シンボルマークの掲載
横断幕・バナーフラッグ掲出	つくば市	平成30年7月～10月	つくば市内	つくば市内歩道橋, 遊歩道等に設置
第18回霞ヶ浦帆引き船フォトコンテスト	霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会	平成30年7月～平成31年3月	かすみがうら市歴史博物館(かすみがうら市)	フォトコンテストへの後援, ポスター・チラシ等への応援事業表記, シンボルマーク掲載等
阿見・霞ヶ浦湖畔スタディーツアー	阿見・霞ヶ浦湖畔スタディーツアー実行委員会	平成30年7月～10月	霞ヶ浦湖畔(阿見町・美浦村)	刊行物等への応援事業表記, シンボルマーク掲載
牛久観光アヤマ園かいほり大作戦(環境美化活動)	NPO法人ちゃんみよTV	平成30年8月11日(土)	牛久市観光アヤマ園(牛久市)	チラシ・ポスター, ホームページ等へのシンボルマーク掲載
Webサイトバナーの掲載	(株)堀場アドバンステクノ	平成30年8月～10月	同社ホームページ	展示会出展情報掲載ページへの応援事業表記, シンボルマーク, シンボルマーク掲載
茨城大学公開講座	茨城大学	平成30年9月1日(土)	茨城大学	公開講座チラシ等への応援事業表記, シンボルマーク掲載
世界湖沼会議開催&りんりんスクエア土浦OPEN記念第1回霞ヶ浦トライアスロンフェスタ	第1回霞ヶ浦トライアスロンフェスタ実行委員会	平成30年9月23日(日)	土浦新港周辺特設コース(土浦市)	トライアスロン大会での応援事業表記

事業名	主催等	開催日	場所	内容
第21回企画展「霞ヶ浦の誕生と貝塚—縄文海進期の人々の暮らし—」	上高津貝塚ふるさと歴史の広場	平成30年9月25日(火)～平成30年12月2日(日)	上高津貝塚ふるさと歴史の広場(土浦市)	チラシ・ポスター等へのシンボルマーク掲載
書屋かなこと×新生戯曲展 酒沼皋月姫絵巻(水圏生物展)	Japan Art Management Style	平成30年9月30日(日)	なごみgallery飯田町(千葉県成田市)	短編映画上映及び水圏生物展開催事業への応援事業表記、刊行物等へのシンボルマーク掲載
カスミ×サントリー共同企画 金麦パック	サントリー酒類(株) 関東支店	平成30年9月～10月	県内カスミフードスクエア等での販売	同社製品のバックデザインへの応援事業表記、シンボルマーク掲載

(6) 世界湖沼会議気運醸成補助事業

世界湖沼会議に向けた気運醸成のためのイベントを行う市民団体等に対し、事業経費を茨城県で補助し実施した

補助団体	イベント等実施日	内容	場所
NPO法人 霞ヶ浦アカデミー	平成29年10月14日(土)～15日(日)	ベトナム人との国際交流及び環境学習	霞ヶ浦ふれあいランドほか(行方市)
霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁保存会	募集 平成29年12月1日(金)～24日(日) 表彰式 平成30年2月18日(金)	帆引き船フォトコンテスト、模型作り	表彰式：かすみがうら市農村環境改善センター 展示会：かすみがうら市歴史博物館研修施設
(公社) 日本技術士会茨城県支部	平成29年6月24日(土) 平成30年3月10日(土)	世界湖沼会議のテーマに関するシンポジウム	霞ヶ浦環境科学センター、国民宿舎水郷 霞浦の湯前(土浦市)
NPO法人 エコレン	平成29年7月～平成30年2月	エコ講座、廃ガラスアート体験	幼稚園、小中学校、公民館、事業所(土浦市、常総市)
(一社) 霞ヶ浦市民協会	平成29年7月17日(月) 平成29年11月～12月	泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル 懸垂幕の掲示	霞ヶ浦総合公園、土浦商工会議所(土浦市)
NPO法人 ちゃんみよTV	平成29年7月～平成30年2月に8回	牛久沼に関する環境学習会	学習センター等(牛久市)
世界湖沼会議市民の会'18	平成29年7月～平成30年3月	ホームページ開設、広報誌作成	—
かすみがうら市 家庭排水浄化推進協議会	平成29年10月14日(土)～15日(日)	エンデューロ大会でのブース出展、エコバッグ等の啓発グッズの配布	歩崎公園(かすみがうら市)

(7) 霞ヶ浦問題協議会による広報事業

項目	イベント等実施日	内容	場所
世界湖沼会議啓発物作成	平成29年8月	のぼり、クリアファイル、ポケットティッシュ	—
広報イベント(世界湖沼会議記念ウォーキング大会) 北浦コース(定員200名)	平成29年11月5日(日)	ゴミを拾いながらのウォーキング大会	茨城県水郷県民の森周辺(潮来市)
酒沼コース(定員100名)	平成29年11月18日(土)		酒沼自然公園周辺(茨城町)
西浦コース(定員100名)	平成29年12月3日(日)		霞ヶ浦環境科学センター(土浦市)

(8) 企業等による広報協力

企業等名称	内容	時期
東日本高速道路(株)(NEXCO東日本)	高速出口、SA等におけるのぼり旗設置、チラシ配布	平成30年4～
ヤマト運輸(株)	県内受付窓口70ヶ所へのミニのぼり設置	平成30年5月～
日本自動車連盟(JAF)	県内窓口10ヶ所へのミニのぼり設置	平成30年5月～
日本郵便(株)	県内465局での記念切手販売	平成30年8月24日(金)～
常陽銀行	ミニのぼり設置等	平成30年8月～10月
サントリー酒類(株) 関東支店	カスミ×サントリー金麦パック販売(対象商品1本につき1円寄附)	平成30年9月～10月

(9) 茨城県による広報

① イベント等におけるブース出展

イベント名	開催日	場所	主催
第16回大好きいばらきふれあいまつり	平成29年4月8日(土)	茨城県三の丸庁舎	大好きいばらき県民会議
水戸市環境フェア2017	平成29年6月4日(日)	茨城県三の丸庁舎広場(水戸市)	水戸市環境フェア 実行委員会
茨城県人会連合会	平成29年6月30日(月)	椿山荘(東京都文京区)	茨城県
霞ヶ浦市民協会 第22回泳げる霞ヶ浦市民フェスティバルwith世界湖沼会議 プレ会議	平成29年7月17日(月)	土浦市霞ヶ浦総合公園ほか (土浦市)	(一社)霞ヶ浦市民協会
霞ヶ浦環境科学センター夏まつり2017	平成29年8月26日(土)	茨城県霞ヶ浦環境科学センター (土浦市)	茨城県
陸水学会第82回大会	平成29年9月28日(木)~29(金)	駒ヶ岳グランドホテル (秋田県仙北市)	日本陸水学会
EVI環境マッチングイベント2017	平成29年10月24日(火)	東京国際フォーラム (東京都千代田区)	カネルコ(株)EVI推進協議会
レイクエコフェスティバル	平成29年10月28日(土)	レイクエコ(行方市)	茨城県教育委員会, (公財)茨城県教育財団, 茨城県鹿行生涯学習センター, 茨城県女性プラザ
茨城を食べよう収穫祭	平成29年10月28日(土)	霞ヶ浦総合公園(土浦市)	茨城県
アジア湿地シンポジウム2017	平成29年11月6日(月)~8日(水)	ホテルグランテはがくれ (佐賀県佐賀市)	アジア湿地シンポジウム 2017実行委員会
第52回日本水環境学会年会	平成30年3月15日(木)~16日(金)	北海道大学工学部(札幌市)	(公社)日本水環境学会
第17回大好きいばらきふれあいまつり	平成30年4月7日(土)	茨城県三の丸庁舎(水戸市)	大好きいばらき県民会議
つくばフェスティバル2018	平成30年5月12日(土)	大清水公園ほか(つくば市)	つくばフェスティバル実行 委員会
水戸市環境フェア2018	平成30年6月3日(日)	千波公園(水戸市)	水戸市環境フェア 実行委員会
第4回茨城県フェア-大好きいばらき WAON寄付金贈呈式-	平成30年6月8日(金)~10日(日)	イオンモールつくば(つくば市)	イオンリテール(株)
第7回茨城県フェア 夏のいばらき観光 キャンペーンinイオンモール与野	平成30年6月30(金)~7月2日(日)	イオンモール与野 (埼玉県与野市)	茨城県, (一社)茨城県観光協会, イオンリテール(株)
茨城県人会連合会設立50周年式典祝賀会	平成30年6月29日(金)	椿山荘(東京都文京区)	茨城県
泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル	平成30年7月16日(月)	土浦市霞ヶ浦総合公園ほか (土浦市)	(一社)霞ヶ浦市民協会
エコフェスひたち	平成30年7月21日(土)	日立シビックセンター(日立市)	エコフェスひたち実行 委員会, 日立市
小美玉市環境フェスティバル2018 -プレ第17回世界湖沼会議-	平成30年7月21日(土)	小美玉市生涯学習センター (コスモス)(小美玉市)	小美玉市環境フェスティバル 実行委員会
霞ヶ浦環境科学センター夏まつり2018	平成30年8月25日(土)	茨城県霞ヶ浦環境科学センター (土浦市)	茨城県
まつりつくば2018	平成30年8月25日(土)~ 8月26日(日)	大清水公園ほか(つくば市)	まつりつくば大会本部 運営委員会
世界湖沼会議開催&りんりんスクエア 土浦OPEN記念 第1回霞ヶ浦トライアスロンフェスタ	平成30年9月23日(日)	土浦新港周辺特設コース (土浦市)	第1回霞ヶ浦トライアスロン フェスタ実行委員会
鉾田市環境フェア 鉾田市世界湖沼会議 サテライト会場記念式典	平成30年10月8日(月)	鉾田総合公園	鉾田市世界湖沼会議サテ ライト会場実行委員会

②広告等掲載

掲載場所	内容	期間
つくばエクスプレス車両及び駅構内	中吊り広告	平成30年5月11日(金)～5月12日(土), 会期中
	ポスター	平成30年9月中
Lien Ville(茨城県鹿行地域広報誌)	世界湖沼会議の特集記事掲載	平成30年7月中旬, 9月末
常陽銀行	165支店でのデジタルサイネージ広告	平成30年8月～10月
日本経済新聞	茨城版全5段への特集記事掲載	平成30年8月後半
県内ケーブルテレビ	世界湖沼会議の紹介	平成30年8月に4回
コープスマイル (いばらきコープ会員誌)	生協会員に配布する冊子への掲載	平成30年9月末
茨城新聞	15段全面広告掲載	平成30年10月4日(木)
月刊下水道	特集記事掲載(会場内にて配布)	平成30年10月15日(月)
水道産業新聞	特集記事掲載(会場内にて配布)	平成30年10月11日(木)～
環境新聞	特集記事掲載(会場内にて配布)	平成30年10月15日(月)～
読売新聞	広告掲載	平成30年10月15日(月)
茨城県公式ツイッター	適宜, 世界湖沼会議の開催, 付随イベント等に係る情報掲載	—

③会議等での講演・広報等

会議名	開催日	場所	内容
学校教育指導方針説明会	平成29年4月6日(木)	茨城県教育研修センター	基本計画内容説明, 学生会議協力呼びかけ
NPO法人霞ヶ浦アカデミーシンポジウム	平成29年5月21日(日)	県南生涯学習センター	基本計画内容講演
水戸市環境保全会議	平成29年6月10日(日)	水戸市内原公民館(水戸市)	霞ヶ浦の水質浄化と湖沼会議講演
鹿島臨海工業地域環境保全推進協議会総会	平成29年6月26日(月)	鹿島セントラルホテル(鹿嶋市)	基本計画内容説明
筑波研究学園都市交流協議会総会	平成29年6月27日(火)	文科省研究交流センター(つくば市)	基本計画内容説明
いこいの村湖沼 ピオトープピオトーププロジェクト	平成29年6月26日(月)	いこいの村湖沼(鉾田市)	植生イベントでのPR
茨城県女性団体連盟	平成29年7月10日(月)	茨城県庁(水戸市)	霞ヶ浦の水質浄化と湖沼会議講演
茨城県経営者協会環境行政連絡会議	平成29年7月10日(月)	水戸市内	基本計画内容説明
りんりんフェスタつくば霞ヶ浦サイクリング	平成29年10月14日(土)	歩崎公園他(かすみがうら市)	プレ会議チラシ配布
日中韓環境研究機関長会合	平成29年10月25日(水)	オークラフロンティア ホテルつくば(つくば市)	概要説明
茨城県県南生涯学習センター 県民大学講座	平成29年12月22日(金)	霞ヶ浦中地区公民館(土浦市)	概要説明
環境行政連絡会議	平成30年4月23日(月)	茨城県水戸合同庁舎(水戸市)	概要説明
水戸市ネットワーク	平成30年5月13日(日)	水戸市内	概要説明
霞ヶ浦問題協議会総会	平成30年5月18日(金)	茨城県霞ヶ浦環境科学センター(土浦市)	概要説明
県生活学校連絡会総会	平成30年5月21日(月)	茨城県三の丸庁舎(水戸市)	概要説明
印旛沼水質保全協議会	平成30年5月29日(火)	四街道市文化センター(千葉県四街道市)	概要説明
鹿島臨海工業地域環境保全推進協議会総会	平成30年6月26日(火)	鹿島セントラルホテル(鹿嶋市)	概要説明
茨城大学公開講座	平成30年9月1日(土)	茨城大学(水戸市)	概要説明

④啓発物品作成

	数	仕様
平成29年度		
うちわ	500個	第16回世界湖沼会議(バリ会議)での啓発用
バナー	日英 各3本	W880mm×H2100mm スタンド型
バナー	日本語 24本	W850mm×H2000mm スタンド型
のほり旗	500本	W600mm×H1800mm スタンド型
ミニのほり旗	100本	W100mm×H300mm スタンド型
マグネットシート	100個	W500mm×H200mm 公用車等にて啓発
ポケットティッシュ	15,000個	イベント配布物品(開催日程, シンボルマーク等掲載)
缶バッジ	15,000個	イベント配布物品(帆引き船, シンボルマーク等掲載)
マグネットバー	2,000個	イベント配布物品(開催日程, シンボルマーク等掲載)
マグネットクリップ	2,000個	イベント配布物品(開催日程, シンボルマーク等掲載)
フリクションボールペン	500本	イベント配布物品(帆引き船, シンボルマーク等掲載)
ユーティリティトート	500個	イベント配布物品(黒色A4ヨコ型, シンボルマーク掲載)
不織布トートバッグ	500個	イベント配布物品(青色A4タテ型, シンボルマーク掲載)
平成30年度		
ポケットティッシュ	15,000個	イベント配布物品(開催日程, シンボルマーク等掲載)
ミニのほり旗	2,000本	W100mm×H300mm スタンド型

⑤茨城県霞ヶ浦環境科学センターにおける事業

イベント名	開催日	内容
特別企画展 「霞ヶ浦のめぐみ ーいきものと湖沼の関わりー」	平成29年10月1日(日)～31日(火)	霞ヶ浦のめぐみの紹介, 帆引き船1/5スケールレプリカ展示, 世界の湖沼の問題と取組の紹介
帆引き船模型工作教室	平成29年10月14日(土)	1/140スケール模型作成
記念講演会 「霞ヶ浦の漁業史と魚食文化 ー霞ヶ浦と人との関わりー」	平成29年10月14日(土)	霞ヶ浦の魚食文化とそれを支えてきた漁業の歴史
自然観察会 「秋の水路で魚釣り&センター企画展ツアー」	平成29年10月14日(土)	霞ヶ浦の水質浄化と湖沼会議講演
公開セミナー霞ヶ浦学講座 「生態系サービスって知っていますか？」	平成29年10月28日(土)	生態系サービスについて分かりやすく解説
霞ヶ浦学講座	平成29年度 5回 平成30年度 5回	総合的に霞ヶ浦への理解を深める目的で月1回程度実施している同講座において, 世界湖沼会議に関わる内容の講座を適宜実施
霞ヶ浦コンシェルジュ養成講座	平成29年9月～平成30年5月 全9回	霞ヶ浦学講座で知識を習得していただいた方など, 霞ヶ浦について理解を深めた方を対象に, 世界湖沼会議に向けて霞ヶ浦について分かりやすく紹介・解説できる実践的なスキルを磨く場として実施。

組織

（平成30年8月31日現在）敬称略, 五十音順

(1) 第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会

会 長	大井川 和彦	茨城県知事	高橋 靖	水戸市長
副会長	竹本 和彦	公益財団法人国際湖沼環境委員会理事	田中 聡志	環境省水・大気環境局長
副会長	宇野 善昌	茨城県副知事（県民生活環境部担当）	塚原 浩一	国土交通省水管理・国土保全局長
委 員	五十嵐 立青	つくば市長	坪井 透	かすみがうら市長
	市村 和男	世界湖沼会議市民の会 '18 会長	中川 清	茨城県市長会長, 土浦市長, 霞ヶ浦問題協議会長
	薄井 征記	霞ヶ浦漁業協同組合代表理事組合長	永田 恭介	国立大学法人筑波大学長
	海老澤 武美	きたうら広域漁業協同組合代表理事組合長	中原 常雄	日本放送協会水戸放送局長
	小田部 卓	株式会社茨城新聞社代表取締役社長	中山 一生	茨城県河川協会長
	小野寺 俊	茨城県副知事	西川 和廣	国立研究開発法人土木研究所理事
	金尾 健司	独立行政法人水資源機構理事	幡谷 浩史	チャレンジいばらき県民運動理事
	川津 隆	茨城県議会議長	服部 恵子	茨城県女性団体連盟会長
	岸田 一夫	鉾田市長	別所 智博	農林水産省技術総括審議官 兼農林水産技術会議事務局長
	北島 重司	株式会社茨城放送代表取締役社長	松井 三郎	世界湖沼会議企画推進委員会委員長
	久間 和生	国立研究開発法人農研機構理事	三村 信男	国立大学法人茨城大学長
	小林 宣夫	茨城町長, ラムサール条約登録湿地 ひぬまの会長	渡邊 武	茨城産業会議議長
	櫻井 よう子	茨城県地域女性団体連絡会長	渡辺 知保	国立研究開発法人国立環境研究所理事
	佐野 治	茨城県農業協同組合中央会長, 公益社団法人茨城県畜産協会会長	今関 裕夫	茨城県市長会・町村会常務理事 兼事務局長
	染谷 森雄	茨城県町村会長	角田 英樹	茨城県会計管理者
	高杉 則行	茨城県内水面漁業協同組合連合会 代表理事		

○旧委員等

会 長	橋本 昌	茨城県知事（当時）	住 明正	国立研究開発法人国立環境研究所理事 （当時）
副会長	山口 やちゑ	茨城県副知事（生活環境部担当）（当時）	高橋 康夫	環境省水・大気環境局長（当時）
	楠田 幹人	茨城県副知事（当時）	田山 知賀子	茨城県女性団体連盟会長（当時）
	菊地 健太郎	茨城県副知事（生活環境部担当）（当時）	幡谷 浩史	大好きいばらき県民会議理事（当時）
委 員	石川 信	日本放送協会水戸放送局長（当時）	浜中 裕徳	公益財団法人国際湖沼環境委員会理事 （当時）
	井邊 時雄	国立研究開発法人農研機構理事（当時）	早水 輝好	環境省水・大気環境局長（当時）
	魚本 健人	国立研究開発法人土木研究所理事（当時）	藤島 正孝	茨城県議会議長（当時）
	小谷 隆亮	茨城県町村会長（当時）	豊田 稔	茨城県市長会長（当時）
	鬼澤 邦夫	茨城産業会議議長（当時）	森 淑子	茨城県女性団体連盟会長（当時）
	鬼沢 保平	鉾田市長（当時）	山岡 恒夫	茨城県議会議長（当時）
	加倉井 豊邦	茨城県農業協同組合中央会長（当時） 公益社団法人茨城県畜産協会会長（当時）	山口 武平	茨城県河川協会長（当時）
	菊池 敏行	茨城県議会議長（当時）	山田 邦博	国土交通省水管理・国土保全局長（当時）
	甲村 謙友	独立行政法人水資源機構理事（当時）	田中 豊明	茨城県会計管理者（当時）
	西郷 正道	農林水産省技術総括審議官 兼農林水産技術会議事務局長（当時）	森田 百合子	茨城県会計管理者（当時）

(2) 企画推進委員会

委員長	松井 三郎	公益財団法人 国際湖沼環境委員会 評議員	小林 弘文	茨城町 副町長
副委員長	福島 武彦	茨城県霞ヶ浦環境科学センター長	小林 由士郎	チャレンジ いばらき 県民運動 専務理事
	中村 正久	公益財団法人 国際湖沼環境委員会 副理事長	五頭 英明	土浦市 副市長
委員	阿部 薫	国立研究開発法人 農研機構 農業環境変動研究センター 物質循環研究領域長	齋藤 章	茨城県 県民生活環境部長
	飯野 哲雄	つくば市 副市長	佐藤 寿延	国土交通省 関東地方整備局 河川部長
	市木 繁和	公益財団法人 国際湖沼環境委員会 事務局長	塩屋 俊一	農林水産省 関東農政局 農村振興部長
	市村 和男	世界湖沼会議市民の会 '18 会長	田尻 充	水戸市 副市長
	今井 章雄	国立研究開発法人 国立環境研究所 フェロー、琵琶湖分室長	寺門 利幸	鉾田市 副市長
	内海 真生	国立大学法人 筑波大学 生命環境系 准教授	中川 一郎	農林水産省 大臣官房政策課環境政策室 環境政策室長
	小野 芳朗	公益社団法人 日本水環境学会 会長 国立大学法人 京都工芸繊維大学教授・副学長	中村 玲子	ラムサールセンター 事務局長
	香川 眞	流通経済大学 名誉教授	日野 浩二	独立行政法人 水資源機構 ダム事業本部 ダム事業部長
	萱場 祐一	国立研究開発法人 土木研究所 水環境研究グループ長	光成 政和	国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長
	熊谷 和哉	環境省 水・大気環境局 水環境課長	山野 博哉	国立研究開発法人 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター長
	黒田 久雄	国立大学法人 茨城大学 農学部地域総合農学科 教授	横瀬 典生	かすみがうら市 副市長

○旧委員等

森川 幹夫	国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長 (当時)	堤 義雄	大好き いばらき 県民会議 専務理事 (当時)
渡邊 康正	環境省 水・大気環境局 水環境課長 (当時)	石崎 順	鉾田市 副市長 (当時)
大友 哲也	農林水産省 大臣官房参事官 (当時)	朝堀 泰明	国土交通省 関東地方整備局 河川部長 (当時)
神矢 弘	独立行政法人 水資源機構 ダム事業本部 ダム事業部長 (当時)	小俣 篤	国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長 (当時)
小林 稔	国土交通省 関東地方整備局 河川部長 (当時)	古米 弘明	公益社団法人 日本水環境学会 会長 (当時) 国立大学法人 東京大学大学院 工学系研究科 附属水環境制御研究センター 教授
近藤 慶一	茨城県生活環境部長 (当時)		
酒井 和二	茨城町 副町長 (当時)		

(3) 分科会運営委員会

委員長	福島 武彦	茨城県霞ヶ浦環境科学センター長	田中 宏明	京都大学大学院工学研究科附属流域圏 総合環境質研究センター教授
委員	天野 邦彦	国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部長	中村 正久	公益財団法人 国際湖沼環境委員会 副理事長
	今井 章雄	国立研究開発法人 国立環境研究所 フェロー、琵琶湖分室長	古米 弘明	東京大学大学院工学系研究科附属 水環境制御研究センター教授
	小川 かほる	小川かほる環境教育事務所代表	山野 博哉	国立研究開発法人 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター長
	香川 眞	流通経済大学名誉教授		
	黒田 久雄	茨城大学農学部地域総合農学科教授		

(4) 分科会検討部会

第1分科会

部会長	山野 博哉	国立研究開発法人 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター長
	傳田 正利	国立研究開発法人 土木研究所水環境研究 グループ河川生態チーム主任研究員
	西廣 淳	東邦大学理学部生命圏環境科学科准教授
	馬淵 浩司	国立研究開発法人 国立環境研究所 琵琶湖分室主任研究員
	吉田 丈人	東京大学総合文化研究科准教授

第2分科会

部会長	天野 邦彦	国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部長
	梅田 信	東北大学大学院工学研究科准教授
	小栗 幸雄	国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦 河川事務所副所長
	片岡 稔温	独立行政法人 水資源機構根川下流 総合管理所環境課長
	矢島 啓	島根大学研究・学術情報機構エスチュアリー 研究センター教授、副センター長

第3分科会

部会長	今井 章雄	国立研究開発法人 国立環境研究所 フェロー、琵琶湖分室長
	内海 真生	筑波大学生命環境系准教授
	苅部 甚一	近畿大学工学部化学生命工学科講師
	高津 文人	国立研究開発法人 国立環境研究所地域 環境研究センター湖沼・河川研究室長
	早川 和秀	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 総合解析部門副部門長

第4分科会

部会長	香川 眞	流通経済大学名誉教授
	田夔 健太郎	流通経済大学大学院スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学研究科教授
	永井 博	茨城県立歴史館史科学芸部長
	永野 聡	立命館大学産業社会学部准教授
	沼澤 篤	一般社団法人 霞ヶ浦市民協会研究顧問
	楊 平	滋賀県立琵琶湖博物館主任学芸員
	若月 博延	金城大学短期大学部ビジネス実務学科 准教授

第5分科会

部会長	黒田 久雄	茨城大学農学部地域総合農学科教員
	江口 定夫	国立研究開発法人 農研機構農業環境変動 研究センター物質循環研究領域 水質影響評価ユニット長
	久保田 富次郎	国立研究開発法人 農研機構農村工学 研究部門地域資源工学研究領域 水文水資源ユニット長

○旧委員

第6分科会

萱場 祐一	国立研究開発法人土木研究所 水環境研究グループ自然共生センター 上席研究員 / 自然共生センター長 (当時)
-------	--

仁科 一哉	国立研究開発法人 国立環境研究所地域環 境研究センター土壌環境研究室 主任研究員
-------	--

山岡 賢	国立研究開発法人 農研機構農村工学 研究部門 水利工学研究領域水域環境ユニット長
------	--

第6分科会

部会長	田中 宏明	京都大学大学院工学研究科附属流域圏 総合環境質研究センター教授
	圓佛 伊智朗	株式会社 日立製作所研究開発グループ 日立研究所制御イノベーションセンタ 主管研究員
	田尾 博明	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 四国センター所長
	中野 伸一	京大学生態学研究センター教授
	中村 圭吾	国立研究開発法人 土木研究所 水環境研究グループ上席研究員、 自然共生研究センター長
	松下 文経	筑波大学生命環境系准教授

第7分科会

部会長	古米 弘明	東京大学大学院工学系研究科附属 水環境制御研究センター教授
	春日 郁朗	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 都市環境工学講座水環境制御研究室准教授
	小松 一弘	国立研究開発法人 国立環境研究所 地域環境研究センター湖沼・河川環境研究室 主任研究員
	田中 仁志	埼玉県環境科学国際センター水環境担当 担当部長
	藤田 昌史	茨城大学大学院理工学研究科 都市システム工学領域准教授

第8分科会

部会長	小川 かほる	小川かほる環境教育事務所代表
	井手 慎司	滋賀県立大学環境科学部 環境政策・計画学科教授
	及川 ひろみ	認定 NPO 法人穴塚の自然と歴史の会 理事長
	川嶋 宗継	滋賀大学名誉教授
	原田 泰	NPO 法人霞ヶ浦アカデミー理事

第9分科会

部会長	中村 正久	公益財団法人 国際湖沼環境委員会 副理事長
	遠藤 功	公益財団法人 地球環境戦略研究機関 フェロー
	平山 奈央子	滋賀県立大学環境科学部 環境政策・計画学科助教
	和田 桂子	公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構 琵琶湖・淀川水質浄化研究所副所長
	Victor Shiholo Muhandiki	名古屋大学リーディング大学院推進機構本 部共通業務実施部門特任教授

(5) 霞ヶ浦セッション委員会

委員長	福島 武彦	茨城県霞ヶ浦環境科学センター センター長	滝下 利男	世界湖沼会議市民の会 '18 副会長
委員	薄井 征記	霞ヶ浦漁業協同組合 代表理事組合長	辰野 剛志	国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所 所長
	内海 真生	国立大学法人 筑波大学生命環境系 准教授	廣原 正則	かすみがうら市 市民部 生活環境課 課長
	海老澤武美	きたうら広域漁業協同組合 代表理事組合長	深谷伊知郎	茨城県農業協同組合中央会専務理事
	熊谷 和哉	環境省 水・大気環境局 水環境課 課長	松崎慎一郎	国立研究開発法人 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 主任研究員
	小林 富夫	農林水産省 関東農政局 生産部 生産技術環境課 課長	水田 和広	土浦市 市民生活部 環境保全課 課長
	佐野 元彦	公益社団法人茨城県畜産協会 専務理事	吉川 宏治	国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川環境課 課長
	菅谷 吉弘	銚田市 市民部 生活環境課 課長		
	鈴木 幸雄	茨城産業会議 (かすみがうら市商工会 (副会長))		

○旧委員

影山 希世	国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川環境課長 (当時)	土子 智之	銚田市 市民部 生活環境課長 (当時)
田崎 守一	かすみがうら市 環境経済部 環境保全課長 (当時)	渡邊 康正	環境省 水・大気環境局 水環境課長 (当時)

(6) 湖沼セッション委員会

委員長	福島 武彦	茨城県霞ヶ浦環境科学センター センター長	高津 文人	国立研究開発法人 国立環境研究所 地域環境研究センター 湖沼・河川環境研 究室 室長
委員	阿部 薫	国立研究開発法人 農研機構 農業環境変動研究センター 物質循環研究 領域 領域長	小松 直樹	滋賀県 理事
	井手 慎司	公立大学法人 滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科 教授	徐 開欽	国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 主席研究員
	今井 章雄	国立研究開発法人 国立環境研究所 琵琶湖分室 フェロー分室長	中村 玲子	ラムサールセンター 事務局長
	大谷美恵子	チャレンジいばらき県民運動 事務局長	林 栄一	水戸市 生活環境部 環境課 課長
	萱場 祐一	国立研究開発法人 土木研究所 水環境研究グループ グループ長	舟橋 弥生	国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 河川環境保全調整官
	熊谷 和哉	環境省 水・大気環境局 水環境課 課長	山口 浩	千葉県 県土整備部 河川環境課 課長
	黒田 貢	茨城町 生活経済部 みどり環境課 課長	吉川 宏治	国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川環境課 課長

○旧委員

赤津 康明	大好きいばらき県民会議 事務局長 (当時)	森 吉尚	国立研究開発法人 土木研究所 水環境研究グループ長 (当時)
影山 希世	国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川環境課長 (当時)	渡邊浩太郎	千葉県 県土整備部 河川環境課長 (当時)
勝山 利治	茨城町 生活経済部 みどり環境課長 (当時)	渡邊 康正	環境省 水・大気環境局 水環境課長 (当時)
		奥田 晃久	国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長 (当時)

(7) サテライト会場連絡調整委員会

委員長	栗田 茂樹	茨城県県民生活環境部環境対策課長	小池 聖彦	国土交通省関東地方整備局 霞ヶ浦導水工事事務所副所長
委員	阿部 彰	世界湖沼会議市民の会'18 副会長 (一般社団法人 霞ヶ浦市民協会, 土浦市 担当)	高橋 正道	世界湖沼会議市民の会'18 副会長 (水戸市環境保全会議, 水戸市担当)
	飯塚 敏夫	世界湖沼会議市民の会'18 副会長 (かすみがうら市家庭排水浄化推進協議会, かすみがうら市担当)	廣原 正則	かすみがうら市民部生活環境課長
	大曾根 政幸	世界湖沼会議市民の会'18 副会長 (世界湖沼会議北浦北部地域推進会議, 鉾田市担当)	菅谷 吉弘	鉾田市市民部生活環境課長
	黒田 貢	茨城町生活経済部みどり環境課長	林 栄一	水戸市生活環境部環境課長
	小栗 幸雄	国土交通省関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所副所長	水田 和広	土浦市市民生活部環境保全課長
			八木 昭稔	国土交通省関東地方整備局 常陸河川国道事務所副所長
			谷萩 八重子	世界湖沼会議市民の会'18 副会長 (クリーンアップひぬまネットワーク, 茨城町担当)

(8) 学生会議委員会

委員長	桑名 美恵子	茨城県県民生活環境部次長	陶 慶一	茨城県学校長会 (水戸市立飯富小学校校長)
委員	阿部 治	立教大学社会学部・同大学院教授	田代 淳一	茨城県私学協会 (茗溪学園中学校高等学校校長)
	市木 繁和	公益財団法人 国際湖沼環境委員会 事務局長	西川 朗	滋賀県教育委員会高校教育課長
	内海 真生	筑波大学生命環境系准教授	沼田 安広	株式会社 茨城新聞社常務取締役
	川嶋 宗継	滋賀大学名誉教授	原口 弥生	茨城大学人文社会科学部教授
	川松 秀夫	茨城県高等学校長協会 (茨城県立下館第一高等学校校長)		

(9) 学生会議審査部会

委員長	桑名 美恵子	茨城県県民生活環境部次長	濱田 元	茨城県高等学校文化連盟自然科学部 (茨城県立水海道第一高等学校教諭)
委員	赤羽 岳彦	茨城県教育研究会理科教育研究部 (つくば市立谷田部中学校教諭)	原口 弥生	茨城大学人文社会科学部教授
	阿部 治	立教大学社会学部・同大学院教授	久松 正樹	環境省環境カウンセラー (取手市立山王小学校校長, 前茨城県自然博物館資料課長)
	潮田 好弘	茨城県教育研究会理科教育研究部 (古河市立総和北中学校教諭)	細田 直人	茨城県霞ヶ浦環境科学センター係長
	川嶋 宗継	滋賀大学名誉教授	松田 征也	滋賀県琵琶湖博物館環境学習センター 所長
	仲間 伸彦	滋賀県教育委員会事務局高校教育課主査	三輪 俊一	茨城県霞ヶ浦環境科学センター主査
	名和 俊之	茨城県高等学校文化連盟自然科学部 (茨城県立荃崎高等学校教諭)	山口 博之	環境省環境カウンセラー (NPO 法人エコレン理事長)
	八田 佳奈	公益財団法人 国際湖沼環境委員会主事		

(10) いばらき霞ヶ浦宣言起草委員会

委員長	松井 三郎	公益財団法人 国際湖沼環境委員会 評議員	福島 武彦	茨城県霞ヶ浦環境科学センター長
委員	内海 真生	筑波大学生命環境系准教授	松本 周一	茨城県県民生活環境部霞ヶ浦浄化対策監
	中村 正久	公益財団法人 国際湖沼環境委員会 副理事長		

(11) 企画準備委員会

(平成29年2月10日現在)

松井 三郎	公益財団法人国際湖沼環境委員会 (ILEC) 評議員	黒田 久雄	茨城大学 農学部地域環境科学科 教授
相崎 守弘	茨城県霞ヶ浦環境科学センター長	小林 宣夫	茨城町長 (ラムサール条約登録湿地ひぬまの会)
朝堀 泰明	国土交通省 関東地方整備局 河川部長	中川 清	土浦市長 (霞ヶ浦問題協議会)
五十嵐立青	つくば市長	福島 武彦	筑波大学大学院 生命環境科学研究科 教授
市木 繁和	公益財団法人国際湖沼環境委員会 (ILEC) 事務局長	森 吉尚	土木研究所 水環境研究グループ長
市村 和男	一般社団法人霞ヶ浦市民協会 理事長	山野 博哉	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター長 兼生物多様性保全計画研究室長
今井 章雄	国立環境研究所 地域環境研究センター長	渡邊 康正	環境省 水・大気環境局 水環境課長
今関 裕夫	茨城県生活環境部長		
小俣 篤	国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長		

○旧委員

市原 健一	つくば市長 (当時)	二村 英介	環境省 水・大気環境局 水環境課長 (当時)
池田 茂	土木研究所 水環境研究グループ長 (当時)	光成 政和	国土交通省 関東地方整備局 河川部長 (当時)
小野 嘉久	茨城県生活環境部長 (当時)		

(12) 実行委員会事務局

事務局長 齋藤 章	茨城県県民生活環境部長	齋藤 学	茨城県県民生活環境部環境対策課 主査
事務局長代理 桑名 美恵子	茨城県県民生活環境部次長 (環境担当)	野口 智子	茨城県県民生活環境部環境対策課 係長
松本 周一	茨城県県民生活環境部霞ヶ浦浄化対策監	小沼 直樹	茨城県県民生活環境部環境対策課 係長
事務局次長 栗田 茂樹	茨城県県民生活環境部環境対策課長	細井 寛文	茨城県県民生活環境部環境対策課 主任
事務局次長代理 鈴木 紀一	茨城県県民生活環境部環境対策課世界湖沼会議準備室長	小田 直哉	茨城県県民生活環境部環境対策課 主任
事務局員 小松崎 園子	茨城県県民生活環境部環境対策課 課長補佐	永井 美紗	茨城県県民生活環境部環境対策課 主事
湯澤 美由紀	茨城県県民生活環境部環境対策課 主査	永松 香織	茨城県県民生活環境部環境対策課 嘱託

○会期前在職者

事務局長 今関 裕夫	(2017年3月29日～2017年3月31日)	事務局次長 桑名 美恵子	(2017年3月29日～2018年3月31日)
近藤 慶一	(2017年4月1日～2018年3月31日)	事務局員 雨谷 美穂子	(2017年4月1日～2018年3月31日)
事務局長代理 三好 隆	(2017年3月29日～2017年3月31日)	中山 知之	(2017年4月1日～2018年3月31日) ※土浦市から派遣
赤林 泰寛	(2017年4月1日～2018年3月31日)	山田 功	(2017年11月1日～2018年3月31日)
野尻 智治	(2017年9月26日～2018年3月31日)		

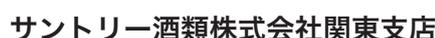
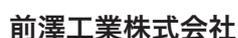
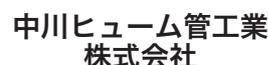
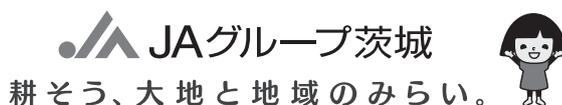
協賛企業・団体のご紹介

(平成30年8月31日現在)

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）は、以下の企業、団体のご支援をいただきました。

HITACHI

Inspire the Next



鹿島都市開発株式会社	鹿島埠頭株式会社	鹿島臨海鉄道株式会社
日立セメント株式会社	株式会社あおぞら	株式会社潮来工機
株式会社エコイノベーション	株式会社カツタ	神栖商事有限公司
関東鉄道株式会社	黒沢産業株式会社	JX金属株式会社日立事業所
JFE条鋼株式会社 東日本工場鹿島製造所	株式会社昭栄	新和企業有限公司
水ing株式会社	有限会社大進エンジニアリング	高野工業株式会社
高橋商事株式会社	株式会社日昇つくば	有限会社沼田クリーンサービス
百里開発株式会社	有限会社プライムクリエイト	株式会社フルヤ建商
八幡碎石工業株式会社	株式会社やまたけ	吉江総業有限公司
株式会社リサイクルパーク	いばらきコープ生活協同組合	NC東日本 コンクリート工業株式会社
国際ロジテック株式会社	中山商事株式会社	三菱電機プラント エンジニアリング株式会社

助成団体のご紹介

(平成30年度)

第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)は以下の団体から助成を受けました。



河川
基金

公益財団法人
本田記念財団

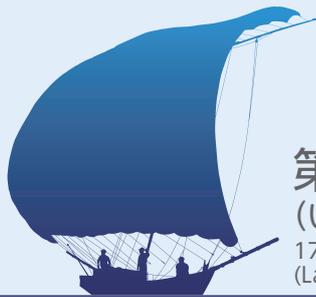
一般社団法人
関東地域づくり協会





第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018) 開催報告書
2019年3月

発行 第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)実行委員会



第17回世界湖沼会議
(いばらき霞ヶ浦2018)
17th World Lake Conference
(Lake Kasumigaura, Ibaraki, Japan, 2018)